
庄原市 男女共同参画に関する 市民アンケート調査

－ 報告書 －

令和3年10月
広島県 庄原市

～ 目 次 ～

I 調査の概要	1
II 回答者の属性	2
III 調査結果	11
【1】男女の役割分担と平等意識について	11
1 家庭生活と男女の役割について	11
2 男女の平等意識	15
【2】職業生活について	20
1 就労状況	20
2 仕事の内容や待遇面での男女差	21
3 女性の働きやすさ	23
4 退職の経験	24
5 退職の理由	26
6 再就職の経験	28
7 育児休業や介護休業の取得状況	30
8 望ましい女性の働き方	32
9 仕事と生活を両立するために必要な支援	34
【3】家庭生活について	36
1 家庭内の仕事の分担について	36
2 男性が家事等に積極的に参加していくために必要なこと	39
3 感染症拡大による生活への影響	40
【4】地域活動について	52
1 地域活動への参加状況	52
2 防災・災害復興対策で強化すべき女性に関する取組	55
【5】暴力等の防止について	56
1 各種ハラスメントに関する経験	56
2 暴力の認識	60
3 DVの経験	63
4 DVに関する相談状況	65
5 DVをなくすために必要な取組	67
【6】男女共同参画の取組について	68
1 セミナーやイベント等の認知状況	68
2 セミナーやイベント等への参加意向	70
3 男女共同参画に関する用語の認知状況	71
4 男女共同参画の推進に行政が力を入れるべきこと	74
【7】自由記述回答集約結果	76
資料 調査票	86

I 調査の概要

【調査の目的】

本調査は、「第2次庄原市男女共同参画プラン」の見直しに当たって、市民の男女共同参画に関する意識や実態、問題点や意見等を把握し、今後の計画づくりのための基礎資料とすることを目的として実施した。

【調査対象】

18歳以上の市民

【調査方法】

郵送配布～郵送回収

【調査期間】

令和3年7月

【回収結果】

配布数----- 2,000 件

有効回収数----- 679 件

有効回収率----- 34.0%

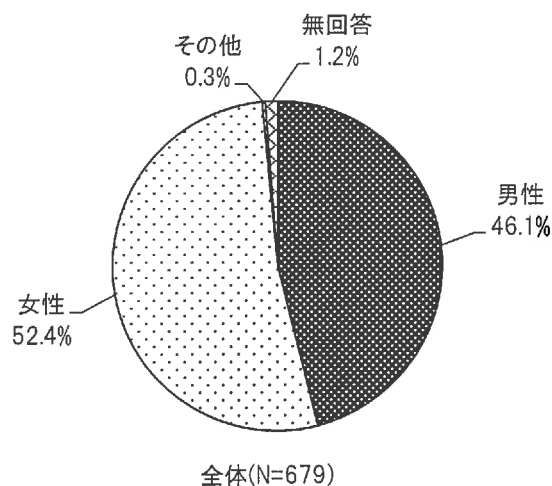
【報告書の見方について】

- (1) 集計は小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- (2) 2つ以上の回答を可能とした（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- (3) 数表、図表、文中に示すNは、比率算出上の基数（標本数）である。全標本数を示す「全体」を「N」、「該当数」を「n」で表記している。
- (4) 図表中における年齢別などのクロス集計結果については、該当する属性等の設問に対する無回答者（例えば、年齢別でクロス集計する場合における年齢の無回答者）を除いて表記しているため、属性ごとの基数の合計と全体の基数は同じにならない場合がある。
- (5) 図表中においては見やすさを考慮し、回答割合が極端に少ない数値（例：0.0%、0.1%など）は、図と干渉して見えにくい場合などに省略している場合がある。また、複数回答の図表中においては、見やすさを考慮し、回答割合の高い順に並べ替えて表記している場合がある。
- (6) 設問によっては、平成28年に実施された同調査との比較を行っている（時系列推移）。その際、図表等の表記は平成28年調査を「前回調査」と略記している。また、「広島県政世論調査（令和2年実施）」（図表等では「広島県」と表記）及び国の「男女共同参画社会に関する世論調査（令和元年実施）」（図表等では「国」と表記）との比較を行っている。
- (7) この他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜記載した。

Ⅱ 回答者の属性

1 性別構成

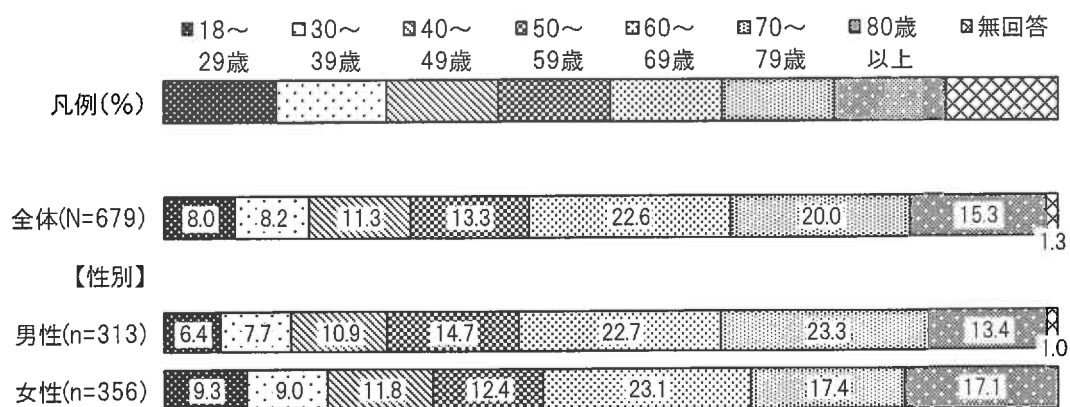
回答者の性別構成比は、「男性」が 46.1%、「女性」が 52.4%と、女性の割合が男性を上回っている。



2 年齢別構成

年齢別構成は、「60～69 歳」の割合が 22.6%と最も高く、次いで「70～79 歳」(20.0%)、「80 歳以上」(15.3%)が続いており、『60 歳以上 (合計)』で全体の約 6 割 (57.9%)を占めている。

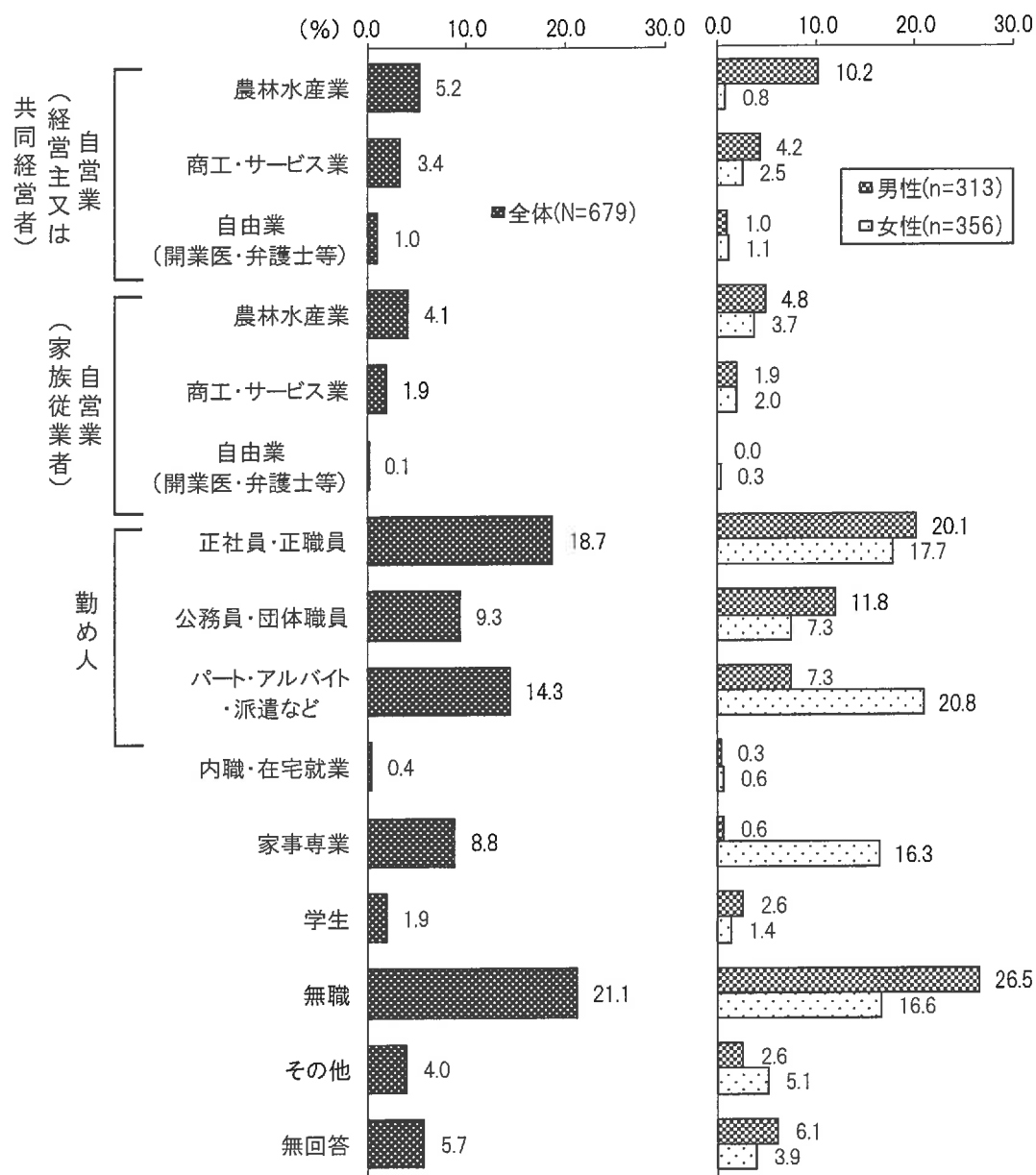
性別では、男性は女性に比べ「70～79 歳」の割合が高くなっている。



3 職業別構成

職業別構成については、「無職」の割合が21.1%と最も高く、次いで「正社員・正職員」(18.7%)、「パート・アルバイト・派遣など」(14.3%)の順となっている。

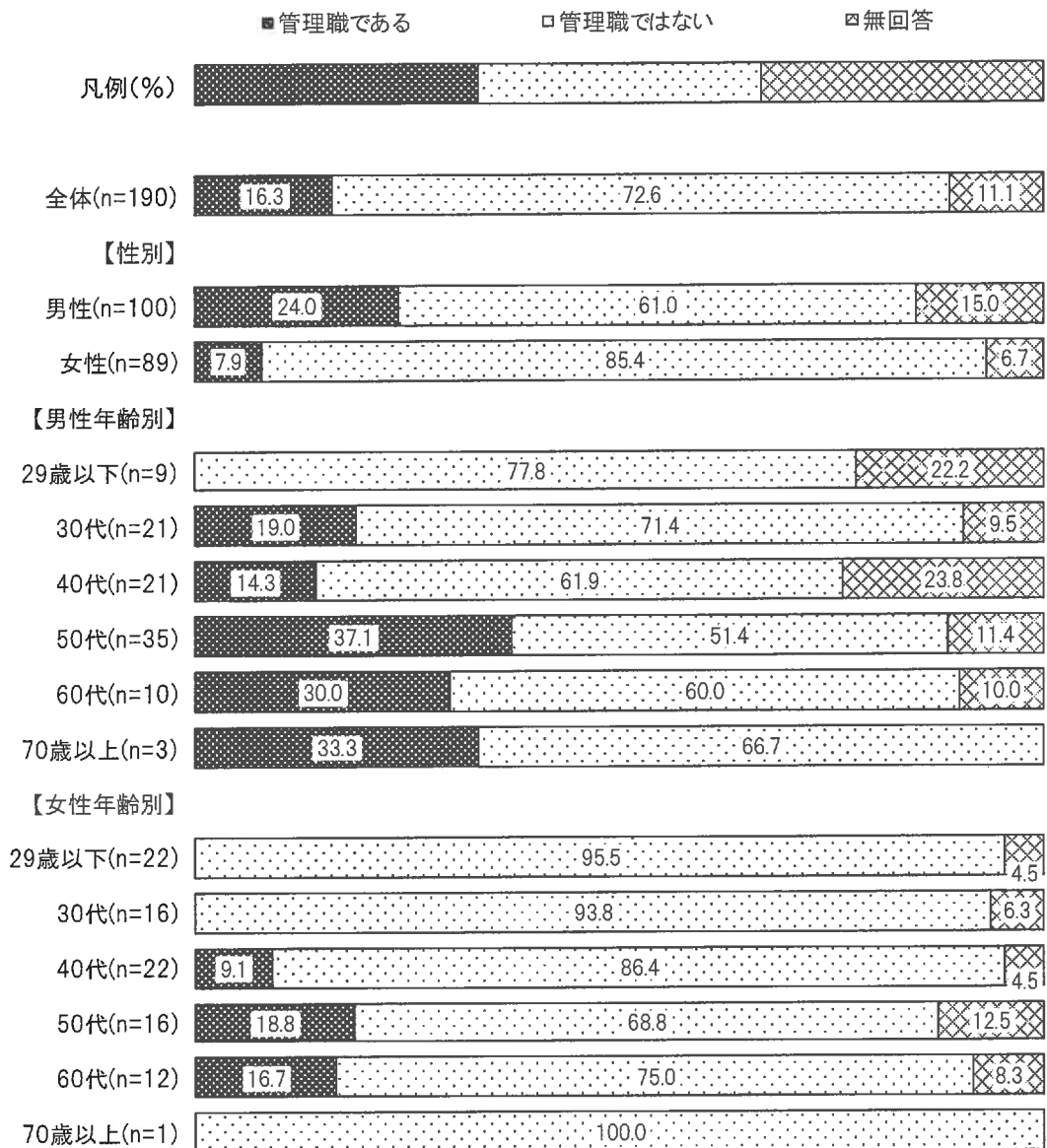
性別では、男性は女性に比べ「農林水産業」「無職」などの割合が高く、女性は「パート・アルバイト・派遣など」「家事専業」の割合が男性を大きく上回っている。



4 管理職

管理職については、「管理職である」が16.3%、「管理職ではない」が72.6%となっている。「管理職である」の割合は、男性が24.0%と、女性の7.9%を大きく上回っている。

年齢別では、男性の50～60代で「管理職である」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。



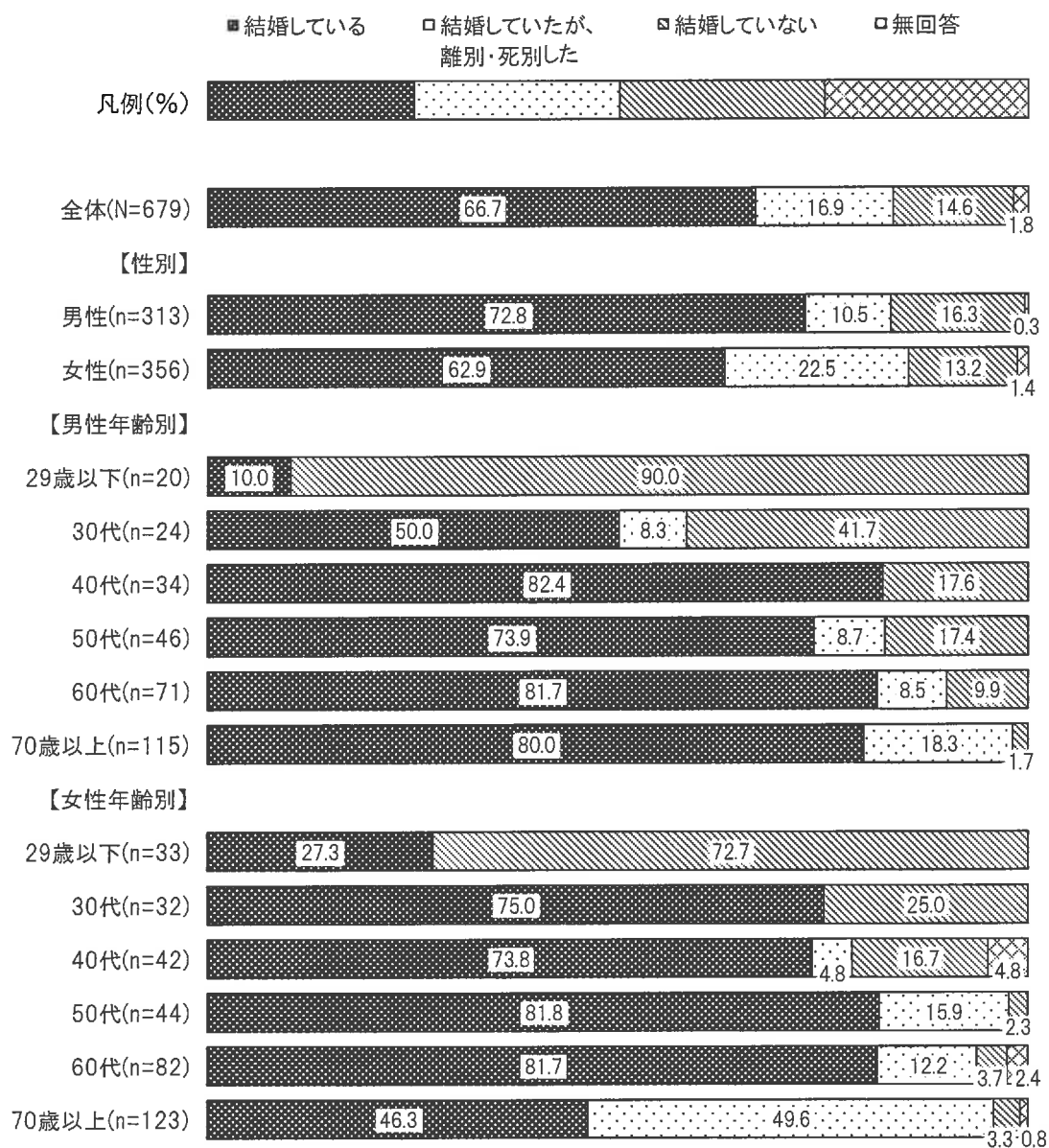
注：件数(n)が10未満の項目については、参考値として参照

5 未既婚

未既婚については、「結婚している」の割合が66.7%、「結婚していない」が14.6%であった。また、「結婚していたが、離別・死別した」は16.9%となっている。

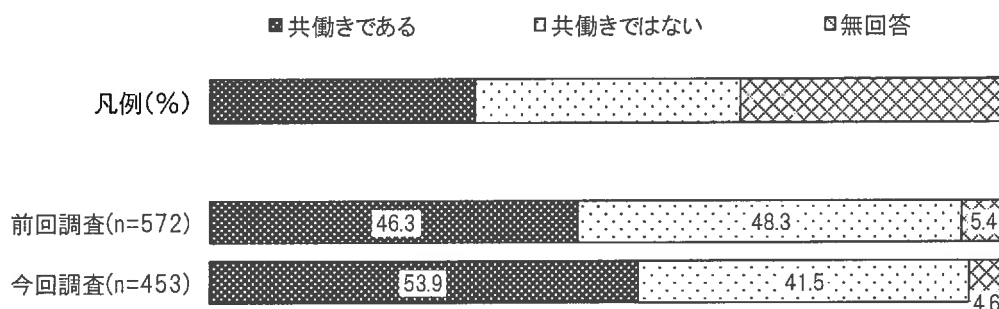
性別では、男性は女性に比べ「結婚している」の割合が高く、女性は「結婚していたが、離別・死別した」の割合が男性を大きく上回っている。

年齢別では、女性の70歳以上で「結婚していたが、離別・死別した」の割合が他の年齢層を大きく上回っている。



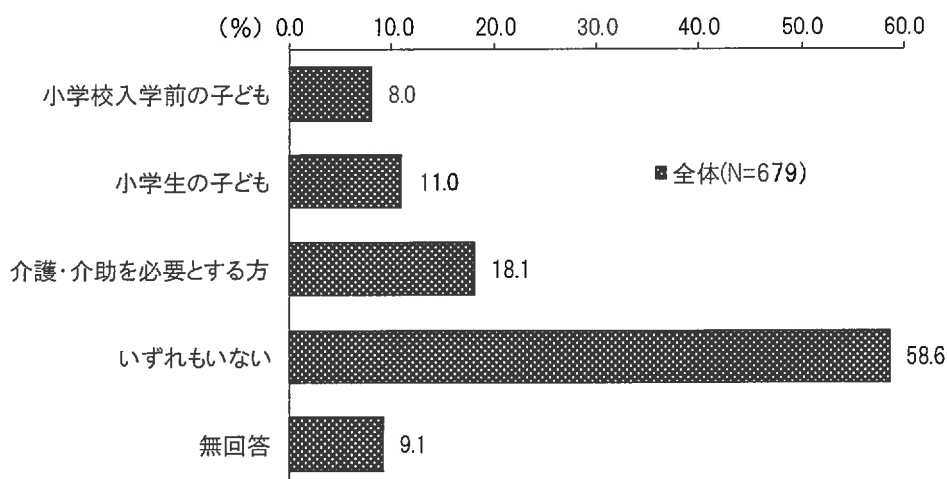
6 共働きの状況

共働きの状況については、「共働きである」が53.9%、「共働きではない」が41.5%となっている。前回調査結果と比べ、「共働きである」が増加した。



7 同居家族について

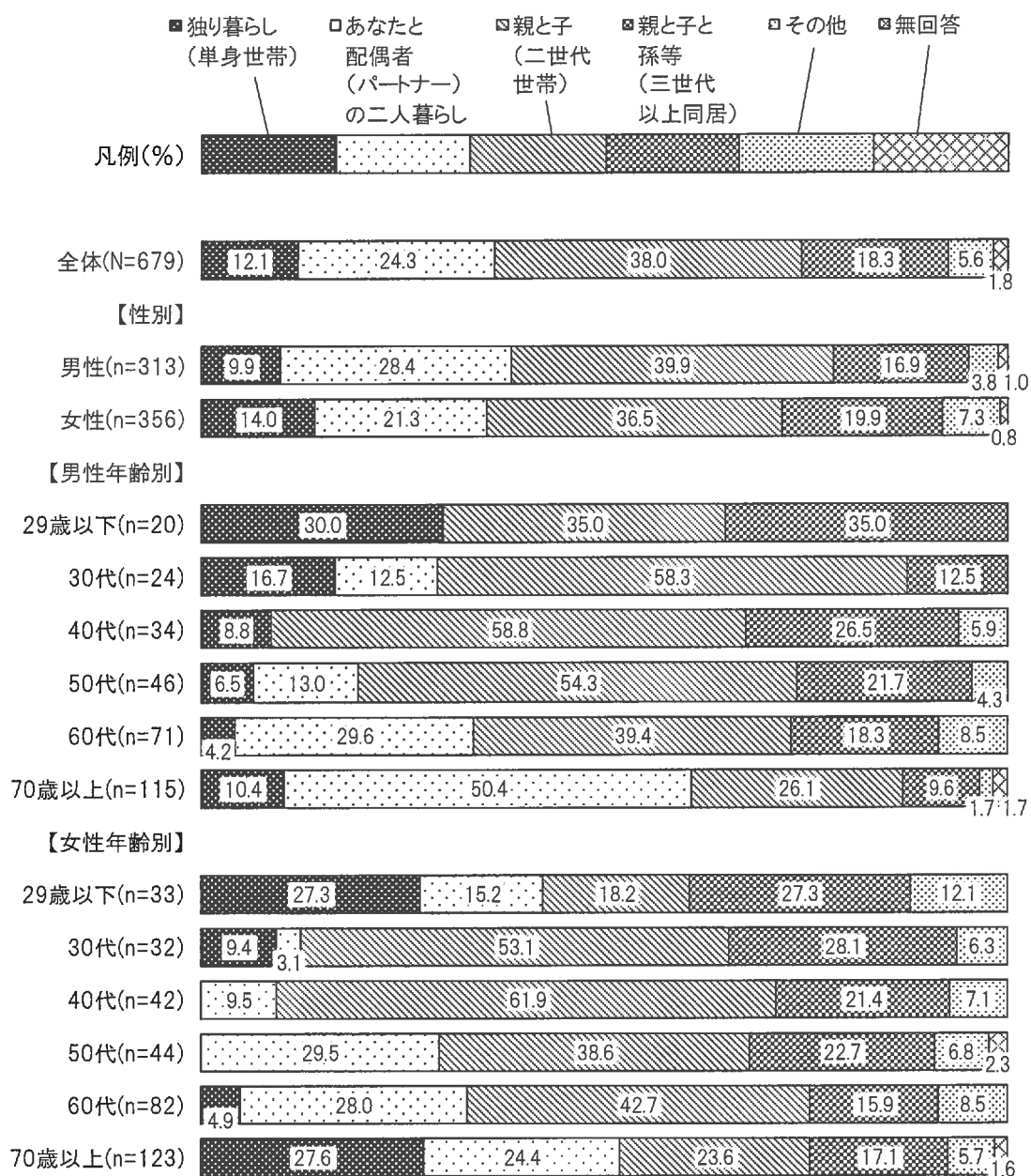
同居家族については、「いずれもない」の割合が58.6%と最も高く、次いで「介護・介助を必要とする方」(18.1%)、「小学生の子ども」(11.0%)、「小学校入学前の子ども」(8.0%)の順となっている。



8 同居家族の構成

同居家族の構成については、「親と子（二世世代世帯）」の割合が38.0%と最も高く、次いで「あなたと配偶者（パートナー）の二人暮らし」（24.3%）、「親と子と孫等（三世代以上同居）」（18.3%）の順となっている。

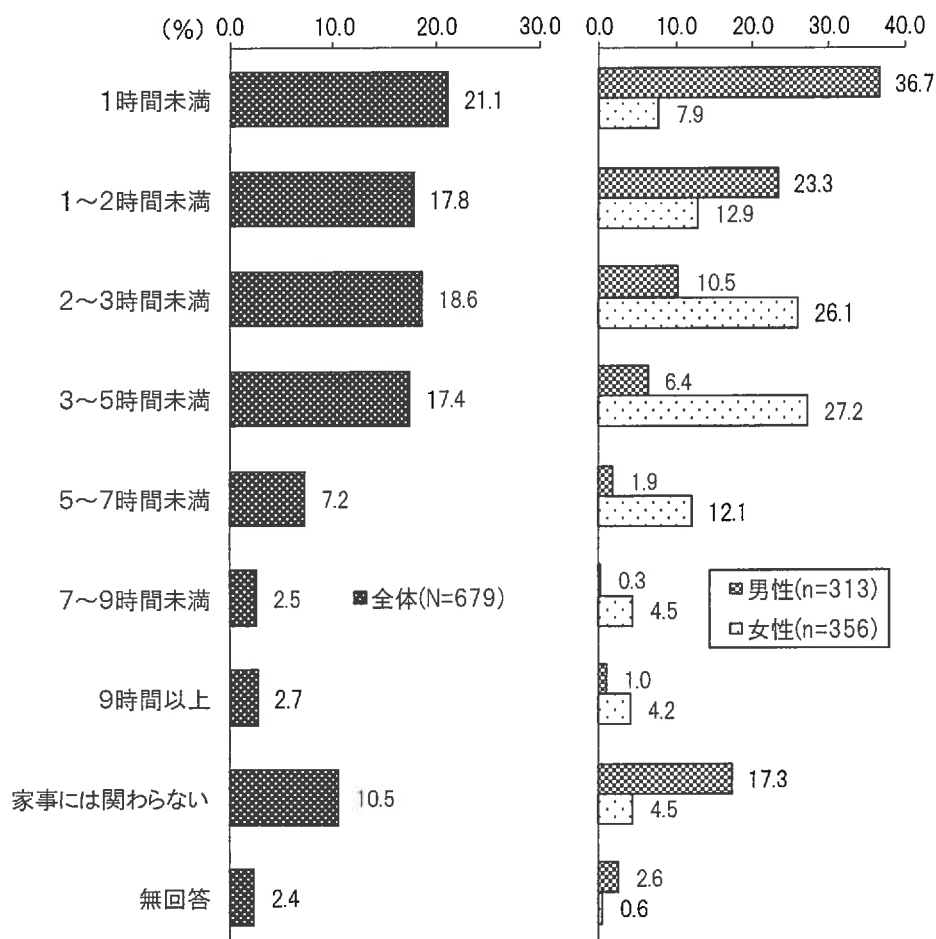
年齢別では、男女共に29歳以下や女性の70歳以上で「独り暮らし（単身世帯）」、男性の70歳以上で「あなたと配偶者（パートナー）の二人暮らし」の割合がそれぞれ他の年齢層を大きく上回っている。



9 1日に家事に費やす時間

1日に家事に費やす時間については、「1時間未満」の割合が21.1%と最も高く、次いで「2～3時間未満」（18.6%）、「1～2時間未満」（17.8%）の順となっている。

性別では、男性は「1時間未満」「1～2時間未満」「家事には関わらない」の割合が女性を大きく上回っており、女性は男性に比べ「2～3時間未満」「3～5時間未満」「5～7時間未満」の割合が高くなっている。



年齢別では、男性の50代で「1時間未満」、女性の29歳以下で「1時間未満」「1～2時間未満」、女性の50代で「3～5時間未満」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

単位 (%)	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～5時間未満	5～7時間未満	7～9時間未満	9時間以上	家事には関わらない
全体(N=679)	21.1	17.8	18.6	17.4	7.2	2.5	2.7	10.5
【男性年齢別】								
29歳以下(n=20)	40.0	30.0	10.0	5.0	0.0	0.0	0.0	15.0
30代(n=24)	29.2	29.2	16.7	4.2	4.2	0.0	0.0	12.5
40代(n=34)	32.4	32.4	11.8	2.9	0.0	0.0	0.0	17.6
50代(n=46)	50.0	19.6	8.7	4.3	2.2	0.0	0.0	15.2
60代(n=71)	33.8	31.0	11.3	7.0	0.0	1.4	0.0	14.1
70歳以上(n=115)	35.7	15.7	9.6	8.7	3.5	0.0	2.6	20.9
【女性年齢別】								
29歳以下(n=33)	39.4	24.2	15.2	9.1	6.1	0.0	6.1	0.0
30代(n=32)	6.3	15.6	18.8	34.4	12.5	3.1	9.4	0.0
40代(n=42)	2.4	19.0	28.6	31.0	14.3	2.4	2.4	0.0
50代(n=44)	2.3	6.8	31.8	40.9	13.6	2.3	2.3	0.0
60代(n=82)	0.0	14.6	29.3	26.8	15.9	7.3	4.9	1.2
70歳以上(n=123)	8.9	8.1	26.0	24.4	9.8	5.7	3.3	12.2

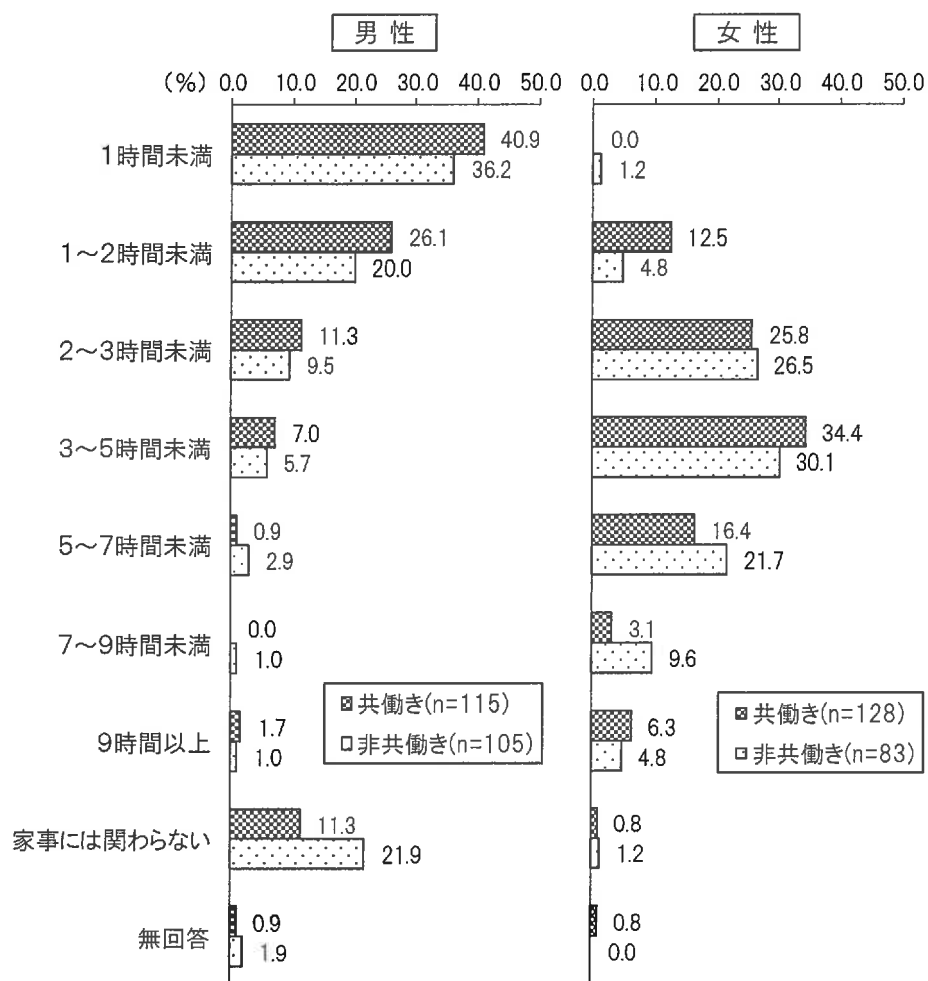
注：表中の「網掛け」は、各クロス集計（年齢別など）において最も高い割合を示している。

（例／年齢別の場合、最も割合が高い年齢層に網掛け）

但し、回答割合が10%未満の項目、n数が10未満の項目及び「その他」については網掛けしていない。

また「無回答」は表記から省略している。（本報告書においては、以下同様）

共働き別でみると、女性の共働きの人は共働きでない人に比べて「1～2時間未満」の割合が高く、共働きでない人は「5～7時間未満」「7～9時間未満」の割合が高くなっている。



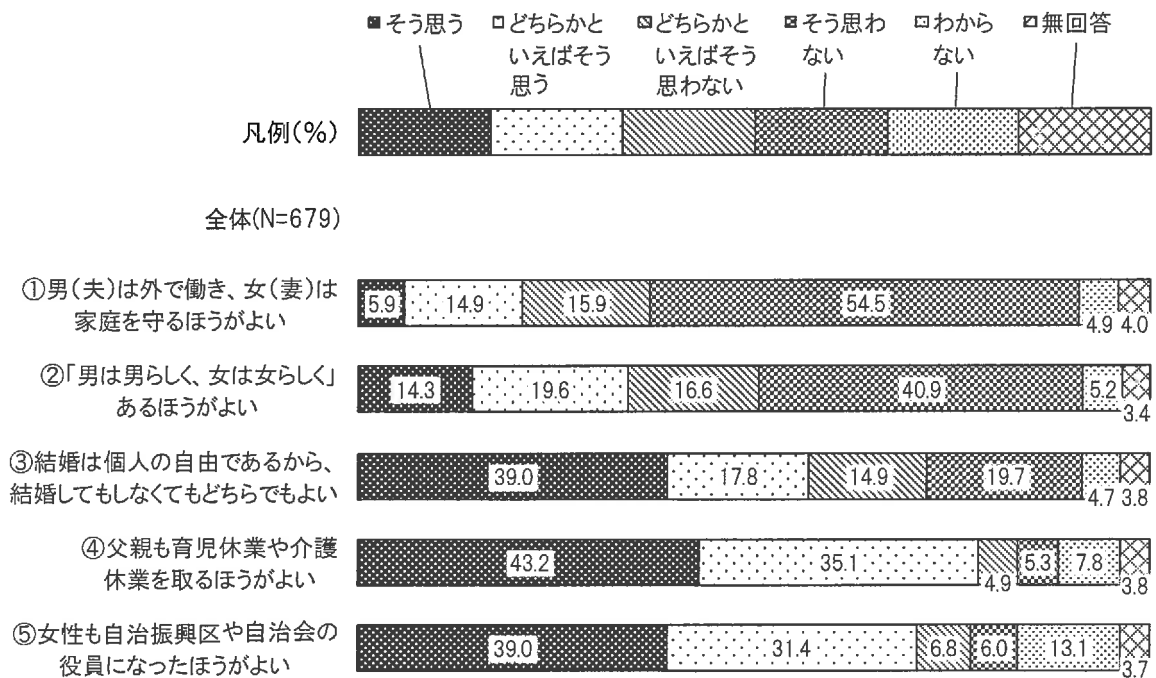
Ⅲ 調査結果

【1】男女の役割分担と平等意識について

1 家庭生活と男女の役割について

問9 あなたは、次の考え方について、どのように思いますか。（○印1つつ）

家庭生活と男女の役割については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計した『賛成意識』の割合が高い順に、「④父親も育児休業や介護休業を取るほうがよい」（78.3%）、「⑤女性も自治振興区や自治会の役員になったほうがよい」（70.4%）、「③結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」（56.8%）があげられる。一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合計した『反対意識』が高い順に、「①男（夫）は外で働き、女（妻）は家庭を守るほうがよい」（70.4%）、「②男は男らしく、女は女らしくあるほうがよい」（57.5%）となっている。

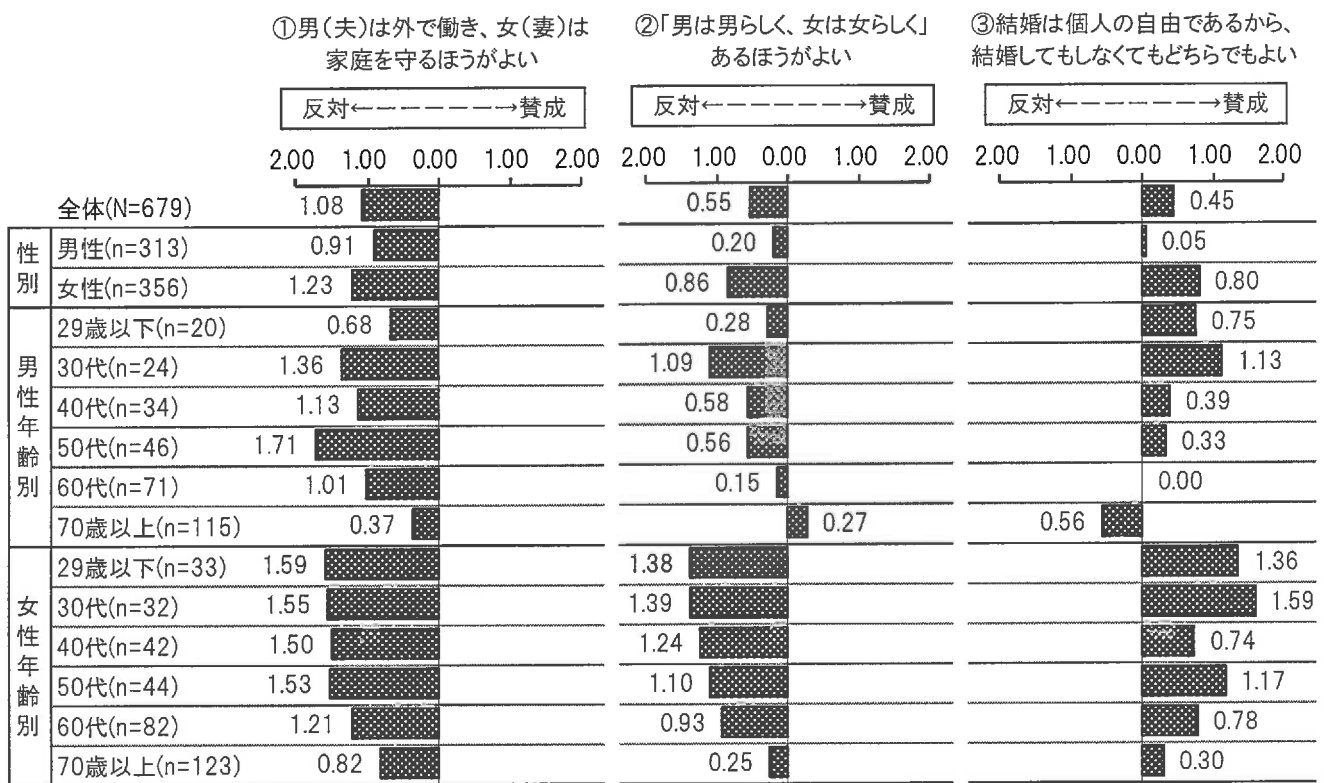


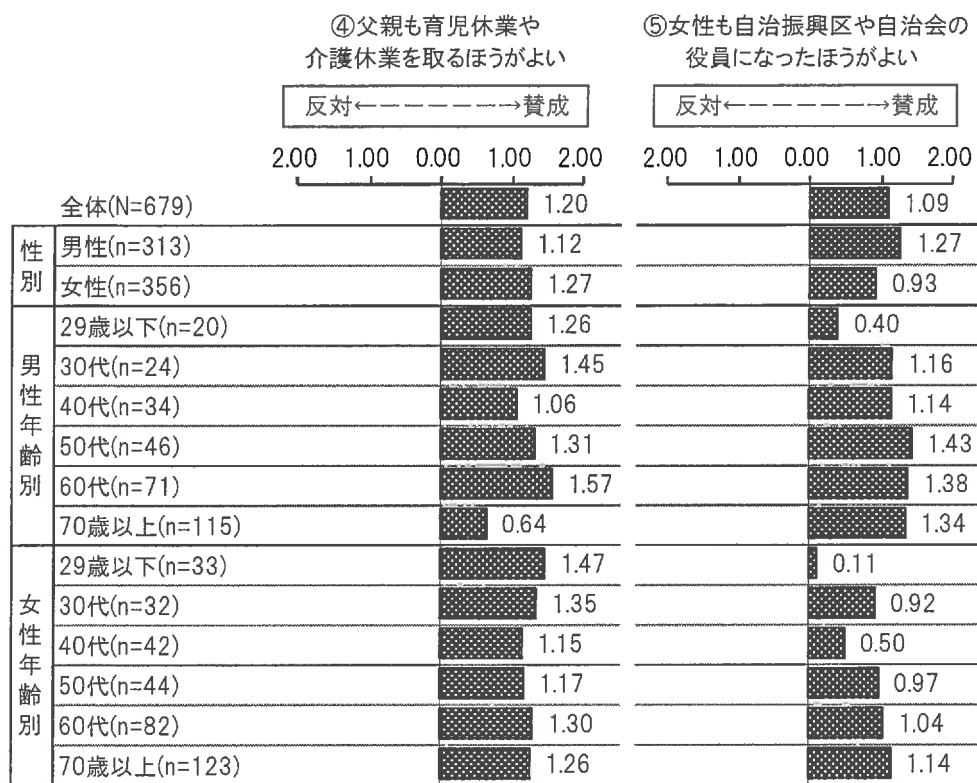
平均評定値*による属性別傾向をみると、女性は「②男は男らしく、女は女らしくあるほうがよい」で『反対意識』、「③結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」で『賛成意識』が男性を大きく上回っている。

年齢別では、男女共におおむね若い年齢層ほど「②男は男らしく、女は女らしくあるほうがよい」で『反対意識』、「③結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」で『賛成意識』がそれぞれ高くなっている。

※平均評定値

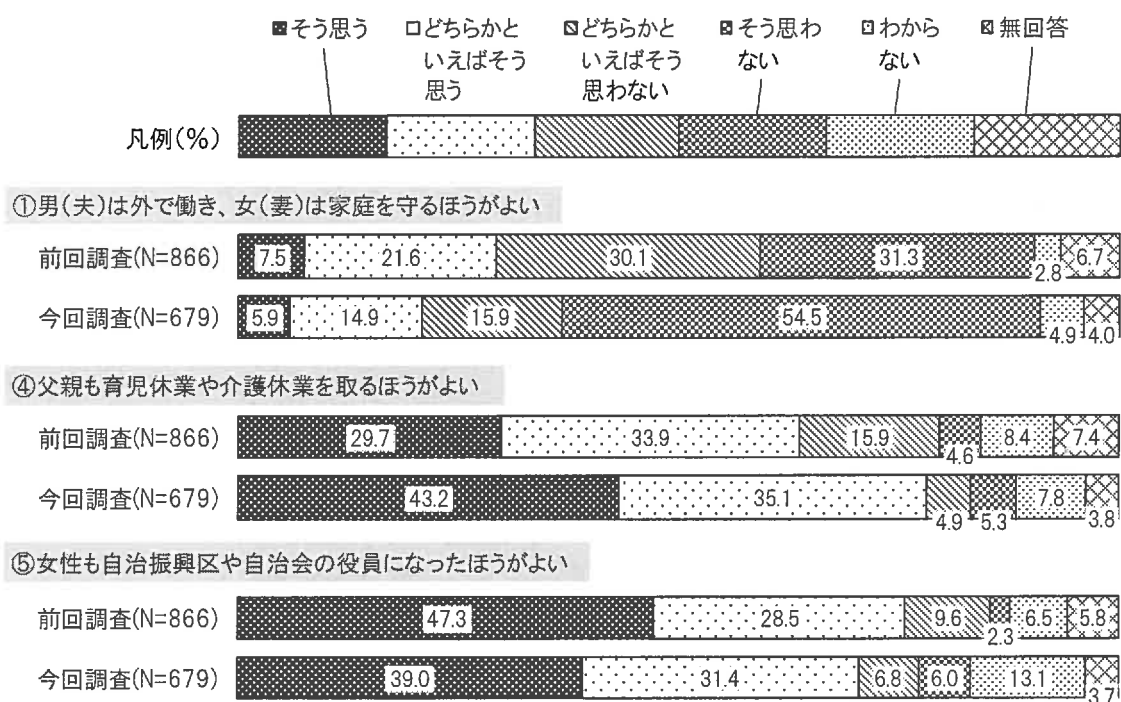
平均評定値とは、「そう思う」「そう思わない」に2点、「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」に1点の係数を、それぞれの回答件数に乘じ、加重平均して算出した値で、グラフ上では左側が反対、右側が賛成を示す指標である。





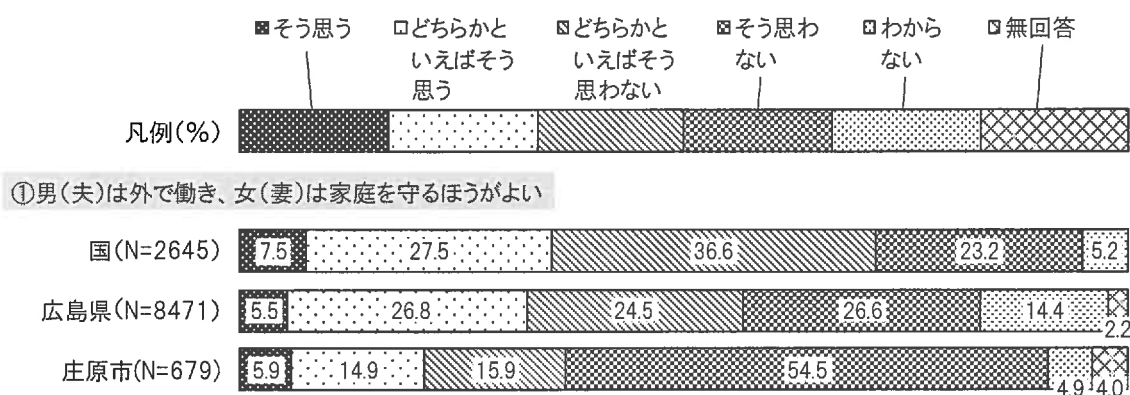
【時系列推移】

前回調査結果と比べ、「①男（夫）は外で働き、女（妻）は家庭を守るほうがよい」で「そう思わない」、「④父親も育児休業や介護休業を取るほうがよい」で「そう思う」がそれぞれ大きく増加した。



注：前回調査の質問では、④は「父親も育児休業を取るほうがよい」となっている。

【参考／国・広島県との比較】

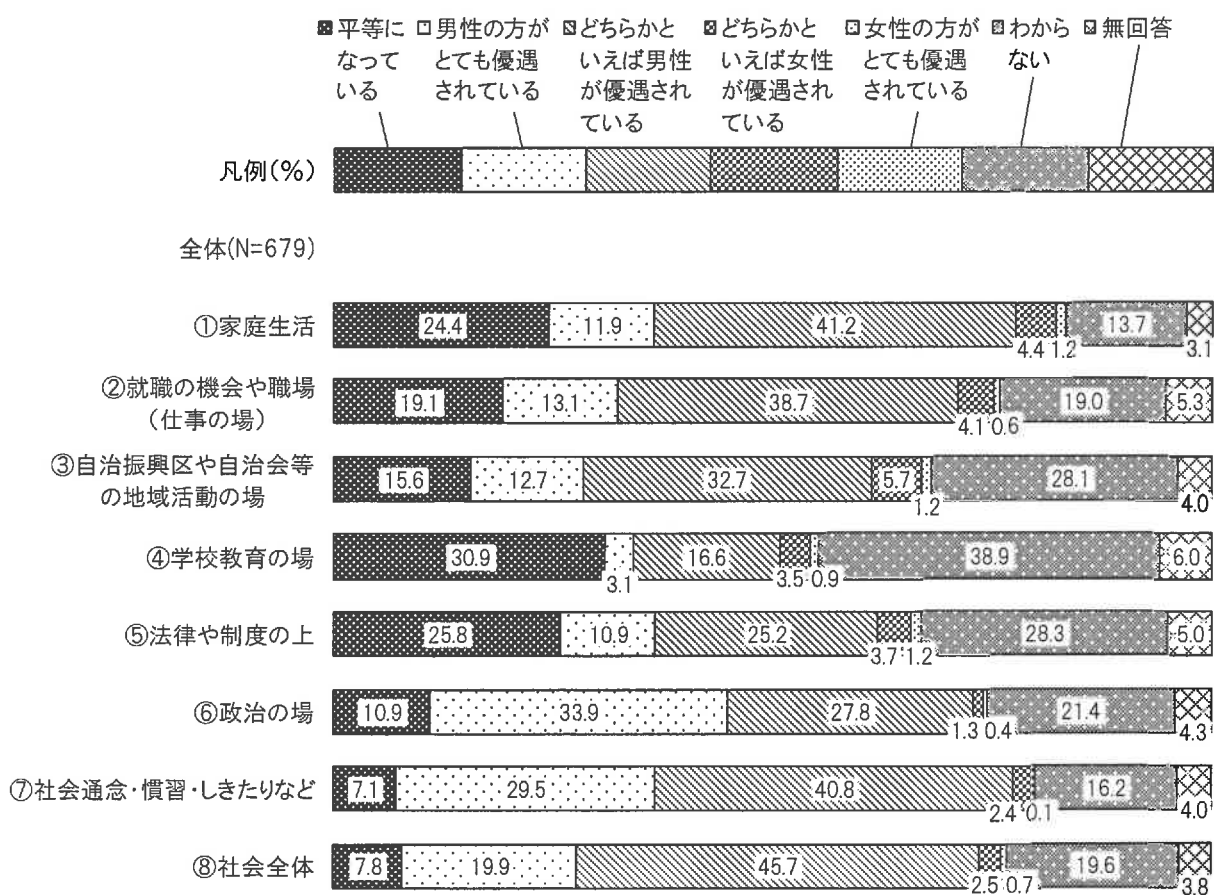


2 男女の平等意識

問 10 あなたは、次の分野で、男女は平等になっていると思いますか。①から⑧までの項目について、それぞれお答えください。（○印1つずつ）

男女の平等意識については、全ての分野において、『男性優遇』（「男性の方がとても優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計）の割合が『女性優遇』（「女性の方がとても優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計）の割合を上回っている。特に、「⑦社会通念・慣習・しきたりなど」（70.3%）、「⑧社会全体」（65.6%）、「⑥政治の場」（61.7%）で『男性優遇』の割合が高くなっている。

一方、「平等になっている」の割合が高い順に、「④学校教育の場」（30.9%）、「⑤法律や制度の上」（25.8%）、「①家庭生活」（24.4%）となっている。

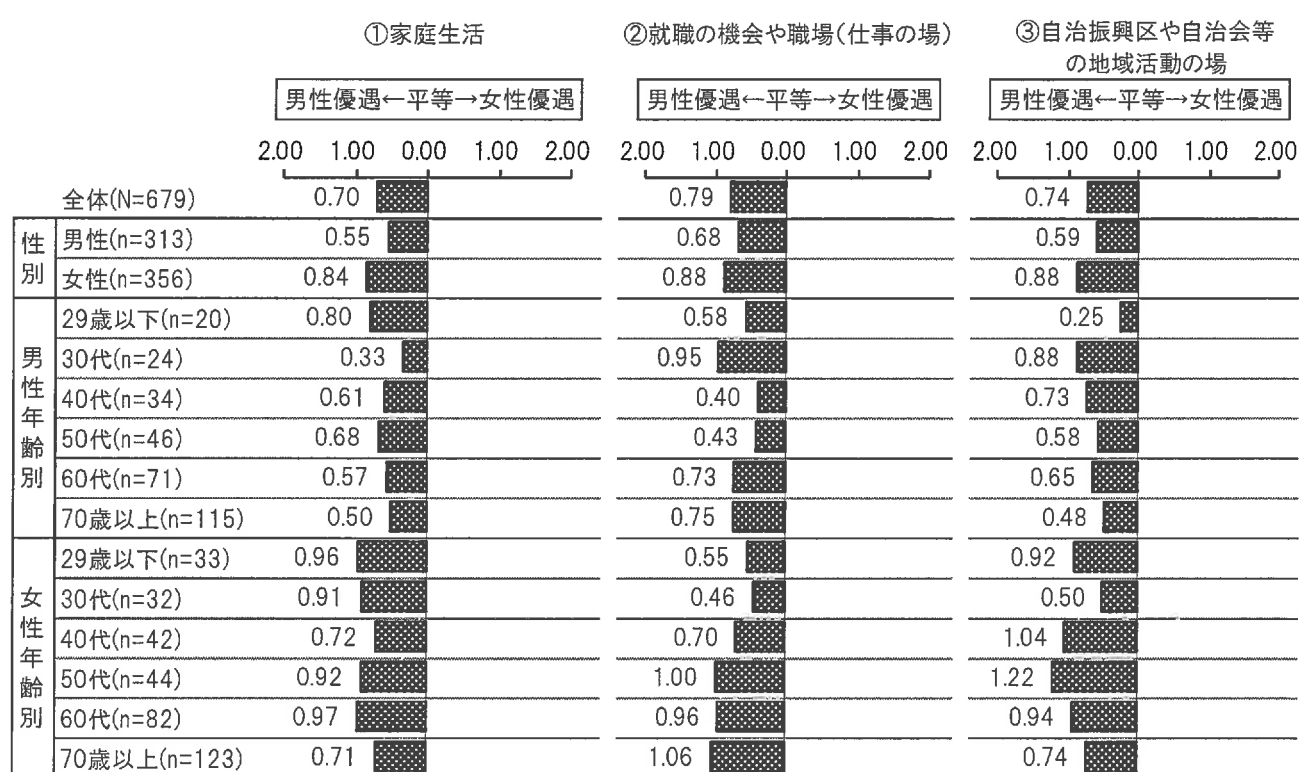


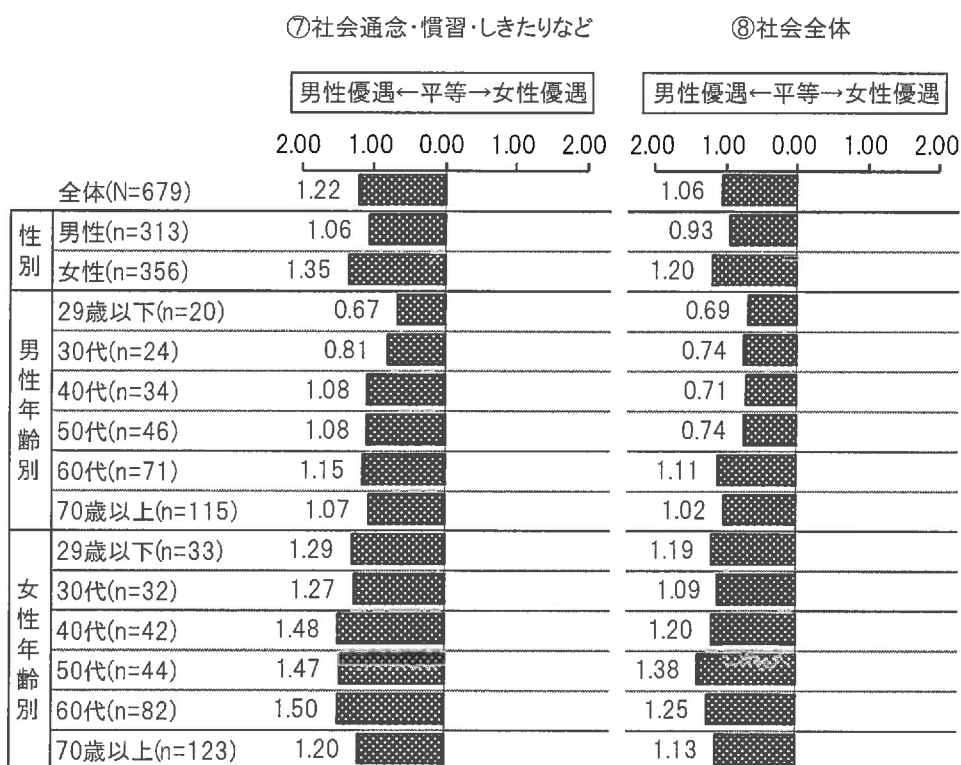
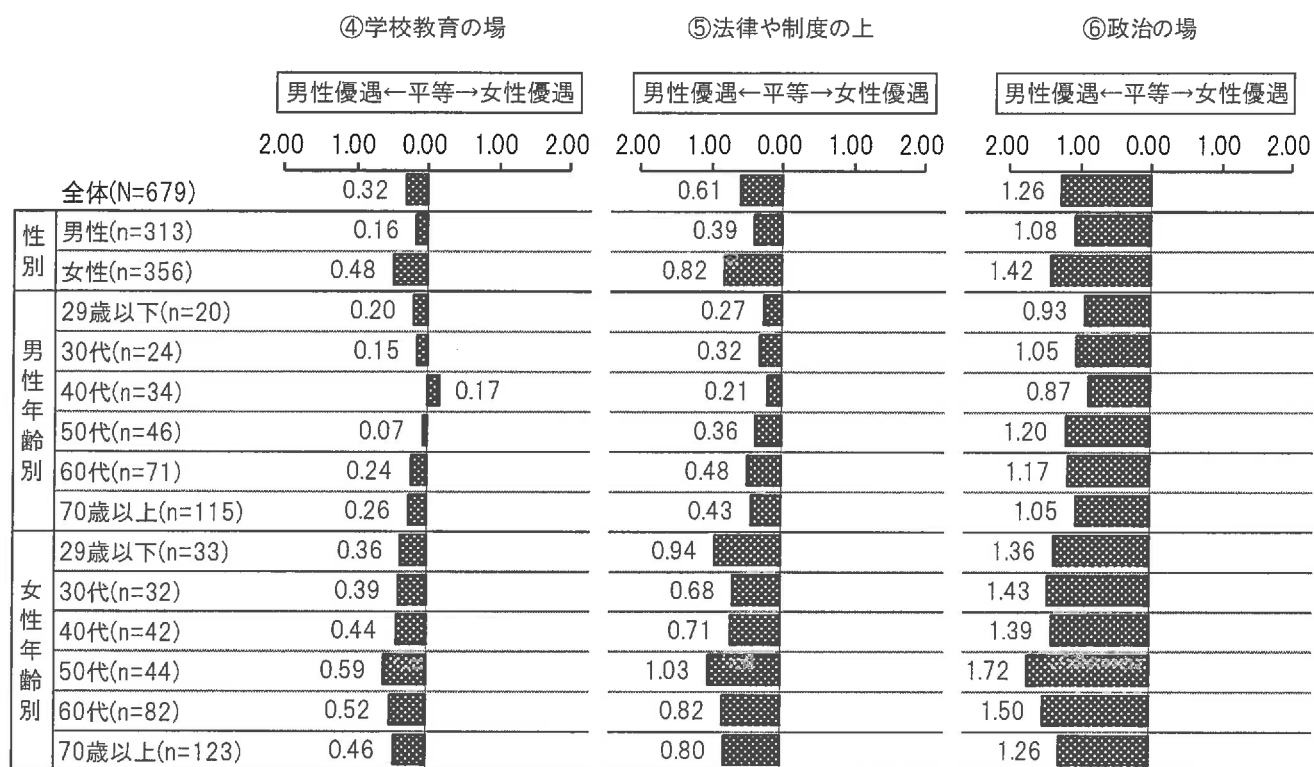
平均評定値※による属性別傾向をみると、全ての分野において、女性は男性に比べ『男性優遇』意識が高くなっている。

年齢別でみると、女性は40～60代で「⑦社会通念・慣習・しきたりなど」、50代で「③自治振興区や自治会等の地域活動の場」「⑥政治の場」、50代以上で「②就職の機会や職場（仕事の間）」でそれぞれ『男性優遇』意識が高くなっている。

※平均評定値

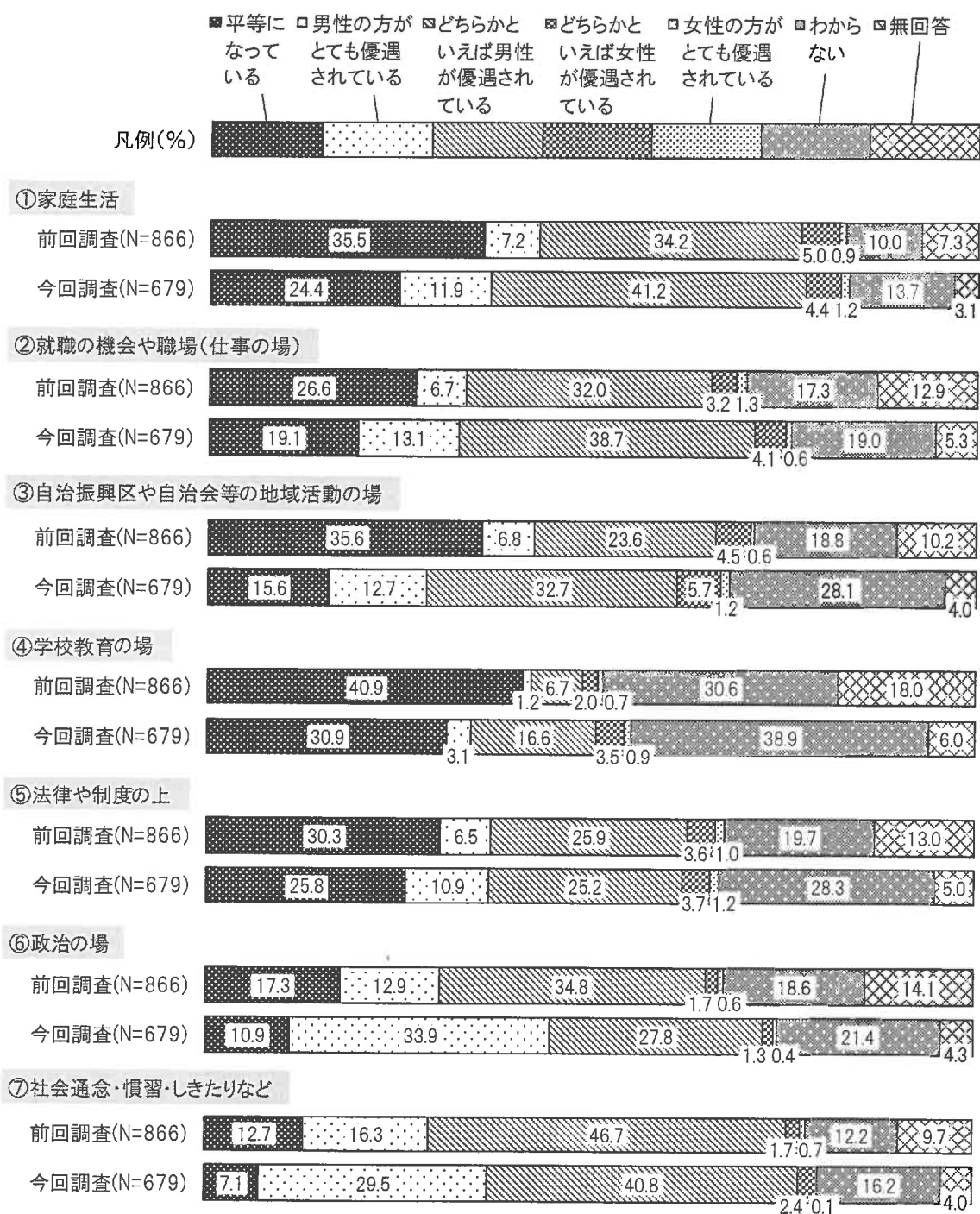
平均評定値とは、男性、女性それぞれについて「とても優遇されている」に2点、「どちらかといえば優遇されている」に1点、「平等になっている」に0点の係数を、それぞれの回答件数に乘じ加重平均して算出した値で、グラフ上では左側が男性優遇、右側が女性優遇、中央に近いほど平等を示す指標である。



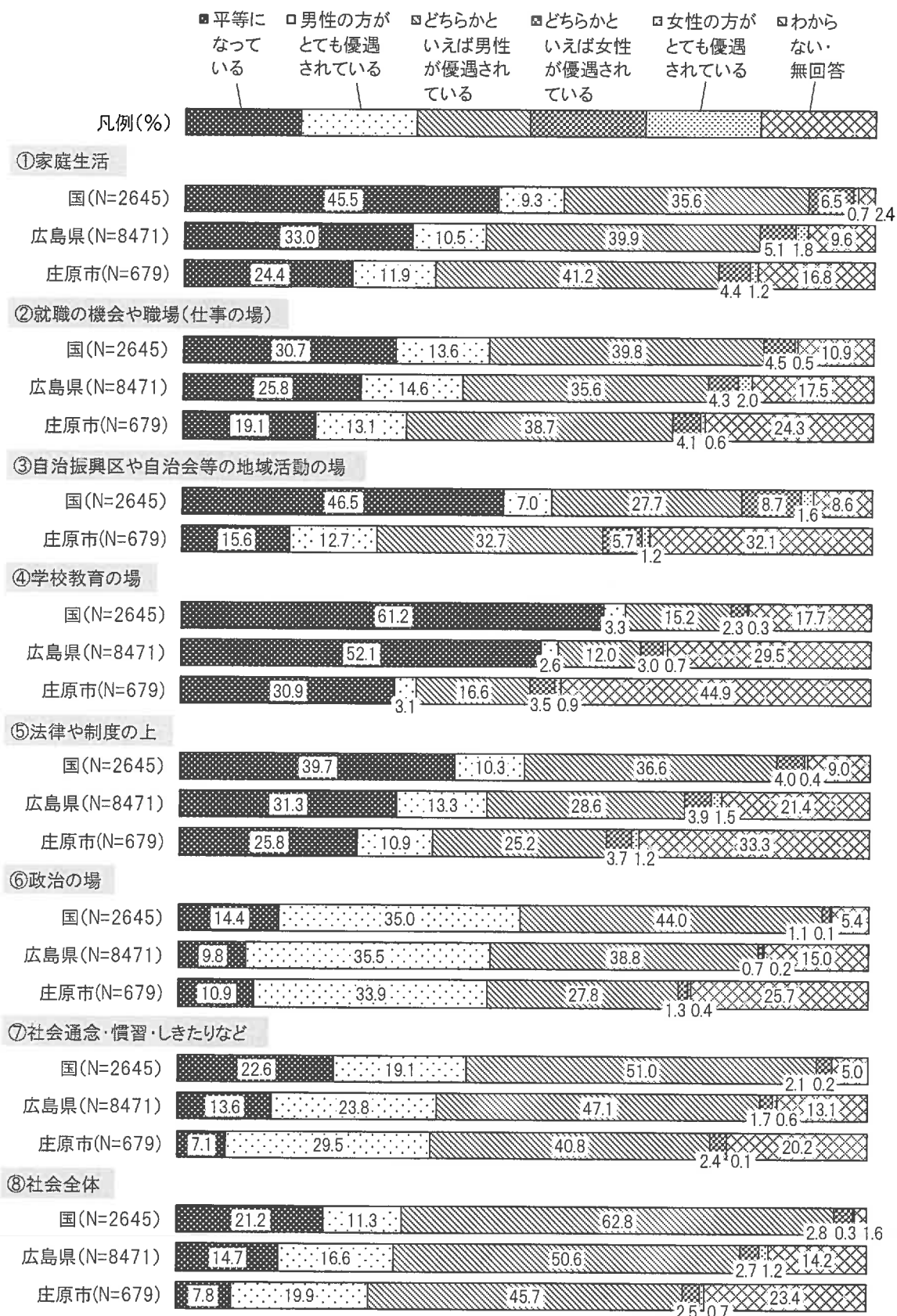


【時系列推移】

前回調査結果と比べ、全ての分野において「平等になっている」が減少しており、「⑥政治の場」「⑦社会通念・慣習・しきたりなど」では「男性の方がとても優遇されている」が大きく増加した。



【参考／国・広島県との比較】



注：広島県の調査では、「③自治振興区や自治会等の地域活動の間」の項目はない。

【2】職業生活について

1 就労状況

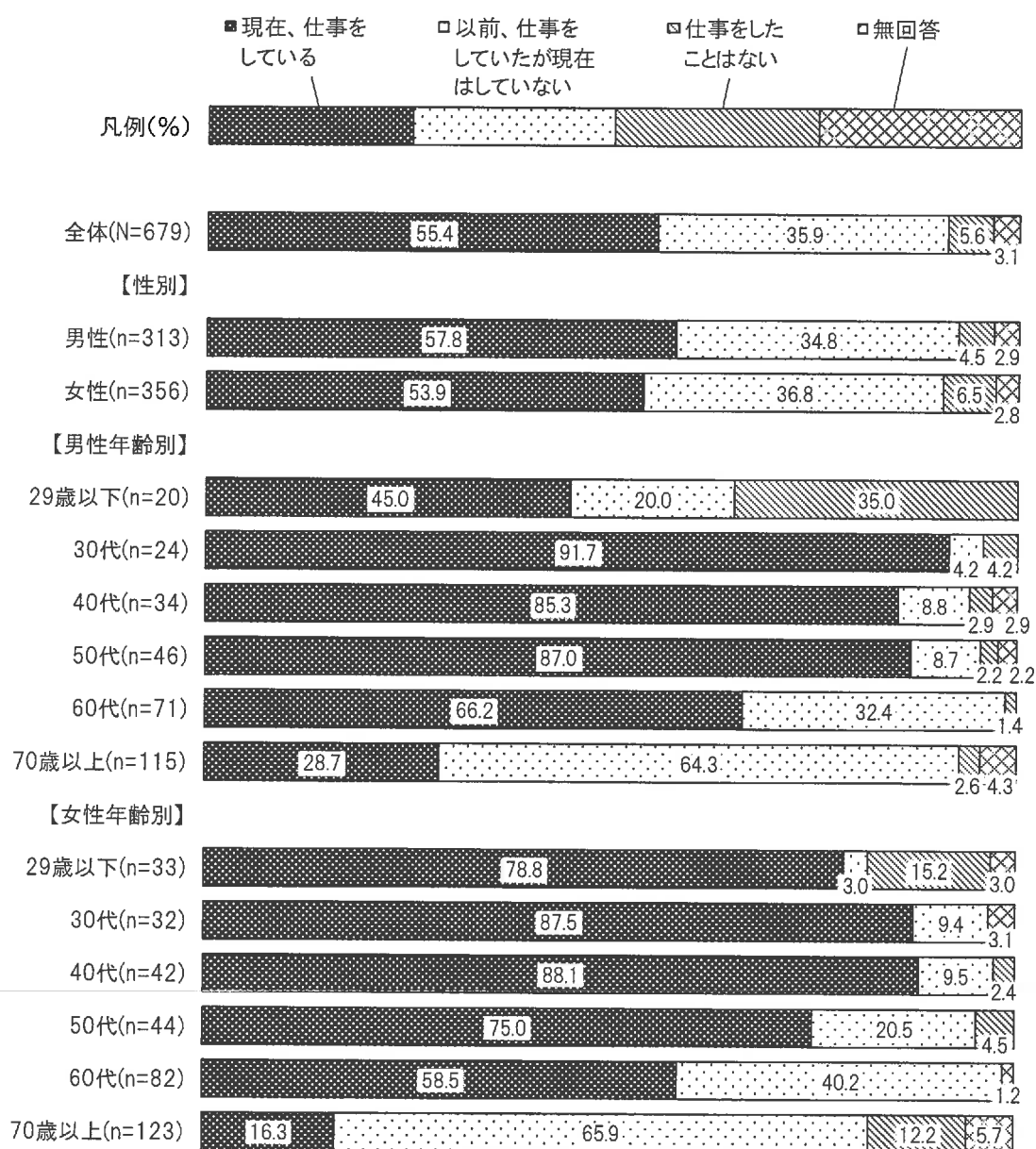
問 11 あなたは現在、収入を得る仕事をしていますか。（○印1つ）

※産前・産後休暇、育児・介護休業中も含みます。

就労状況については、「現在、仕事をしている」の割合が 55.4%、「以前、仕事をしていましたが現在はしていない」が 35.9%、合計で 91.3%となっている。一方、「仕事をしたことはない」は 5.6%となっている。

性別では、男性は女性に比べ「現在、仕事をしている」の割合がやや高くなっている。

年齢別では、男性の 29 歳以下で「仕事をしたことはない」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。



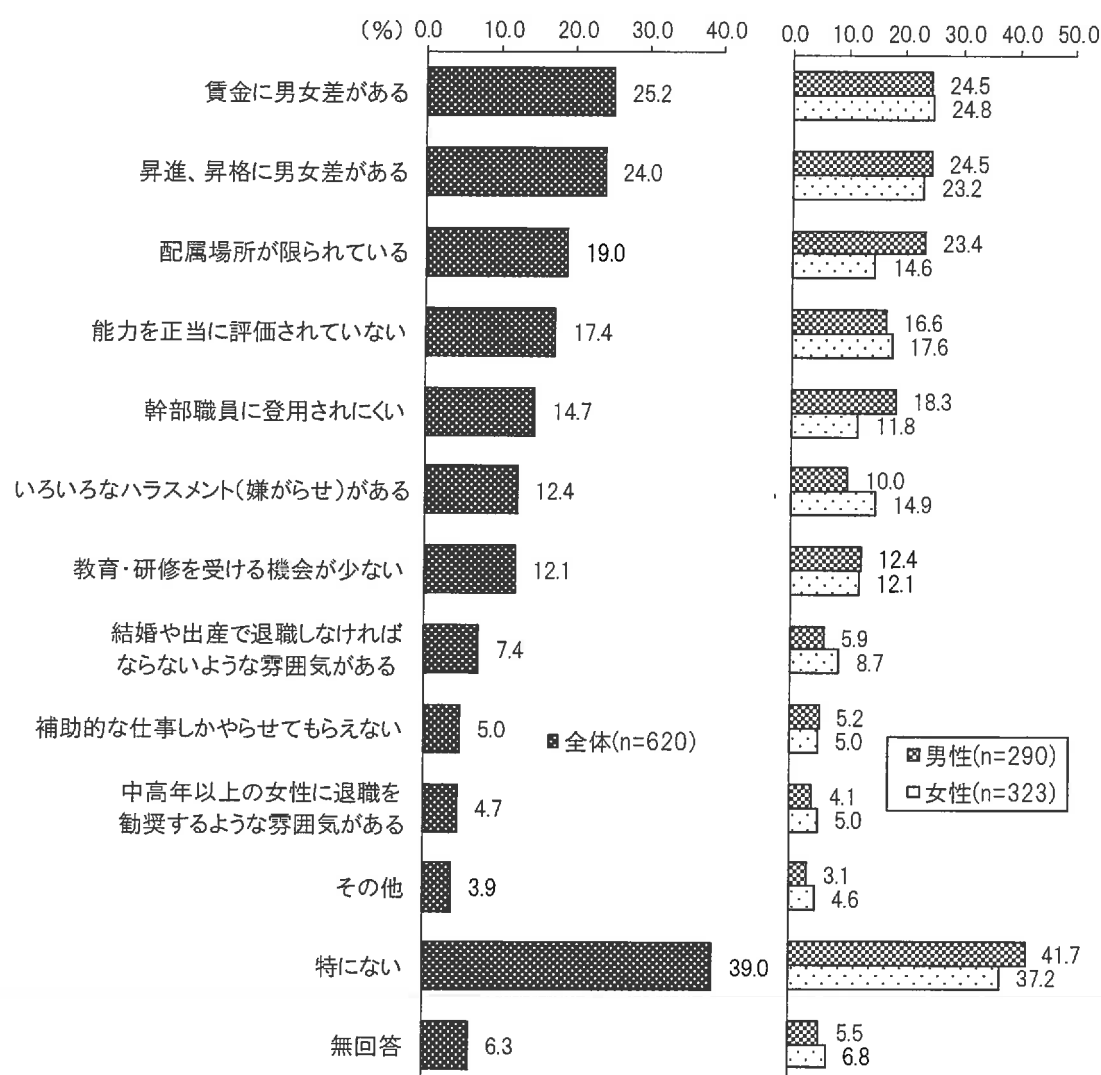
2 仕事の内容や待遇面での男女差

【問 11 で「1～2」と答えた方のみにおたずねします。】

問 12 あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、女性に対して次のようなことがありますか（又は、ありましたか）。（○印いくつでも）

仕事の内容や待遇面での男女差については、「賃金に男女差がある」の割合が 25.2%と最も高く、次いで「昇進、昇格に男女差がある」（24.0%）、「配属場所が限られている」（19.0%）、「能力を正当に評価されていない」（17.4%）、「幹部職員に登用されにくい」（14.7%）の順となっている。一方、約 4 割（39.0%）は「特にない」と回答している。

性別では、男性は女性に比べ「配属場所が限られている」「幹部職員に登用されにくい」の割合が高く、女性は「いろいろなハラスメント（嫌がらせ）がある」の割合が男性を上回っている。



年齢別では、女性の60代以上で「能力を正當に評価されていない」、女性の70歳以上で「昇進、昇格に男女差がある」「教育・研修を受ける機会が少ない」の割合がそれぞれ高く、男女共に70歳以上で「賃金に男女差がある」の割合が他の年齢層を大きく上回っている。

単位 (%)	賃金に男女差がある	昇進、昇格に男女差がある	配属場所が限られている	能力を正當に評価されていない	幹部職員に登用されにくい	いろいろなハラスメント(嫌がらせ)がある	教育・研修を受ける機会が少ない	結婚や出産で退職しなければならないような雰囲気がある	補助的な仕事しかやらせてもらえない	中高年以上の女性に退職を勧奨するような雰囲気がある	その他	特にな
全体(n=620)	25.2	24.0	19.0	17.4	14.7	12.4	12.1	7.4	5.0	4.7	3.9	39.0
【男性年齢別】												
29歳以下(n=13)	15.4	7.7	15.4	23.1	15.4	0.0	15.4	0.0	7.7	0.0	0.0	53.8
30代(n=23)	13.0	30.4	39.1	26.1	30.4	26.1	17.4	4.3	8.7	0.0	4.3	39.1
40代(n=32)	6.3	9.4	12.5	12.5	6.3	9.4	6.3	3.1	0.0	3.1	3.1	62.5
50代(n=44)	9.1	18.2	18.2	15.9	15.9	6.8	4.5	2.3	2.3	2.3	4.5	54.5
60代(n=70)	21.4	21.4	20.0	11.4	18.6	10.0	11.4	4.3	5.7	2.9	0.0	50.0
70歳以上(n=107)	42.1	34.6	29.0	18.7	20.6	9.3	16.8	10.3	6.5	7.5	4.7	23.4
【女性年齢別】												
29歳以下(n=27)	7.4	14.8	7.4	3.7	0.0	22.2	3.7	11.1	0.0	0.0	3.7	59.3
30代(n=31)	6.5	9.7	9.7	6.5	6.5	3.2	9.7	12.9	0.0	0.0	6.5	54.8
40代(n=41)	12.2	12.2	7.3	9.8	7.3	17.1	7.3	7.3	4.9	0.0	2.4	48.8
50代(n=42)	11.9	21.4	14.3	16.7	9.5	26.2	9.5	9.5	2.4	4.8	7.1	38.1
60代(n=81)	27.2	24.7	16.0	25.9	13.6	14.8	11.1	6.2	6.2	3.7	3.7	39.5
70歳以上(n=101)	43.6	33.7	19.8	21.8	17.8	10.9	18.8	8.9	7.9	10.9	5.0	18.8

3 女性の働きやすさ

【問 11 で「1～2」と答えた方のみにおたずねします。】

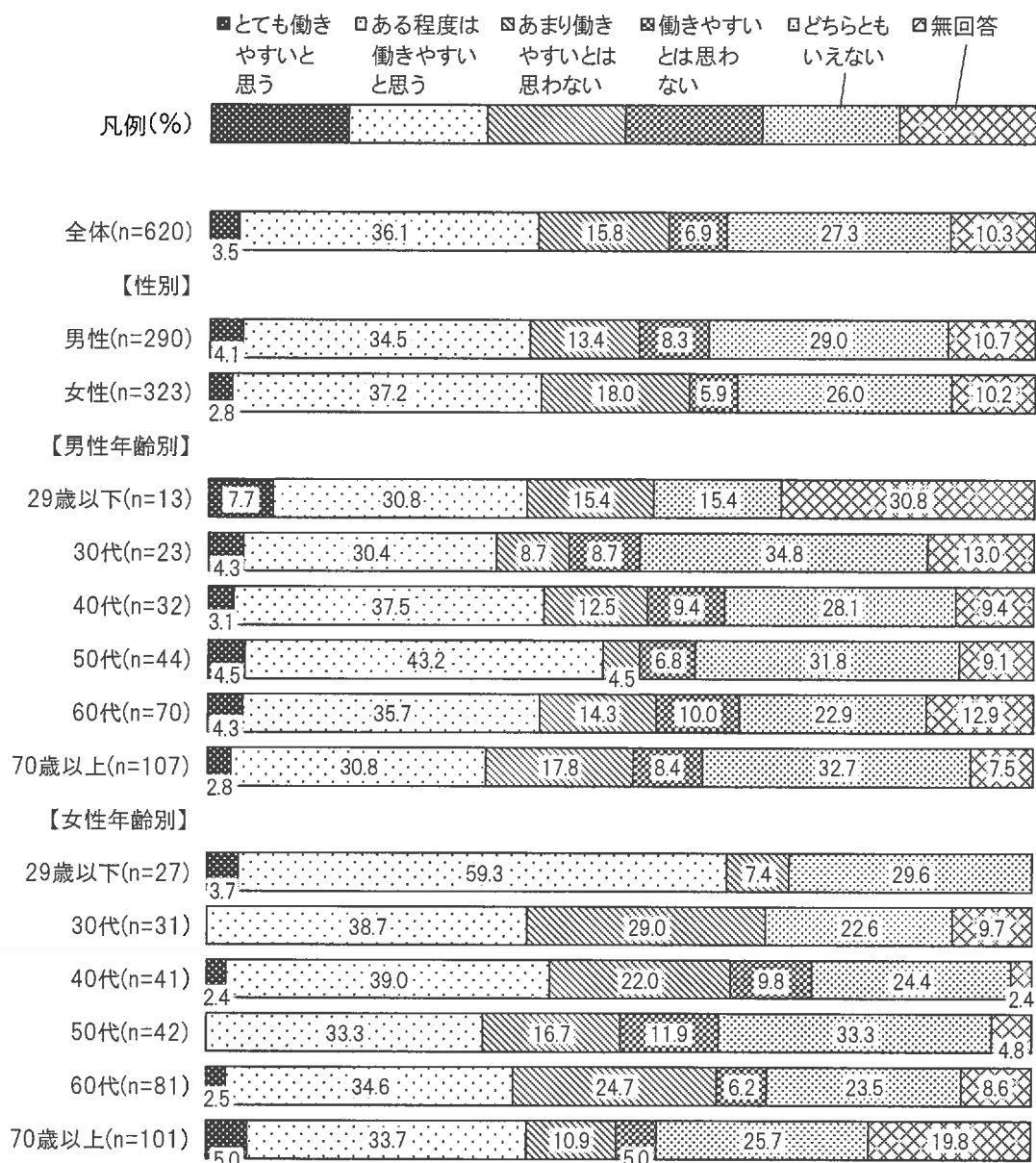
問 13 あなたは、今の庄原市では女性が働きやすい状況にあると思いますか。

(○印 1 つ)

女性の働きやすさについては、「とても働きやすいと思う」が 3.5%、「ある程度は働きやすいと思う」が 36.1%で、合計約 4 割 (39.6%) が『働きやすいと思う』と回答している。一方、「あまり働きやすいとは思わない」(15.8%)、「働きやすいとは思わない」(6.9%)の合計は 22.7%であった。

性別では、女性は男性に比べ「あまり働きやすいとは思わない」の割合がやや高くなっている。

年齢別では、男性の 50 代や女性の 29 歳以下で「ある程度は働きやすいと思う」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。



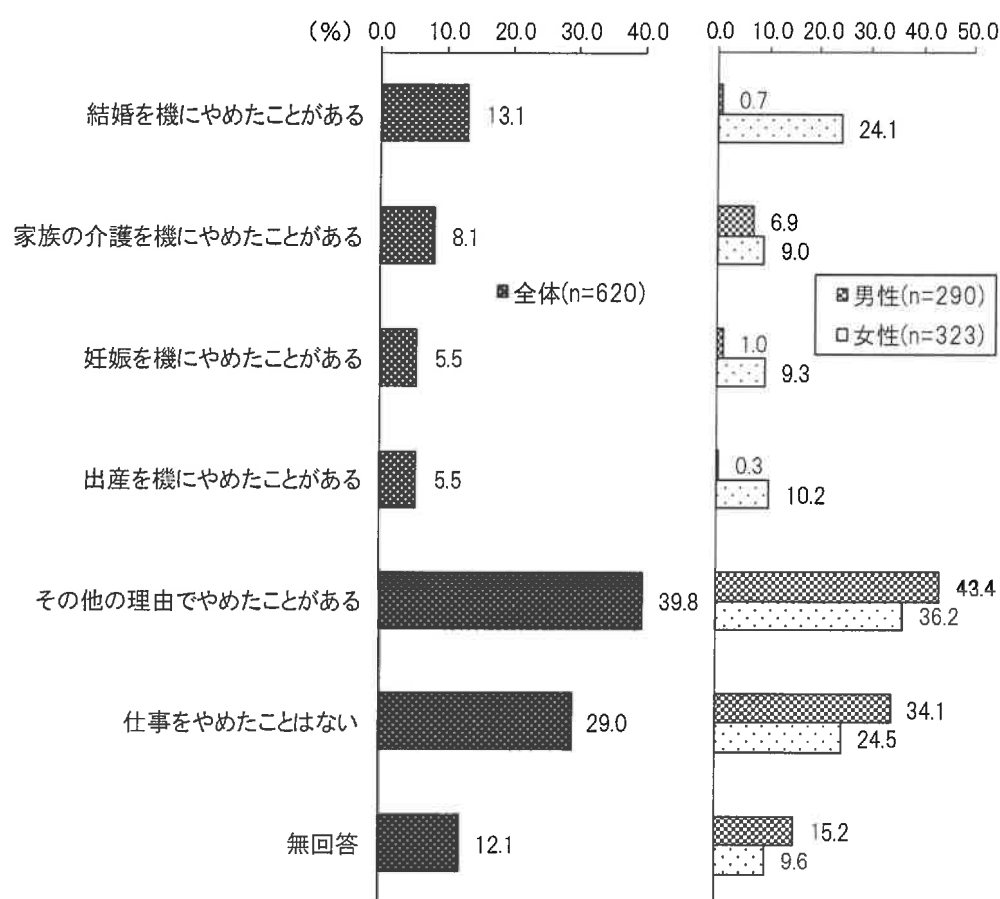
4 退職の経験

【問11で「1～2」と答えた方のみにおたずねします。】

問14 あなたはこれまでに、仕事をやめたことがありますか。（○印いくつでも）

退職の経験については、「その他の理由でやめたことがある」の割合が39.8%と最も高くなっているが、「結婚を機にやめたことがある」は13.1%、「家族の介護を機にやめたことがある」は8.1%となっている。一方、約3割（29.0%）は「仕事をやめたことはない」と回答している。

性別では、男性は女性に比べ「仕事をやめたことはない」の割合が高く、女性は「結婚を機にやめたことがある」の割合が男性を大きく上回っている。



年齢別では、女性は40代で「妊娠を機にやめたことがある」、50代や70歳以上で「結婚を機にやめたことがある」、60代以上で「家族の介護を機にやめたことがある」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

単位 (%)	結婚を機にやめたことがある	家族の介護を機にやめたことがある	妊娠を機にやめたことがある	出産を機にやめたことがある	その他の理由でやめたことがある	仕事をやめたことはない
全体(n=620)	13.1	8.1	5.5	5.5	39.8	29.0
【男性年齢別】						
29歳以下(n=13)	0.0	0.0	0.0	0.0	30.8	38.5
30代(n=23)	4.3	0.0	0.0	0.0	39.1	34.8
40代(n=32)	3.1	0.0	0.0	0.0	59.4	28.1
50代(n=44)	0.0	4.5	0.0	2.3	50.0	38.6
60代(n=70)	0.0	12.9	2.9	0.0	44.3	24.3
70歳以上(n=107)	0.0	8.4	0.9	0.0	37.4	40.2
【女性年齢別】						
29歳以下(n=27)	7.4	3.7	7.4	0.0	18.5	66.7
30代(n=31)	16.1	0.0	3.2	19.4	51.6	19.4
40代(n=41)	24.4	2.4	22.0	12.2	41.5	26.8
50代(n=42)	35.7	2.4	11.9	19.0	52.4	14.3
60代(n=81)	18.5	14.8	8.6	8.6	32.1	25.9
70歳以上(n=101)	30.7	13.9	5.9	6.9	30.7	16.8

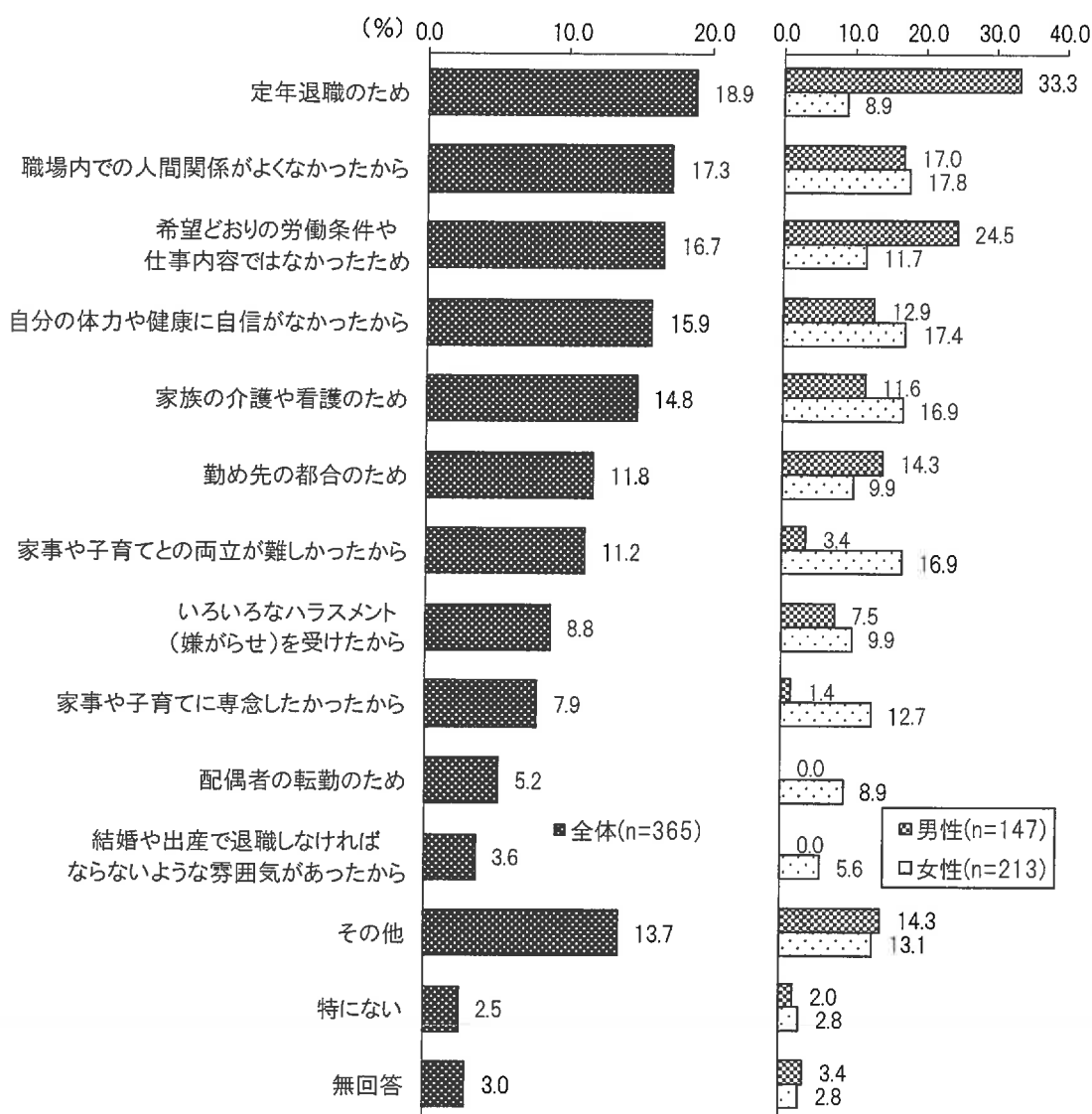
5 退職の理由

【問 14 で「1～5」と答えた方のみにおたずねします。】

問 15 あなたが仕事をやめた理由は何ですか。（○印いくつでも）

退職の理由については、「定年退職のため」の割合が18.9%と最も高く、次いで「職場内での人間関係がよくなかったから」（17.3%）、「希望どおりの労働条件や仕事内容ではなかったため」（16.7%）、「自分の体力や健康に自信がなかったから」（15.9%）、「家族の介護や看護のため」（14.8%）の順となっている。また「その他」では、「帰省するため」「病気のため」などの意見がみられた。

性別では、男性は「定年退職のため」「希望どおりの労働条件や仕事内容ではなかったため」の割合が女性を大きく上回っており、女性は男性に比べ「家事や子育てとの両立が難しかったから」「家事や子育てに専念したかったから」などの割合が高くなっている。



年齢別では、女性は 30 代で「いろいろなハラスメント（嫌がらせ）を受けたから」、30～40 代で「希望どおりの労働条件や仕事内容ではなかったため」、60 代以上で「家族の介護や看護のため」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高く、男女共に 60 代以上で「定年退職のため」の割合が高くなっている。

単位 (%)	定年退職のため	職場内での人間関係がよくなかったから	希望どおりの労働条件や仕事内容ではなかったため	自分の体力や健康に自信がなかったから	家族の介護や看護のため	勤め先の都合のため	家事や子育てとの両立が難しかったから	いろいろなハラスメント（嫌がらせ）を受けたから	家事や子育てに専念したかったから	配偶者の転勤のため	結婚や出産で退職しなければならぬような雰囲気があつたから	その他	特になし
全体(n=365)	18.9	17.3	16.7	15.9	14.8	11.8	11.2	8.8	7.9	5.2	3.6	13.7	2.5
【男性年齢別】													
29歳以下(n=4)	0.0	50.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
30代(n=10)	10.0	20.0	40.0	20.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
40代(n=20)	0.0	30.0	40.0	20.0	0.0	15.0	5.0	25.0	0.0	0.0	0.0	30.0	10.0
50代(n=23)	0.0	21.7	43.5	4.3	13.0	34.8	8.7	8.7	4.3	0.0	0.0	13.0	4.3
60代(n=42)	57.1	14.3	16.7	9.5	21.4	9.5	2.4	2.4	0.0	0.0	0.0	11.9	0.0
70歳以上(n=47)	51.1	8.5	12.8	12.8	10.6	6.4	2.1	2.1	2.1	0.0	0.0	8.5	0.0
【女性年齢別】													
29歳以下(n=9)	0.0	44.4	22.2	33.3	11.1	11.1	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
30代(n=22)	0.0	18.2	22.7	31.8	0.0	9.1	22.7	27.3	13.6	9.1	4.5	13.6	4.5
40代(n=28)	0.0	28.6	28.6	21.4	7.1	10.7	28.6	10.7	21.4	10.7	3.6	14.3	0.0
50代(n=34)	0.0	29.4	8.8	11.8	11.8	11.8	23.5	11.8	8.8	17.6	2.9	26.5	2.9
60代(n=53)	17.0	13.2	9.4	17.0	20.8	9.4	11.3	5.7	15.1	11.3	5.7	5.7	5.7
70歳以上(n=67)	14.9	7.5	3.0	11.9	26.9	9.0	13.4	4.5	10.4	3.0	9.0	9.0	1.5

注：29 歳以下については、件数(n=)が少ないため参考値として参照

6 再就職の経験

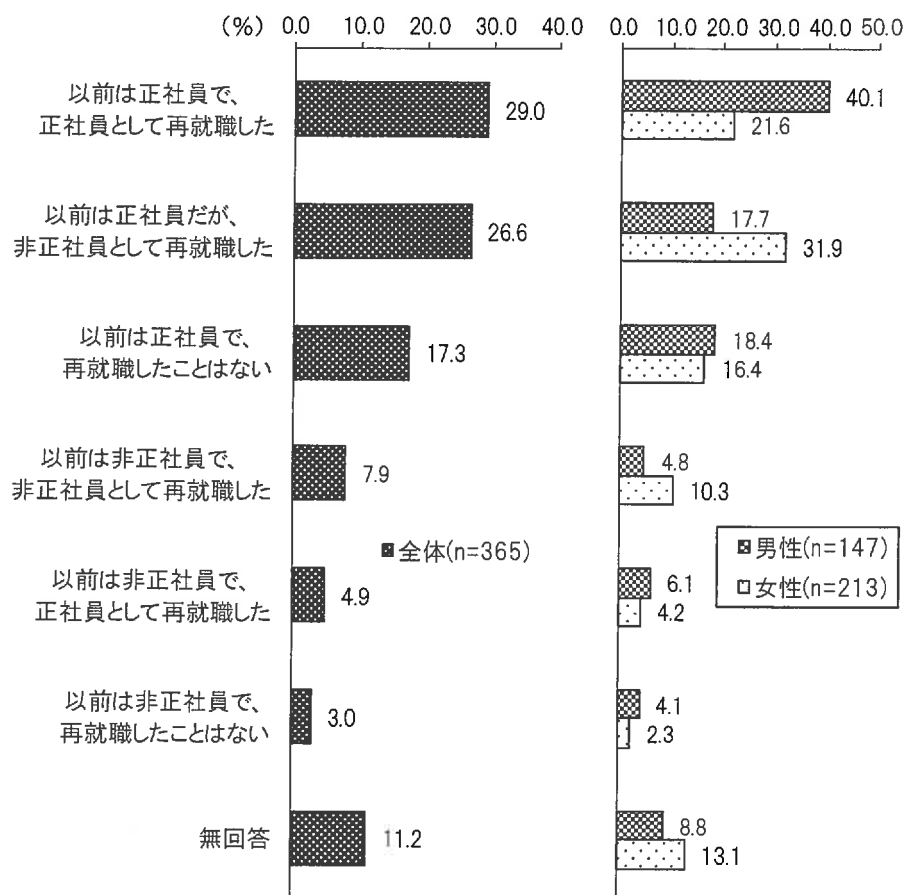
【問 14 で「1～5」と答えた方のみにおたずねします。】

問 16 あなたは、仕事をやめた後、再就職されましたか。（○印 1 つ）

※仕事をやめた経験が複数回ある場合は、最初の時についてお答えください。

再就職の経験については、「以前は正社員で、正社員として再就職した」の割合が 29.0% と最も高く、次いで「以前は正社員だが、非正社員として再就職した」（26.6%）、「以前は正社員で、再就職したことはない」（17.3%）の順となっている。

性別では、男性は「以前は正社員で、正社員として再就職した」の割合が女性を大きく上回っており、女性は男性に比べ「以前は正社員だが、非正社員として再就職した」の割合が高くなっている。



年齢別では、男性の60代以上で「以前は正社員だが、非正社員として再就職した」「以前は正社員で、再就職したことはない」、女性の30代で「以前は正社員だが、非正社員として再就職した」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

単位 (%)	以前は正社員で、 再就職した	以前は正社員だが、 非正社員	以前は正社員で、 再就職した ことはない	以前は非正社員で、 非正社員	以前は非正社員で、 正社員と して再就職した	以前は非正社員で、 再就職した ことはない
全体(n=365)	29.0	26.6	17.3	7.9	4.9	3.0
【男性年齢別】						
29歳以下(n=4)	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0
30代(n=10)	70.0	0.0	0.0	0.0	20.0	10.0
40代(n=20)	60.0	10.0	0.0	10.0	15.0	5.0
50代(n=23)	73.9	4.3	4.3	0.0	4.3	4.3
60代(n=42)	31.0	26.2	28.6	2.4	2.4	2.4
70歳以上(n=47)	21.3	21.3	29.8	8.5	2.1	2.1
【女性年齢別】						
29歳以下(n=9)	44.4	11.1	11.1	22.2	0.0	0.0
30代(n=22)	31.8	54.5	4.5	4.5	4.5	0.0
40代(n=28)	25.0	39.3	3.6	17.9	3.6	7.1
50代(n=34)	20.6	41.2	8.8	17.6	2.9	0.0
60代(n=53)	17.0	41.5	13.2	13.2	5.7	0.0
70歳以上(n=67)	17.9	11.9	32.8	1.5	4.5	4.5

注：29歳以下については、件数(n)が少ないため参考値として参照

7 育児休業や介護休業の取得状況

【問11で「1～2」と答えた方のみにおたずねします。】

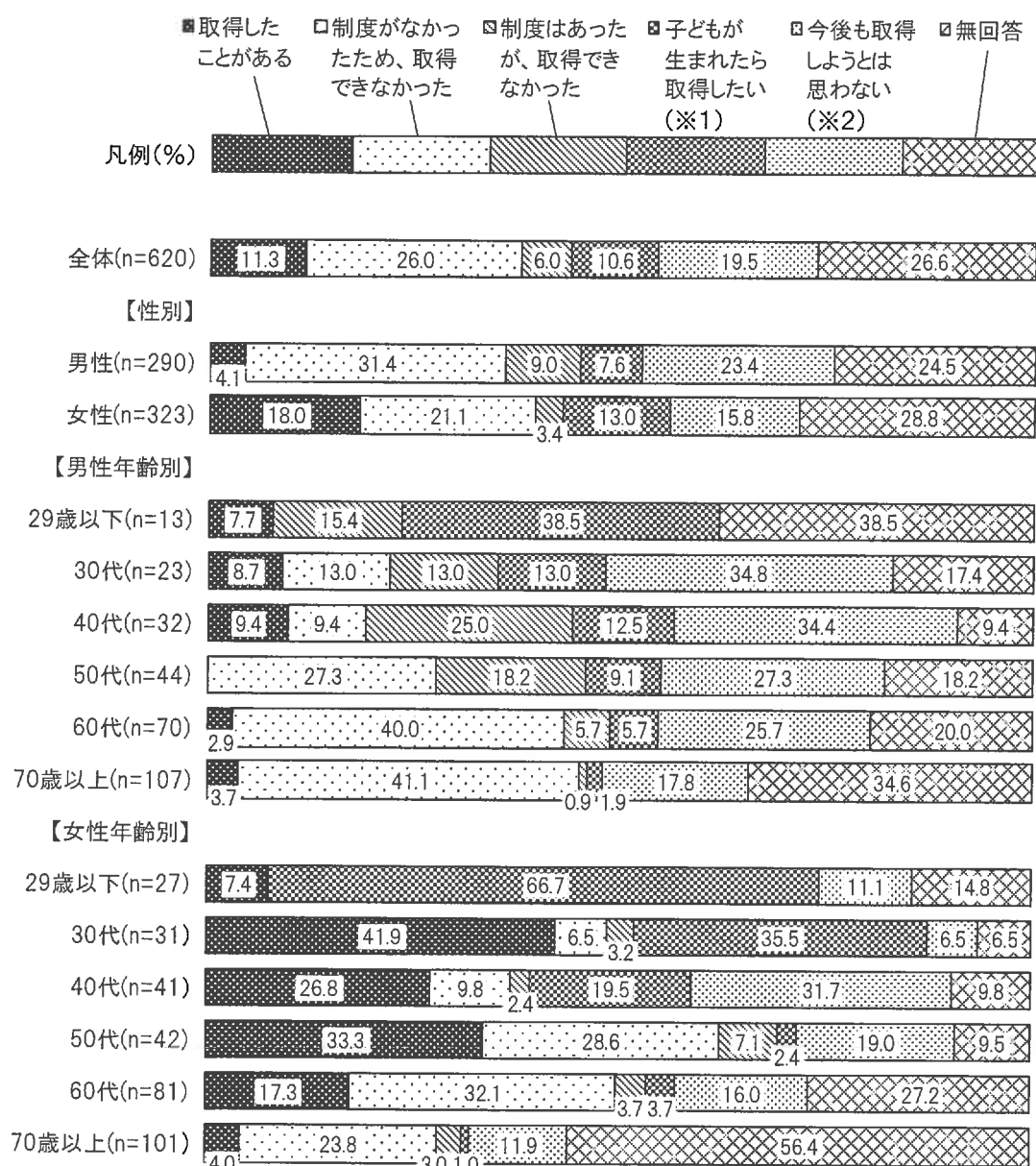
問17 あなたは、育児休業や介護休業を取得したことがありますか。（○印1つつ）

①育児休業

育児休業の取得状況については、「制度がなかったため、取得できなかった」が26.0%と最も高くなっており、「取得したことがある」は11.3%、「これまでは取得する必要がなかったが、子どもが生まれたら取得したい」は10.6%となっている。

性別では「取得したことがある」の割合は、男性が4.1%、女性が18.0%であった。

年齢別では、男女共に50代以上で「制度がなかったため、取得できなかった」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。



※1:これまでは取得する必要がなかったが、子どもが生まれたら取得したい

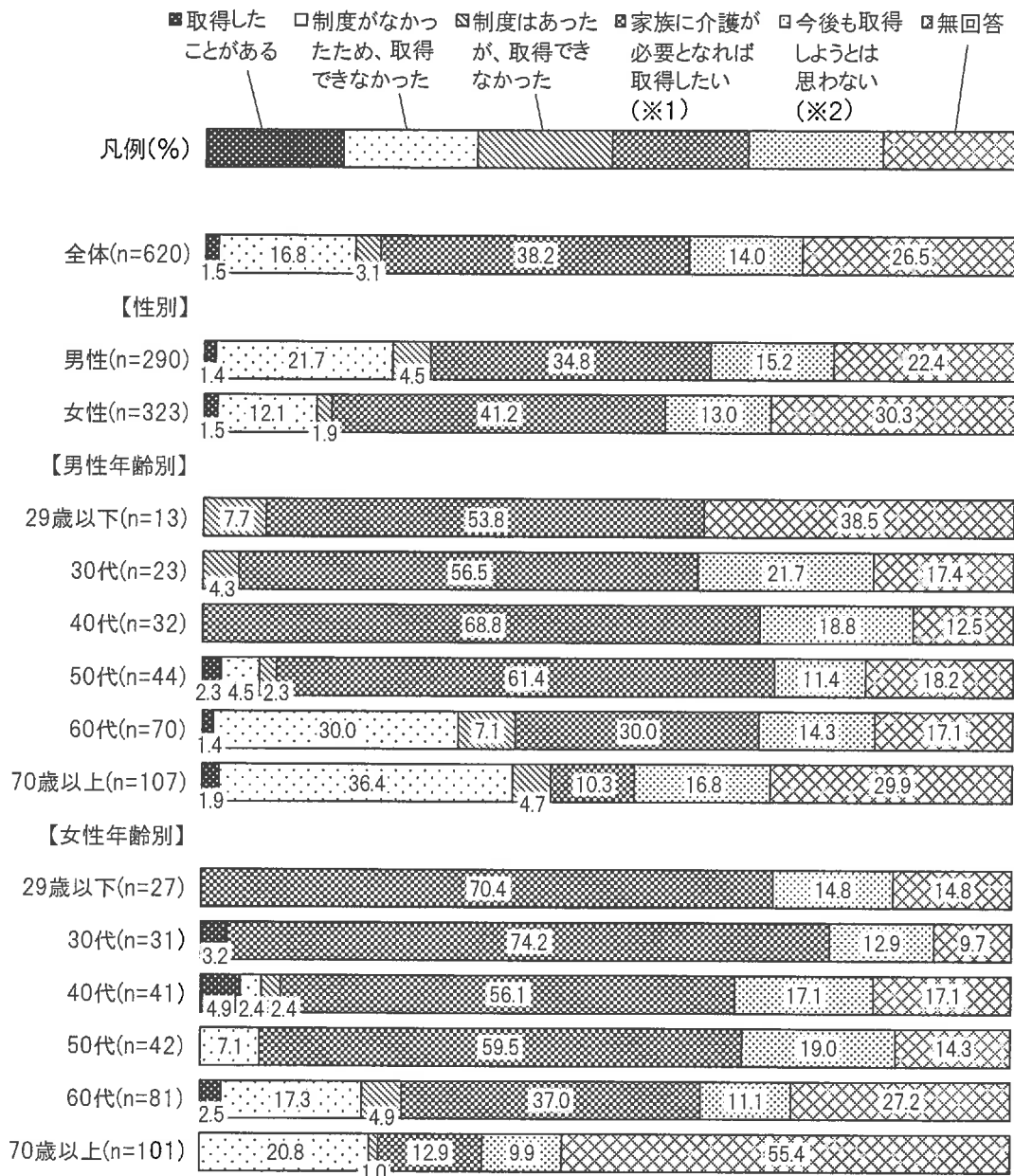
※2:これまでも取得しておらず、今後も取得しようとは思わない

②介護休業

介護休業の取得状況については、「これまでは取得する必要がなかったが、家族に介護が必要となれば取得したい」が38.2%と最も高く、次いで「制度がなかったため、取得できなかった」(16.8%)が続く、「取得したことがある」は1.5%であった。

性別では「取得したことがある」の割合は、男性が1.4%、女性が1.5%であった。

年齢別では、男女共に60代以上で「制度がなかったため、取得できなかった」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。



※1:これまでは取得する必要がなかったが、家族に介護が必要となれば取得したい

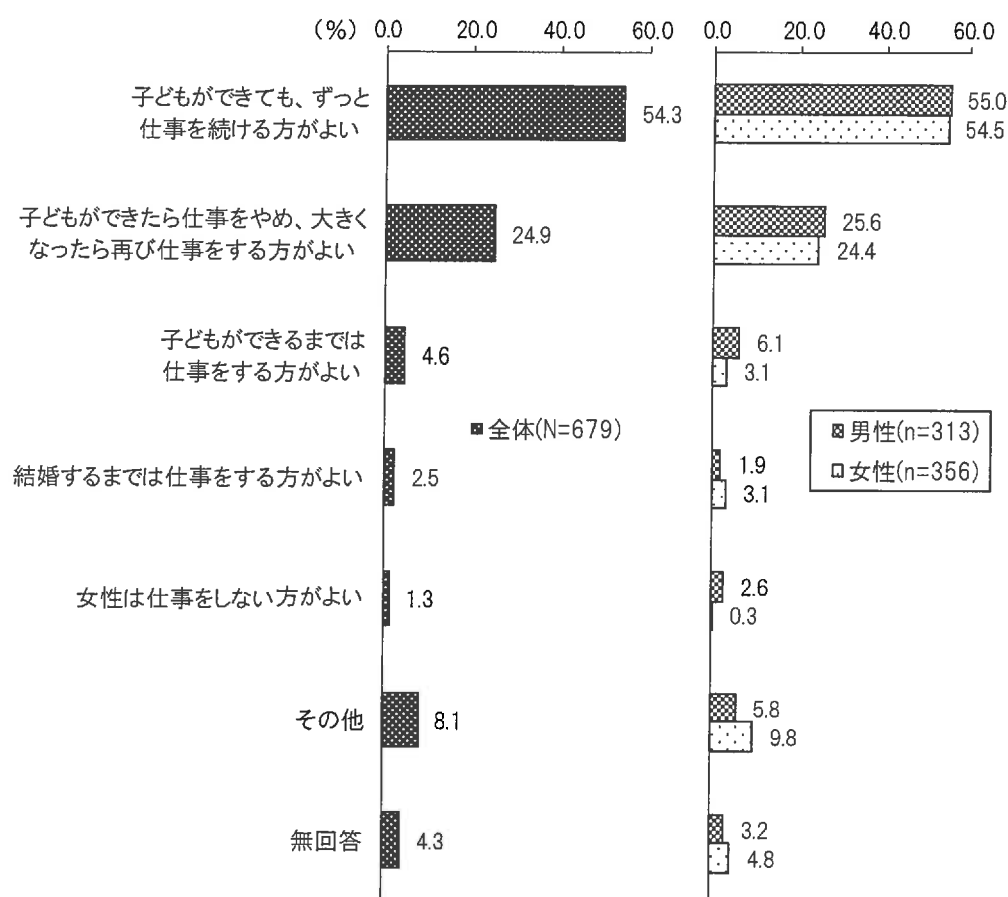
※2:これまでも取得しておらず、今後も取得しようとは思わない

8 望ましい女性の働き方

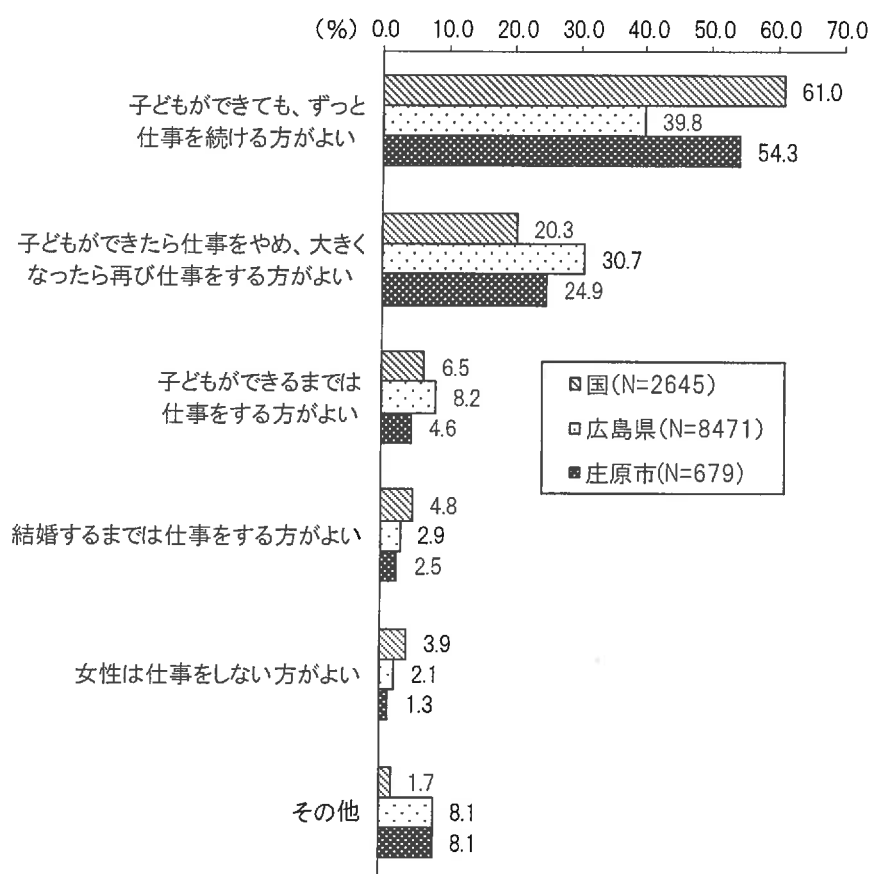
問 18 あなたは、一般的に女性が仕事をするについて、どのように思いますか。あなたのお考えに最も近いものをお答えください。（○印1つ）

望ましい女性の働き方については、「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」の割合が54.3%と最も高く、次いで「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をする方がよい」（24.9%）が続いている。

性別では、大きな差はみられない。



【参考／国・広島県との比較】

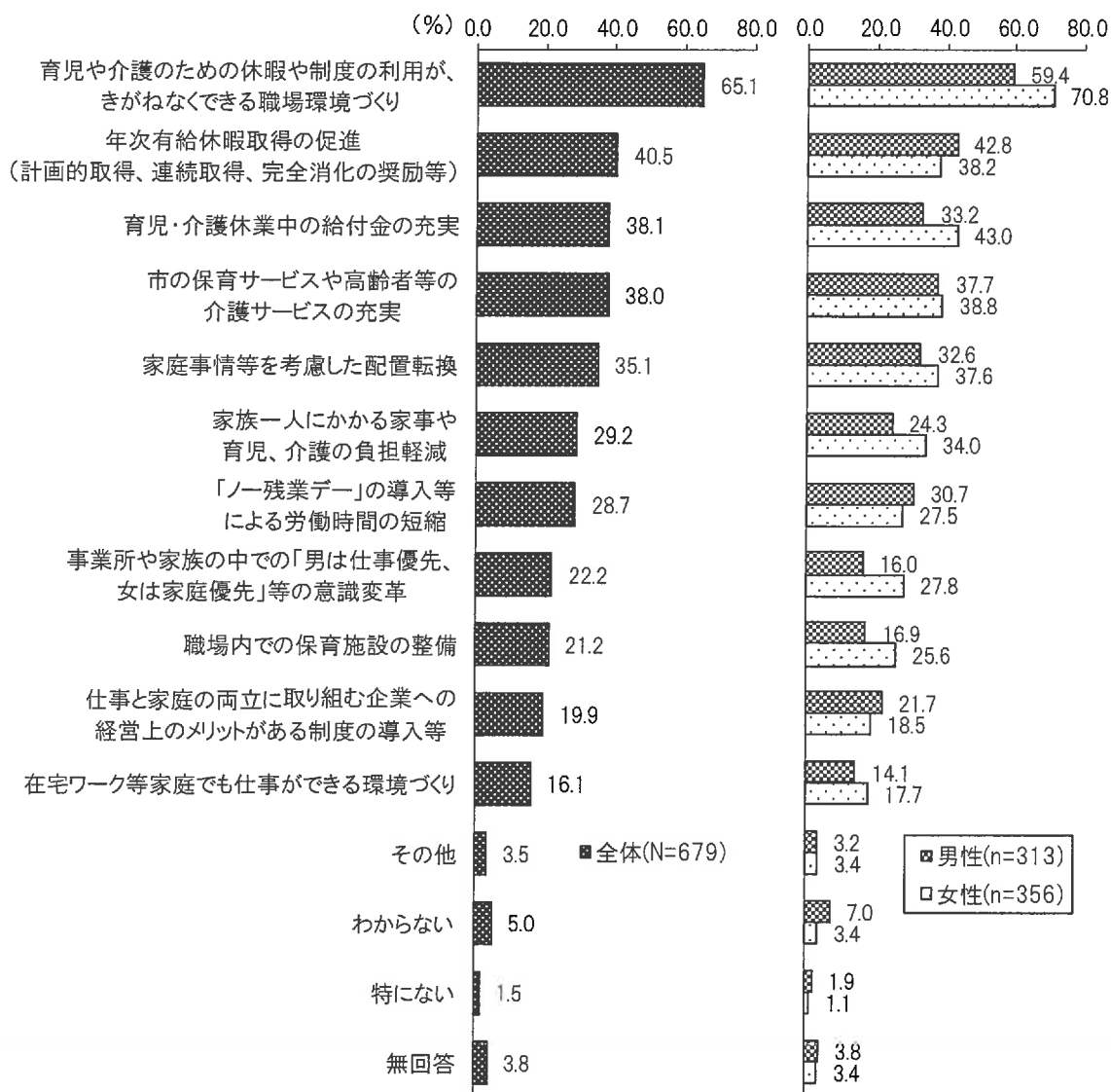


9 仕事と生活を両立するために必要な支援

問 19 あなたは、男女が共に仕事と生活を両立するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○印5つまで）

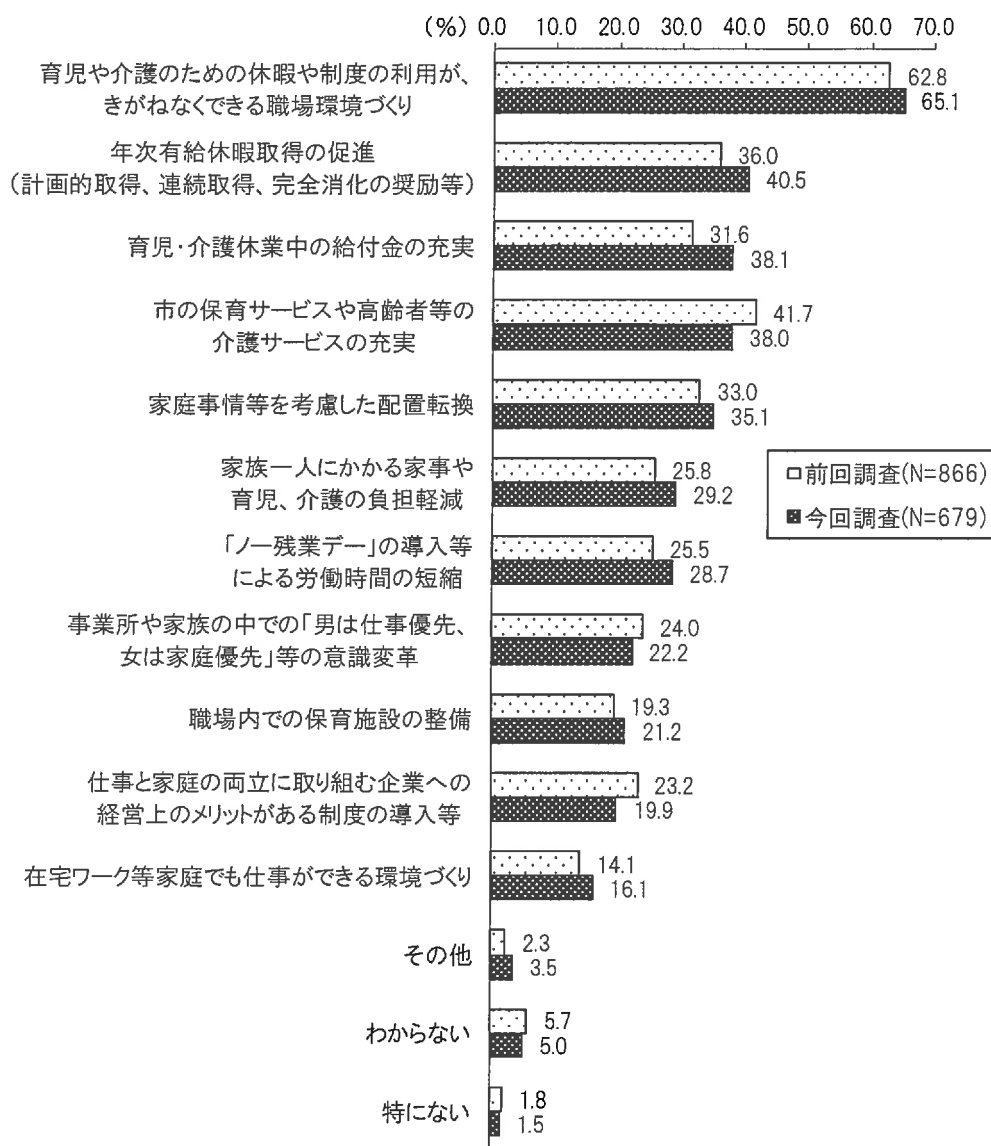
仕事と生活を両立するために必要な支援については、「育児や介護のための休暇や制度の利用が、きがねなくできる職場環境づくり」の割合が65.1%と最も高く、次いで「年次有給休暇取得の促進（計画的取得、連続取得、完全消化の奨励等）」（40.5%）、「育児・介護休業中の給付金の充実」（38.1%）、「市の保育サービスや高齢者等の介護サービスの充実」（38.0%）の順となっている。

性別では、女性は男性に比べ「育児や介護のための休暇や制度の利用が、きがねなくできる職場環境づくり」「育児・介護休業中の給付金の充実」などの割合が高くなっている。



【時系列推移】

前回調査結果と比べ、「年次有給休暇取得の促進（計画的取得、連続取得、完全消化の奨励等）」「育児・介護休業中の給付金の充実」などが増加した。

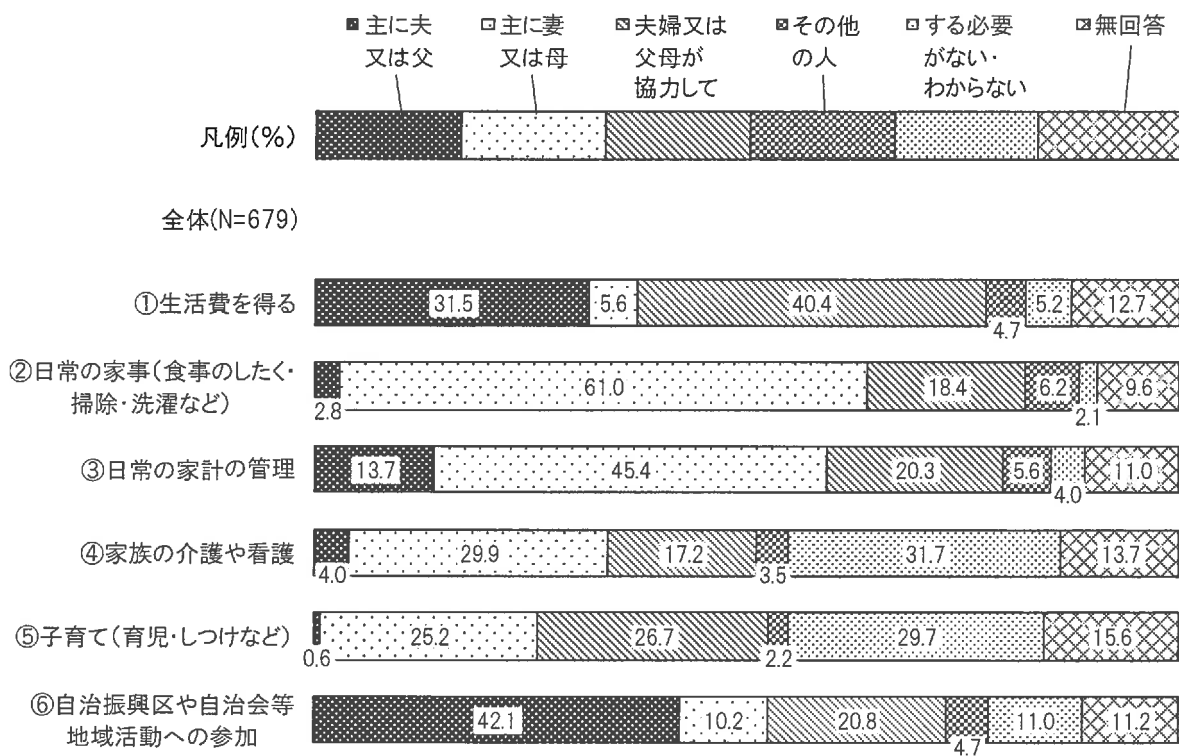


【3】家庭生活について

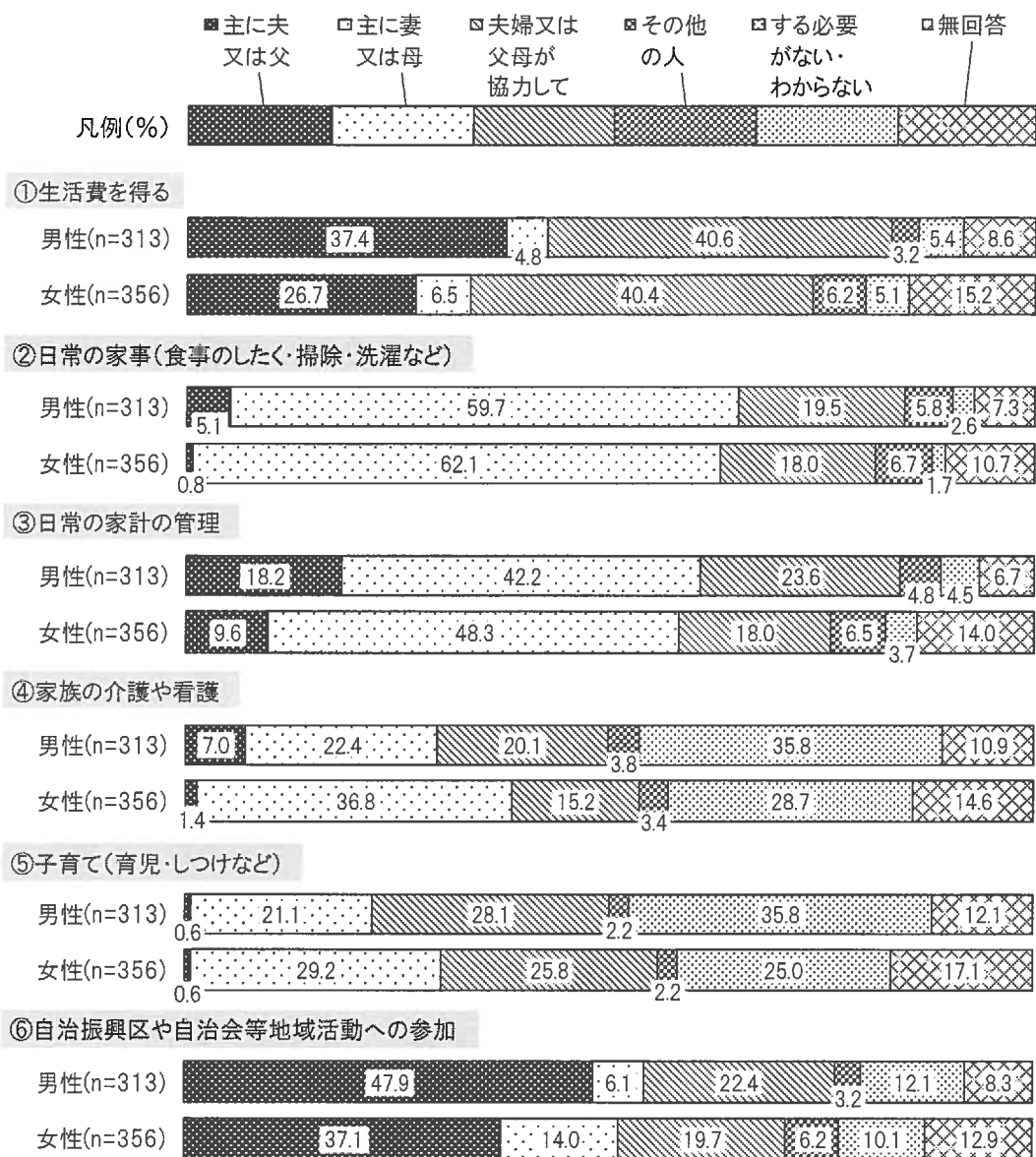
1 家庭内の仕事の分担について

問 20 あなたの家庭では、次にあげる家庭内の仕事を主に誰が担っていますか。
(○印1つつつ)

家庭内の仕事の分担については、「②日常の家事（食事のしたく・掃除・洗濯など）」や「③日常の家計の管理」などでは「主に妻又は母」が高い割合を占めている。一方、「①生活費を得る」や「⑥自治振興区や自治会等地域活動への参加」では、「主に夫又は父」の割合が高くなっている。

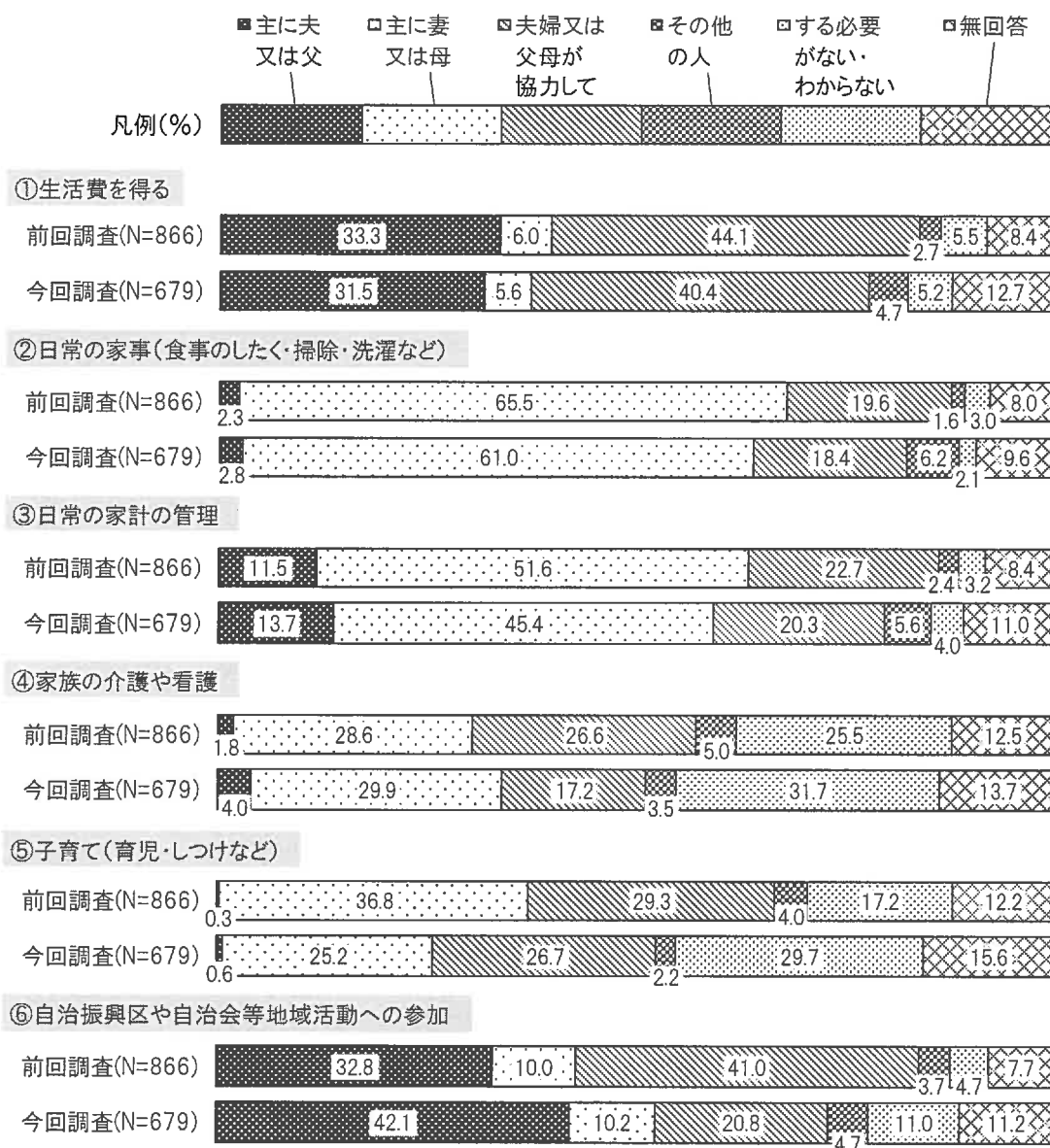


性別でみると、男性は女性に比べ「①生活費を得る」「⑥自治振興区や自治会等地域活動への参加」などで「主に夫又は父」の割合が高く、女性は「④家族の介護や看護」「⑤子育て（育児・しつけなど）」で「主に妻又は母」の割合が男性を上回っている。



【時系列推移】

前回調査結果と比べ、「⑥自治振興区や自治会等地域活動への参加」で「夫婦又は父母が協力して」が大きく減少し、「主に夫又は父」が大きく増加した。



注：前回調査結果については、下記のように読み替えて表記している。

「主に男性が担当」→「主に夫又は父」

「主に女性が担当」→「主に妻又は母」

「男女問わず家族が協力」→「夫婦又は父母が協力して」

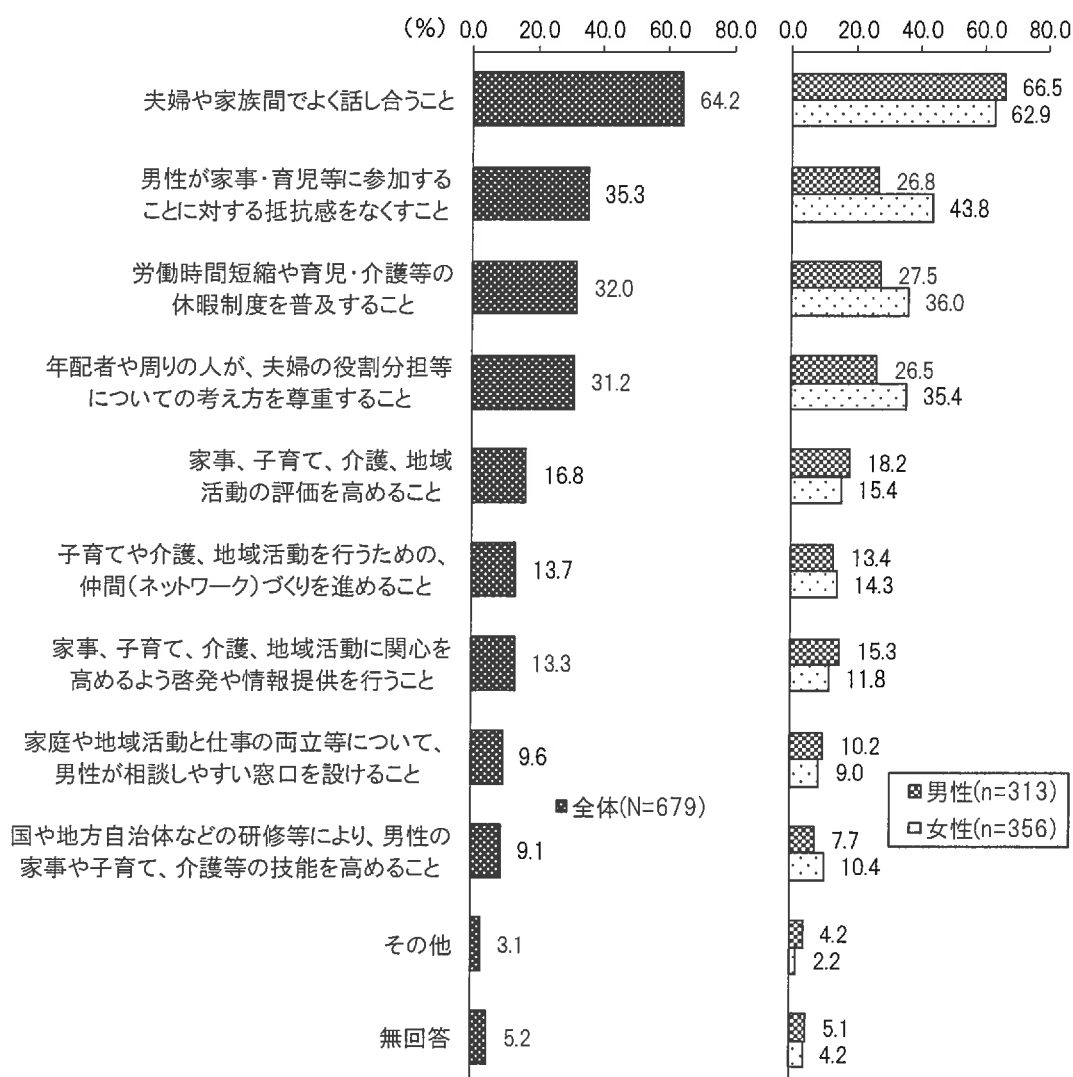
「自分の家庭は該当なし」→「する必要がない・わからない」

2 男性が家事等に積極的に参加していくために必要なこと

問 21 今後、男性が女性と共に家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○印3つまで）

男性が家事等に積極的に参加していくために必要なことについては、「夫婦や家族間でよく話し合うこと」の割合が64.2%と最も高く、次いで「男性が家事・育児等に参加することに対する抵抗感をなくすこと」（35.3%）、「労働時間短縮や育児・介護等の休暇制度を普及すること」（32.0%）、「年配者や周りの人が、夫婦の役割分担等についての考え方を尊重すること」（31.2%）の順となっている。

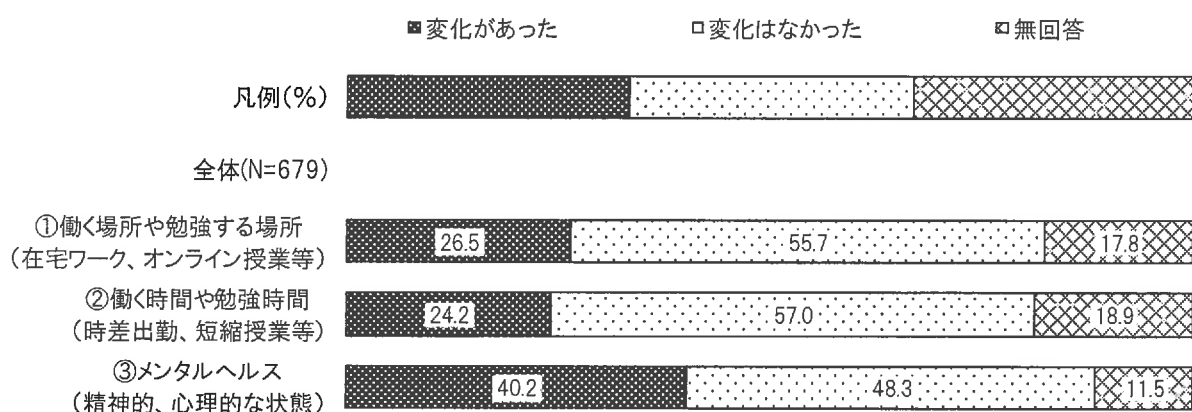
性別では、女性は「男性が家事・育児等に参加することに対する抵抗感をなくすこと」の割合が男性を大きく上回っている。



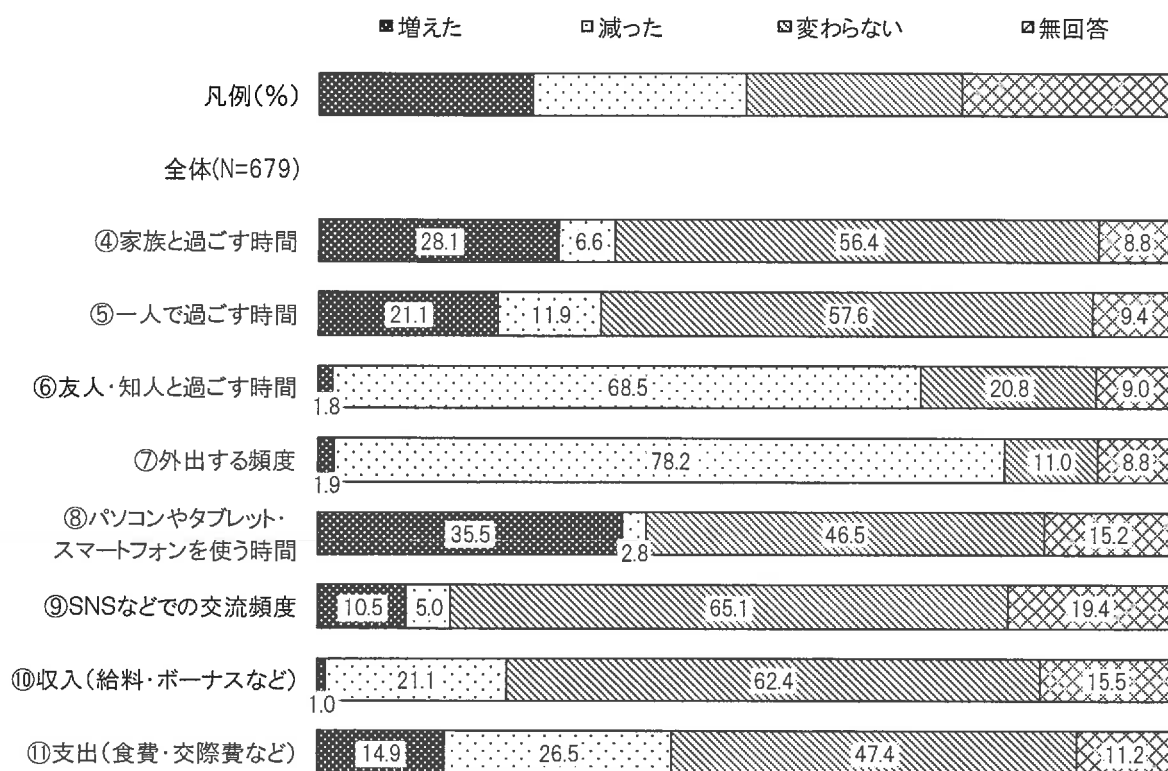
3 感染症拡大による生活への影響

問 22 新型コロナウイルス感染症の拡大による、あなたの生活への影響について、次
あげる項目それぞれについてお答えください。（○印1つずつ）

感染症拡大による生活への影響については、およそ4人に1人が「①働く場所や勉強する場所（在宅ワーク、オンライン授業等）」「②働く時間や勉強時間（時差出勤、短縮授業等）」に「変化があった」と回答しており、約4割が「③メンタルヘルス（精神的、心理的な状態）」に「変化があった」と回答している。



「増えた」の割合が高い順に、「⑧パソコンやタブレット・スマートフォンを使う時間」(35.5%)、「④家族と過ごす時間」(28.1%)、「⑤一人で過ごす時間」(21.1%)となっている。一方、「減った」の割合が高い順に、「⑦外出する頻度」(78.2%)、「⑥友人・知人と過ごす時間」(68.5%)となっている。

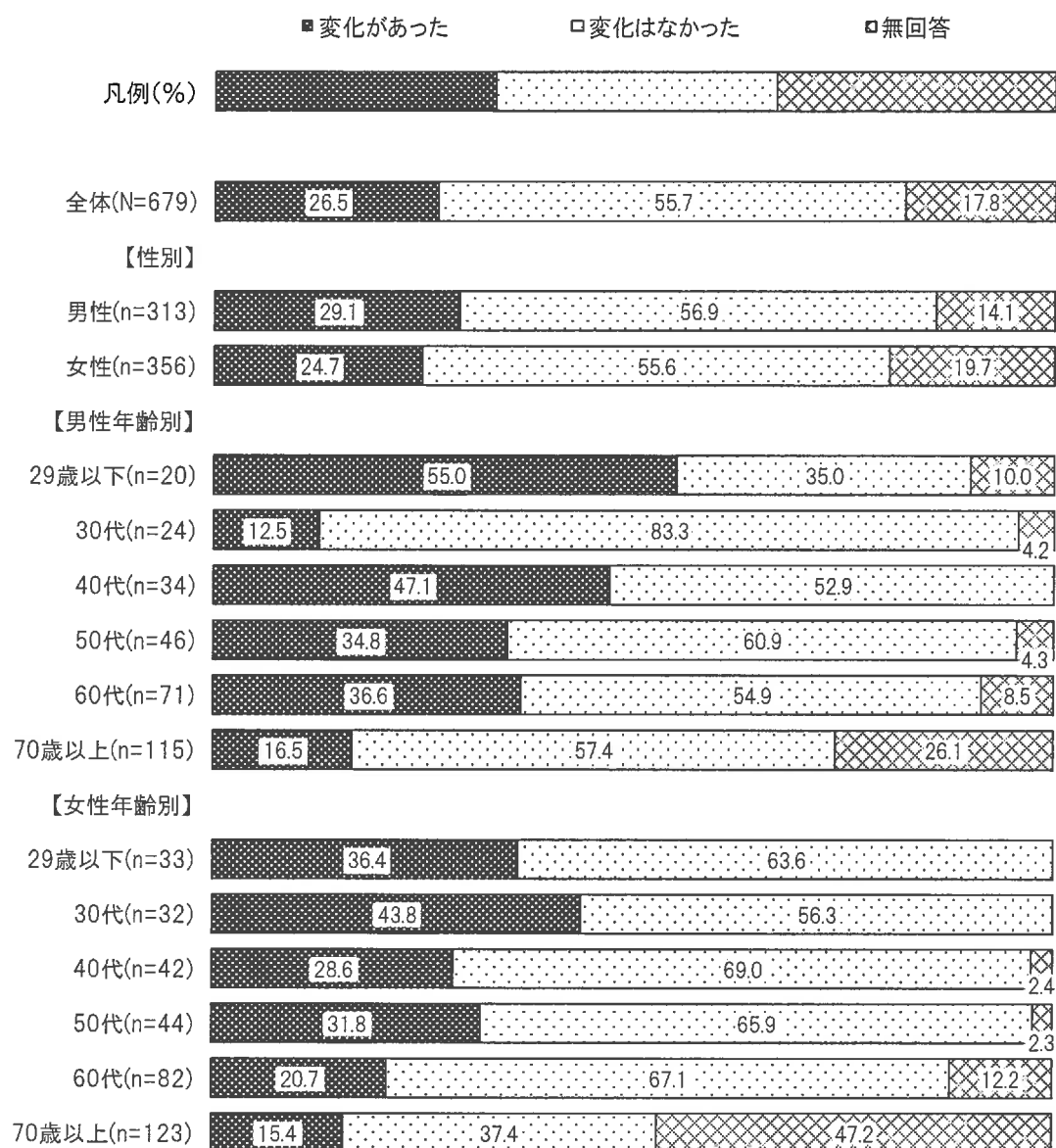


①働く場所や勉強する場所（在宅ワーク、オンライン授業等）

働く場所や勉強する場所については、「変化があった」が26.5%、「変化はなかった」が55.7%となっている。

性別では、男性は女性に比べ「変化があった」の割合がやや高くなっている。

年齢別では、男性の29歳以下や女性の30代で「変化があった」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。

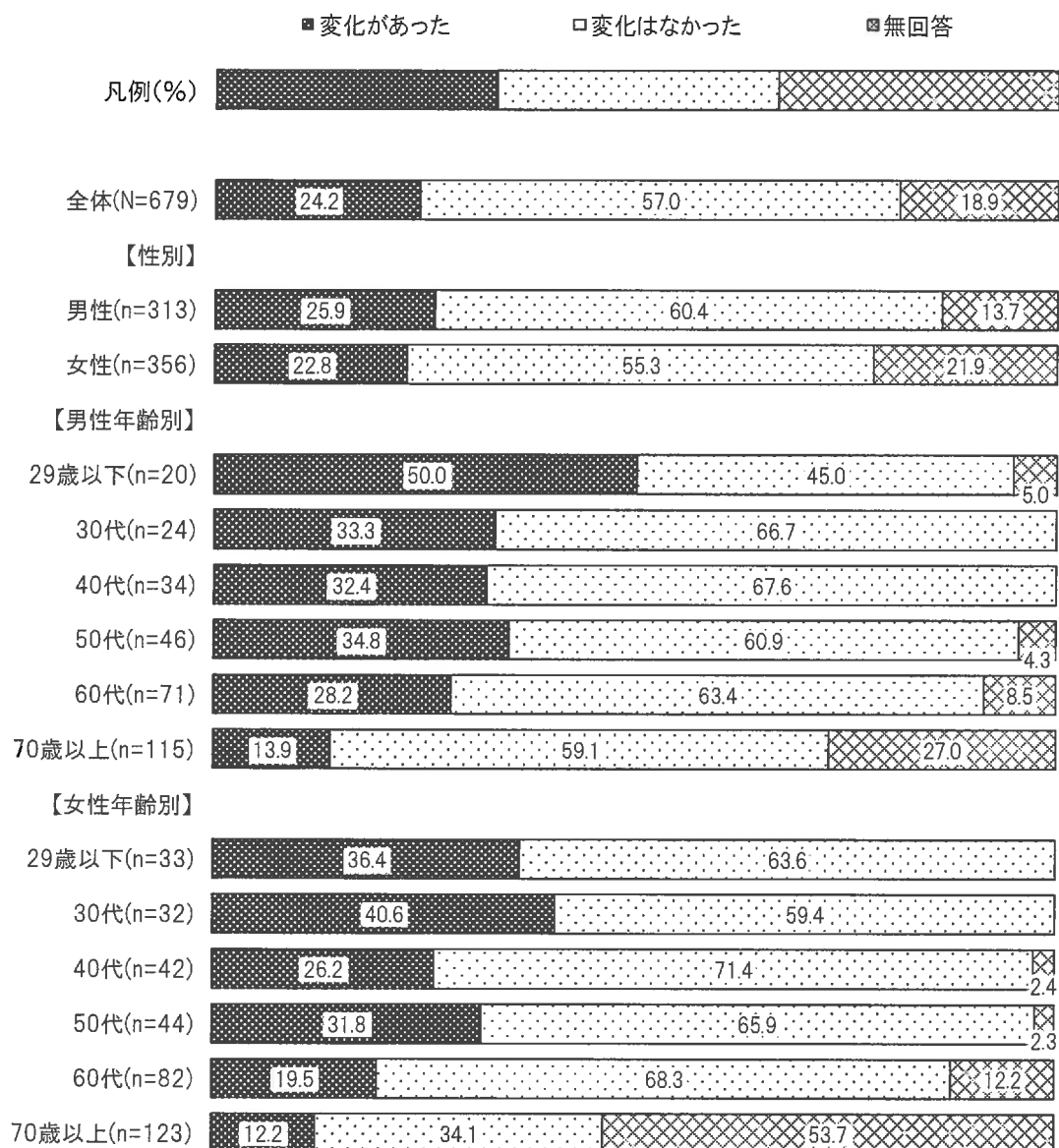


②働く時間や勉強時間（時差出勤、短縮授業等）

働く時間や勉強時間については、「変化があった」が24.2%、「変化はなかった」が57.0%となっている。

性別では、男性は女性に比べ「変化はなかった」の割合が高くなっている。

年齢別では、男性の29歳以下で「変化があった」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。

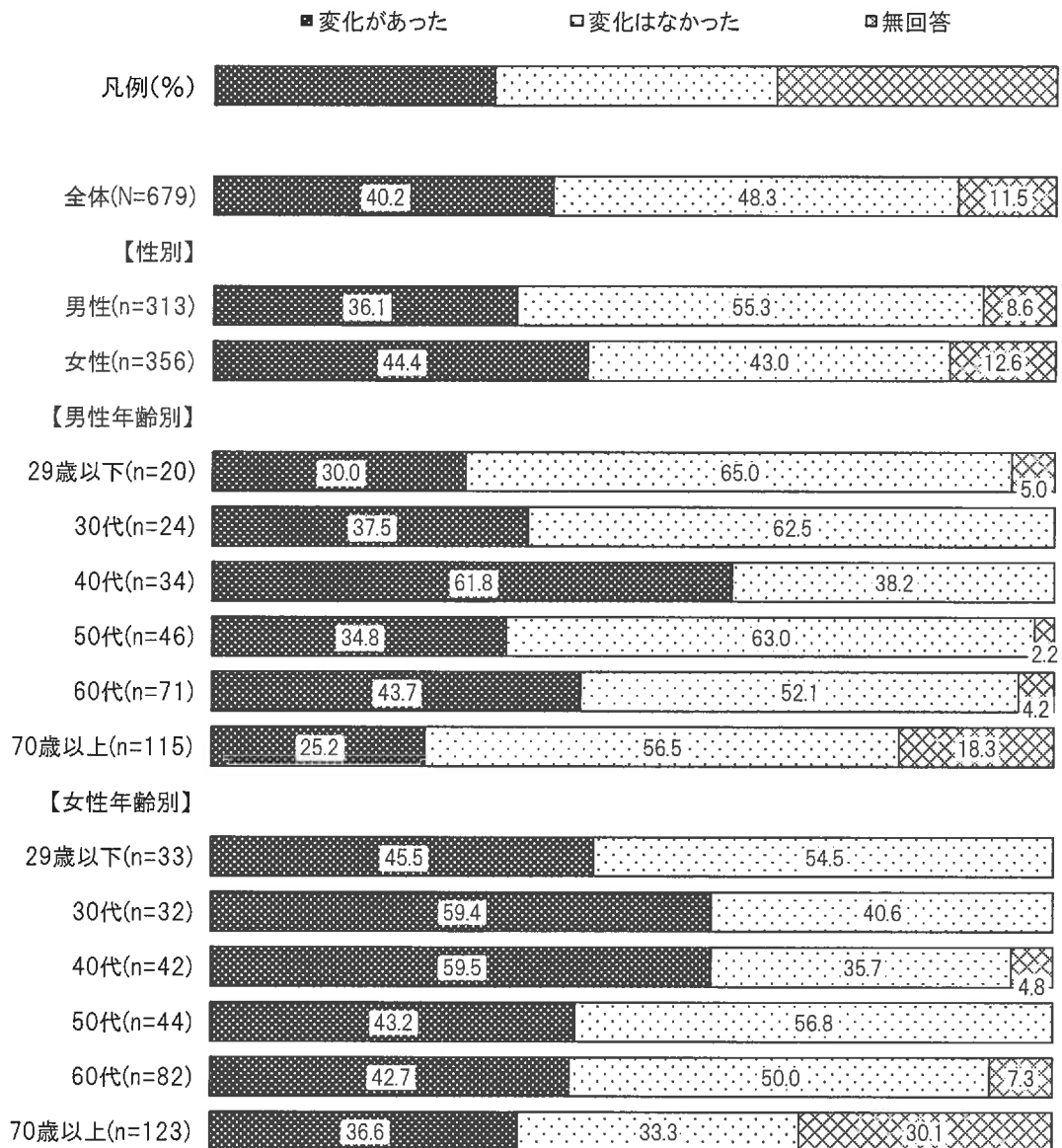


③メンタルヘルス（精神的、心理的な状態）

メンタルヘルスについては、「変化があった」が40.2%、「変化はなかった」が48.3%となっている。

性別では、女性は男性に比べ「変化があった」の割合が高くなっている。

年齢別では、男性の40代や女性の30～40代で「変化があった」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。

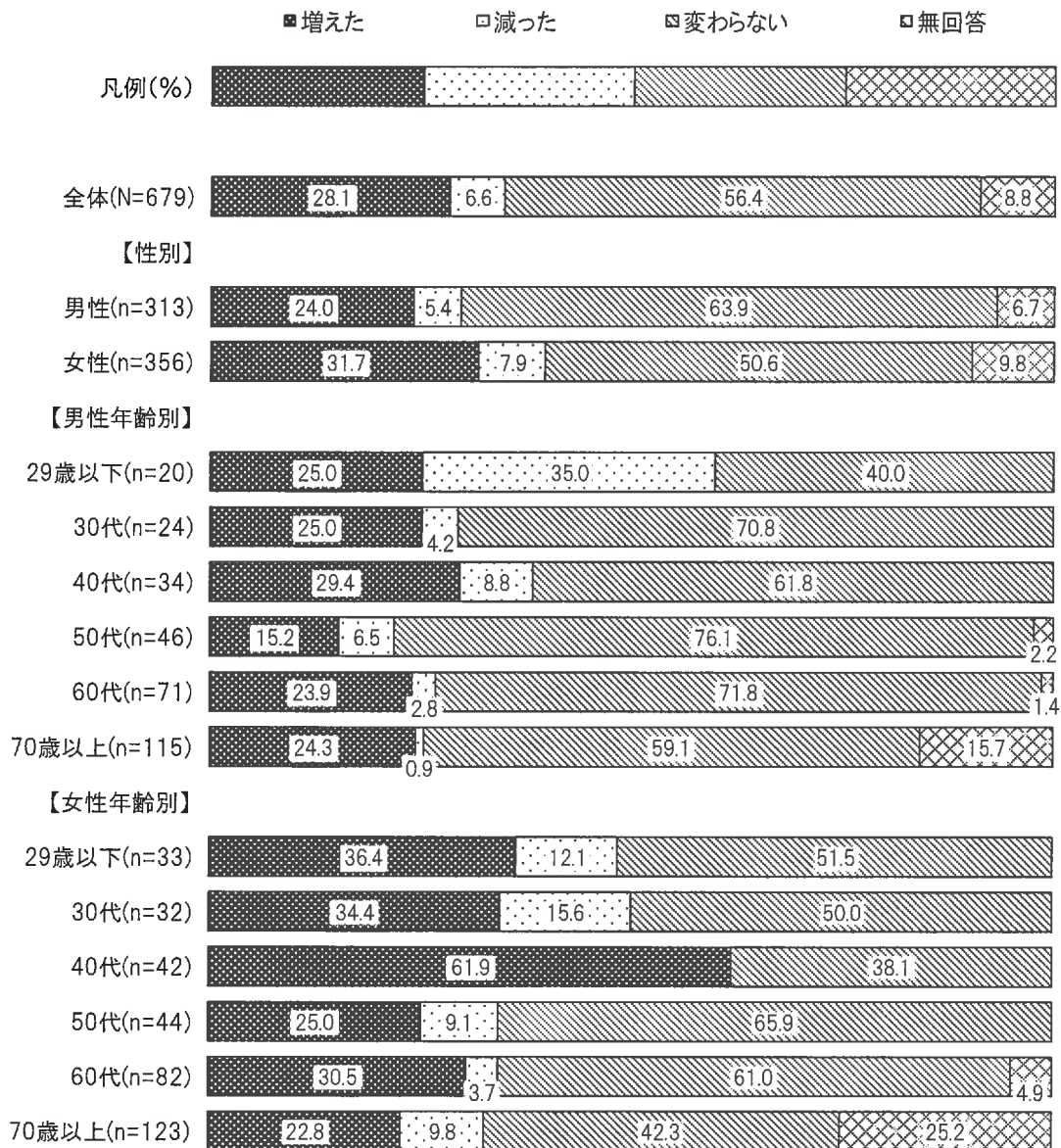


④家族と過ごす時間

家族と過ごす時間については、「増えた」が 28.1%、「減った」が 6.6%、「変わらない」が 56.4%となっている。

性別では、男性は「変わらない」の割合が女性を大きく上回っており、女性は男性に比べ「増えた」の割合が高くなっている。

年齢別では、男性の 29 歳以下で「減った」、女性の 40 代で「増えた」の割合がそれぞれ他の年齢層を大きく上回っている。

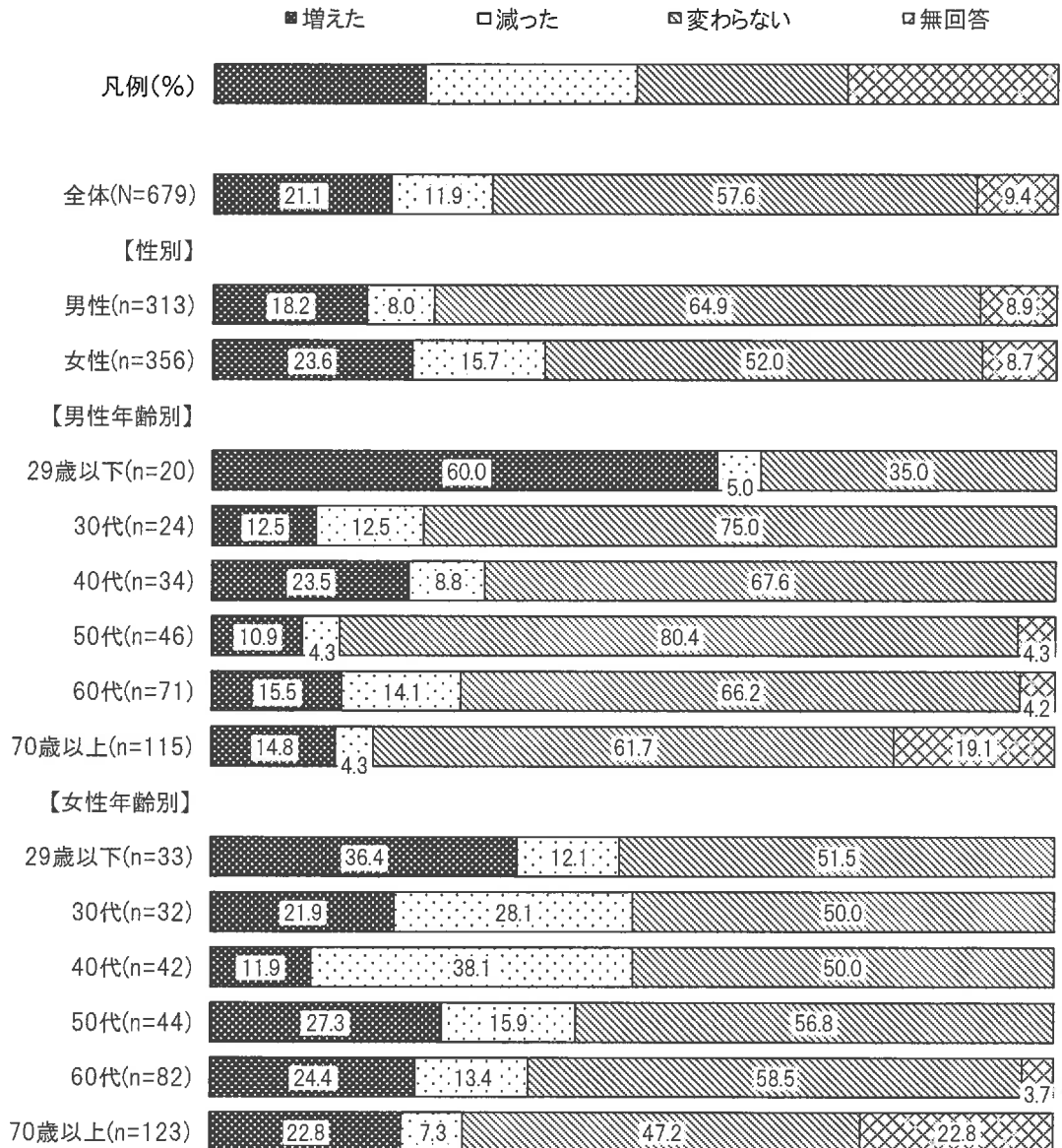


⑤一人で過ごす時間

一人で過ごす時間については、「増えた」が21.1%、「減った」が11.9%、「変わらない」が57.6%となっている。

性別では、男性は「変わらない」の割合が女性を大きく上回っており、女性は男性に比べ「増えた」「減った」の割合が高くなっている。

年齢別では、男女共に29歳以下で「増えた」、女性の30～40代で「減った」の割合がそれぞれ他の年齢層を大きく上回っている。

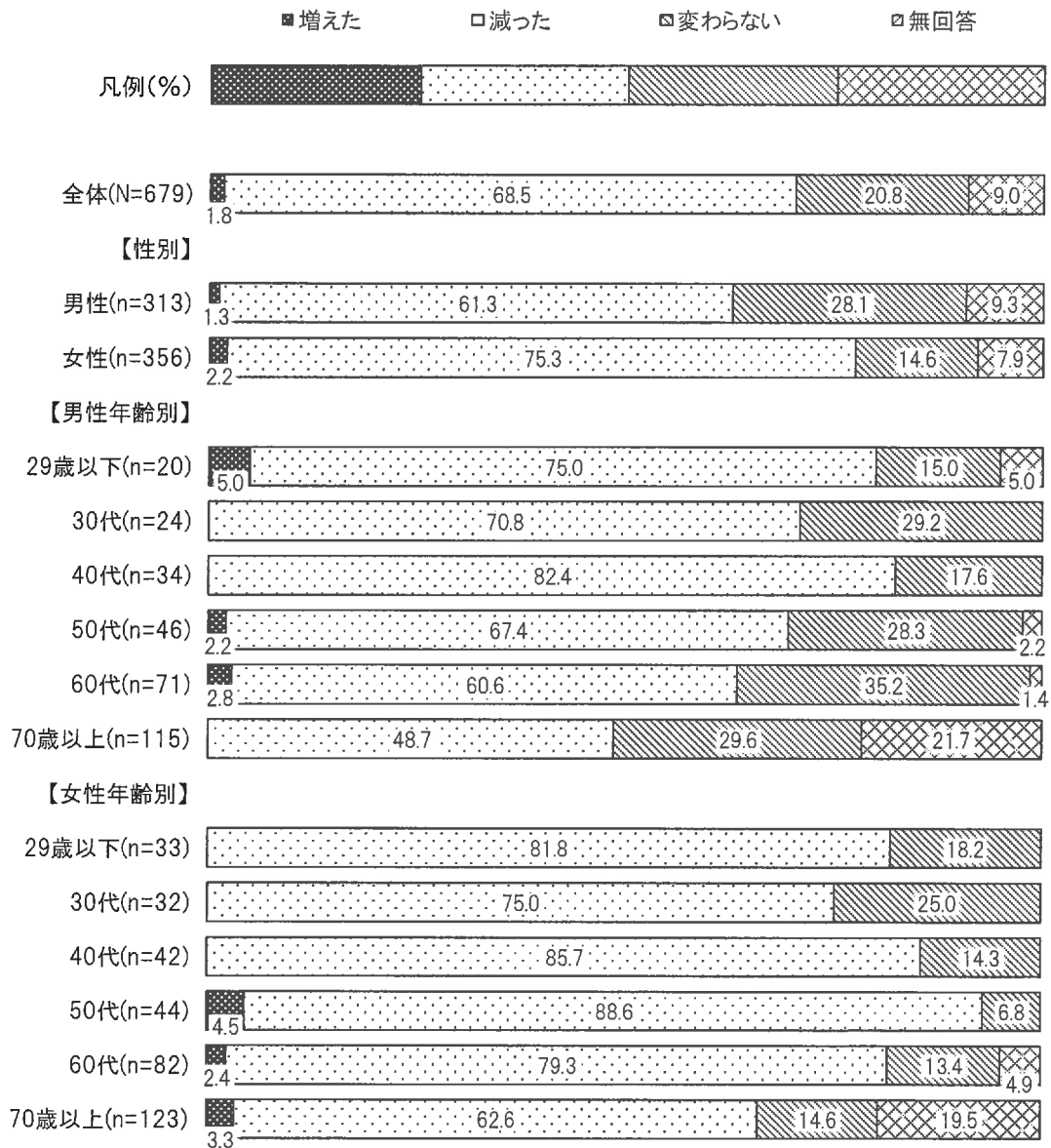


⑥友人・知人と過ごす時間

友人・知人と過ごす時間については、「増えた」が1.8%、「減った」が68.5%、「変わらない」が20.8%となっている。

性別では、男性は女性に比べ「変わらない」の割合が高く、女性は「減った」の割合が男性を大きく上回っている。

年齢別では、男性の29歳以下や40代、女性の40～50代で「減った」の割合がそれぞれの年齢層に比べて高くなっている。

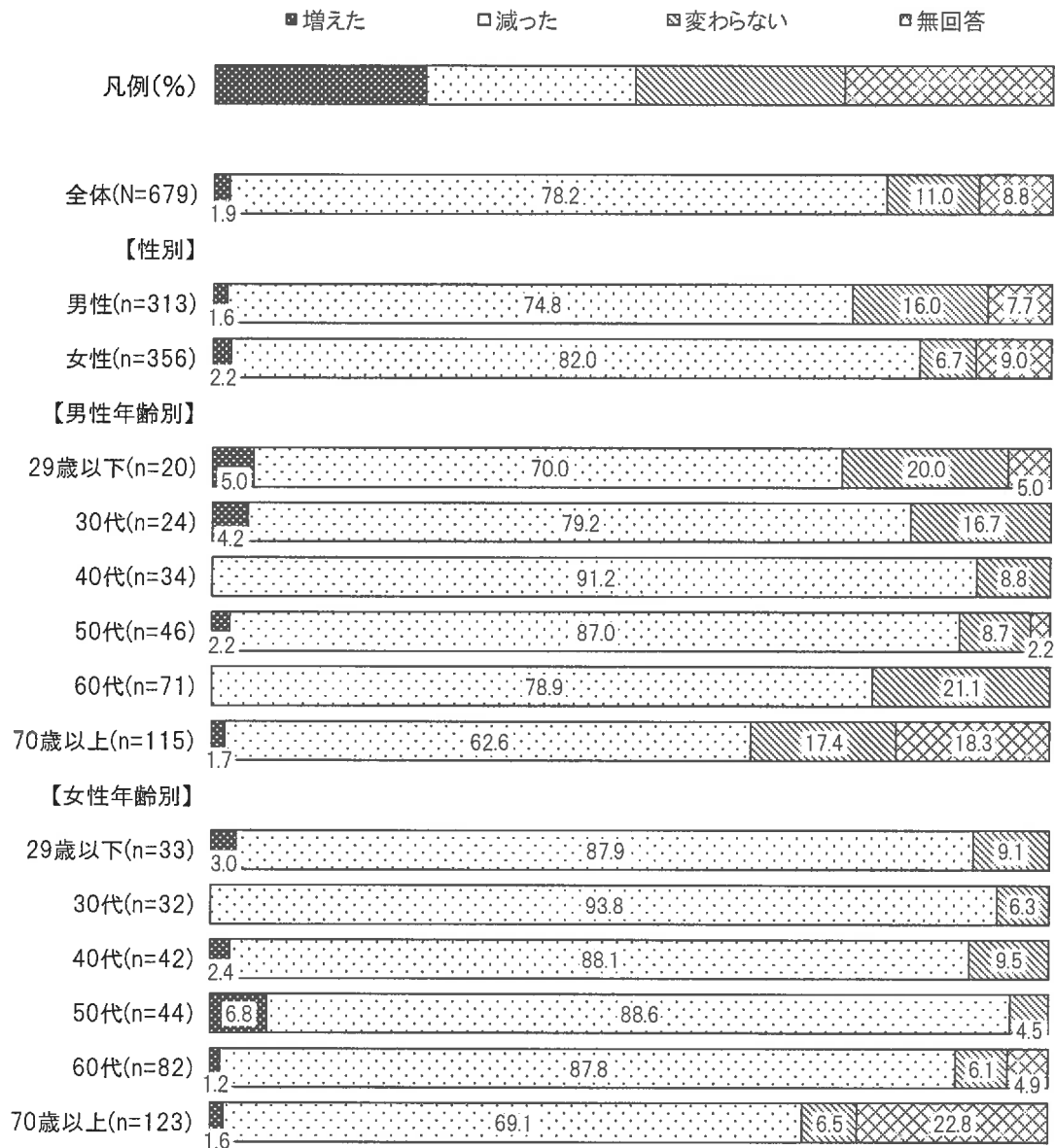


⑦外出する頻度

外出する頻度については、「増えた」が1.9%、「減った」が78.2%、「変わらない」が11.0%、「無回答」が8.8%となっている。

性別では、男性は女性に比べ「変わらない」の割合が高く、女性は「減った」の割合が男性を上回っている。

年齢別では、男性の40～50代で「減った」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。

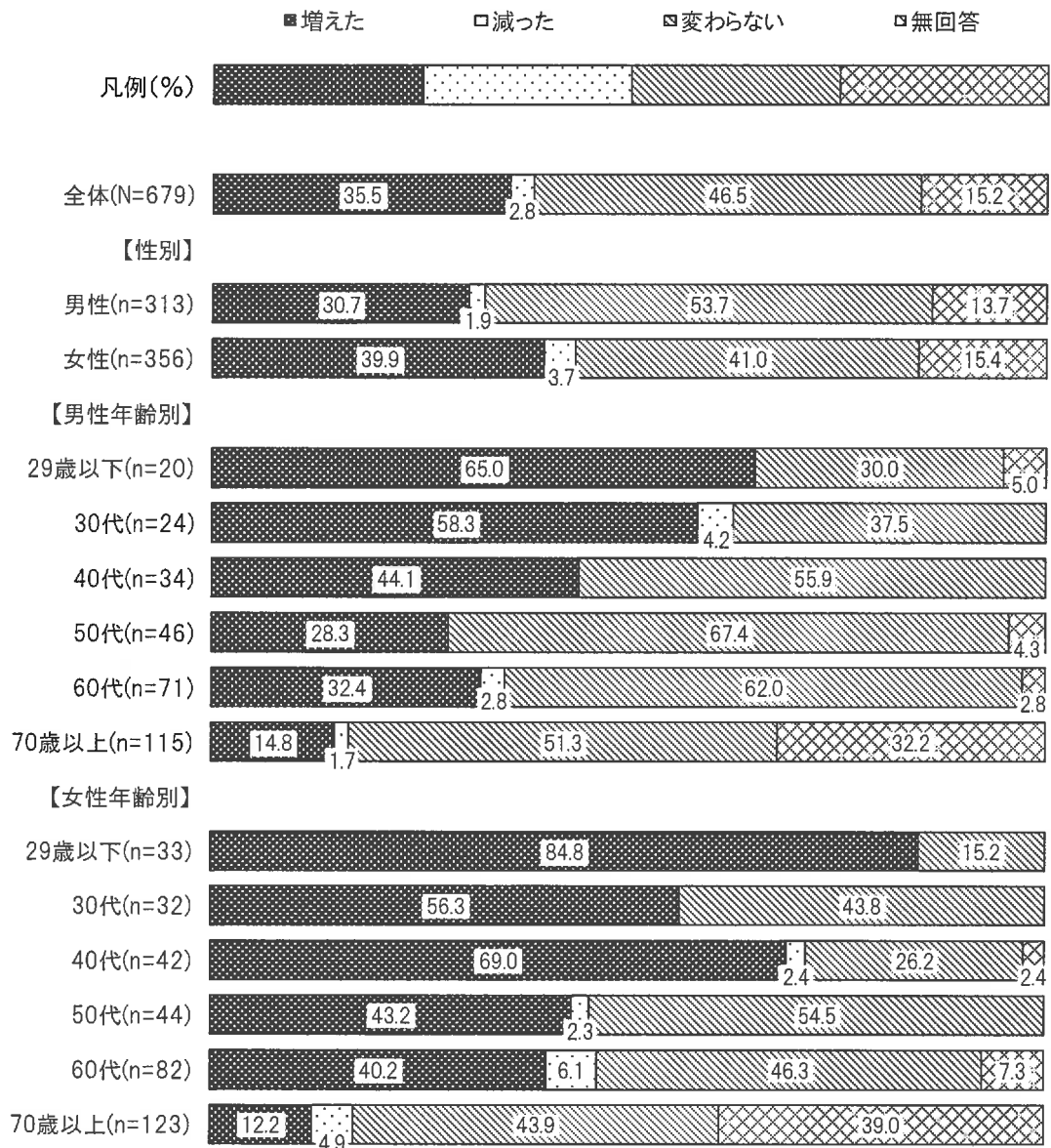


⑧パソコンやタブレット・スマートフォンを使う時間

パソコンやタブレット・スマートフォンを使う時間については、「増えた」が35.5%、「減った」が2.8%、「変わらない」が46.5%となっている。

性別では、男性は「変わらない」の割合が女性を大きく上回っており、女性は男性に比べ「増えた」の割合が高くなっている。

年齢別では、男女共におおむね若い年齢層ほど「増えた」の割合が高くなっている。

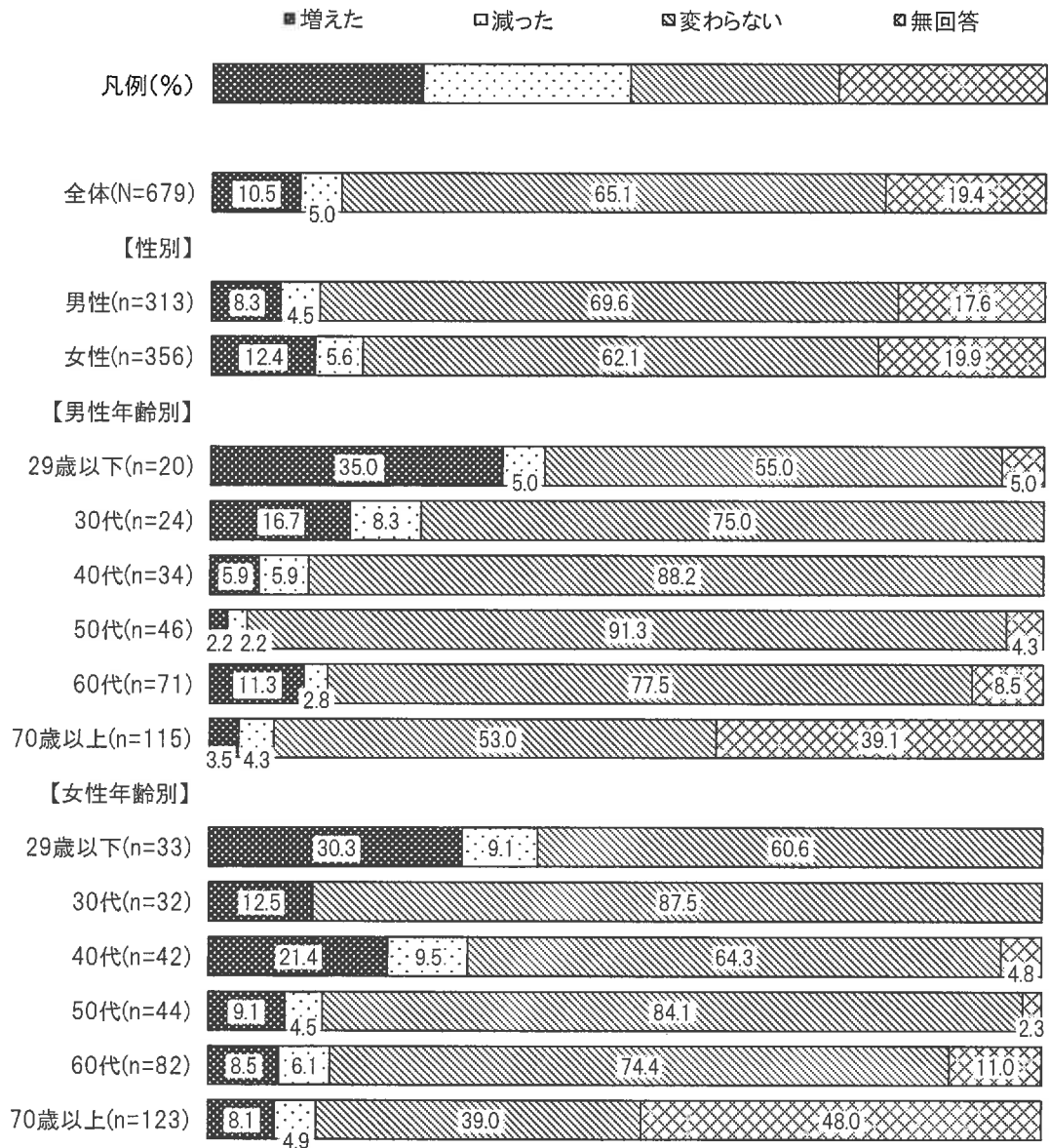


⑨ SNSなどでの交流頻度

SNSなどでの交流頻度については、「増えた」が10.5%、「減った」が5.0%、「変わらない」が65.1%となっている。

性別では、男性は女性に比べ「変わらない」の割合が高く、女性は「増えた」の割合が男性をやや上回っている。

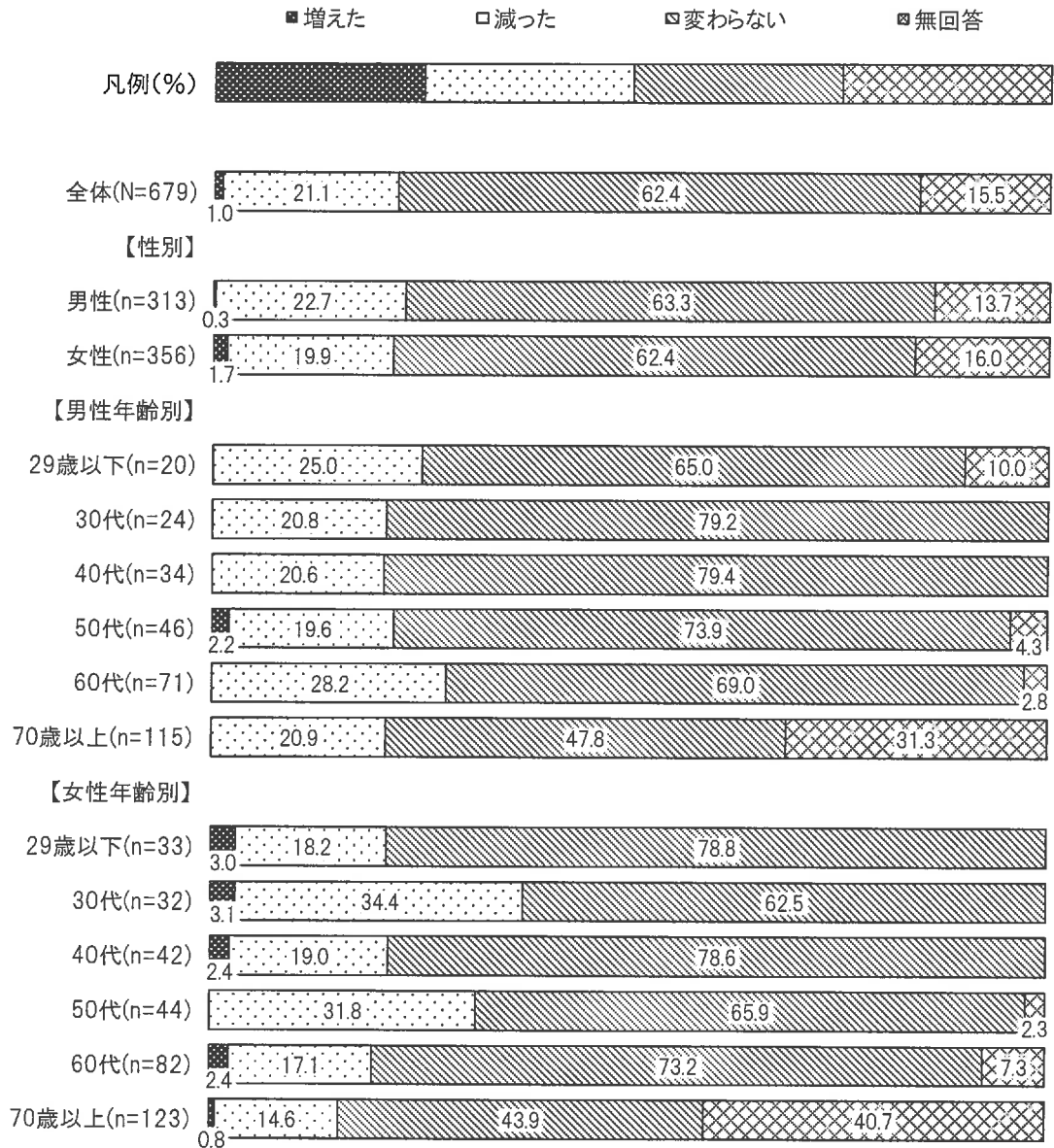
年齢別では、男女共に29歳以下や女性の40代で「増えた」の割合が他の年齢層を大きく上回っている。



⑩収入（給料・ボーナスなど）

収入については、「増えた」が1.0%、「減った」が21.1%、「変わらない」が62.4%となっている。

性別では大きな差はみられないが、年齢別では女性の30代や50代で「減った」の割合が他の年齢層を大きく上回っている。

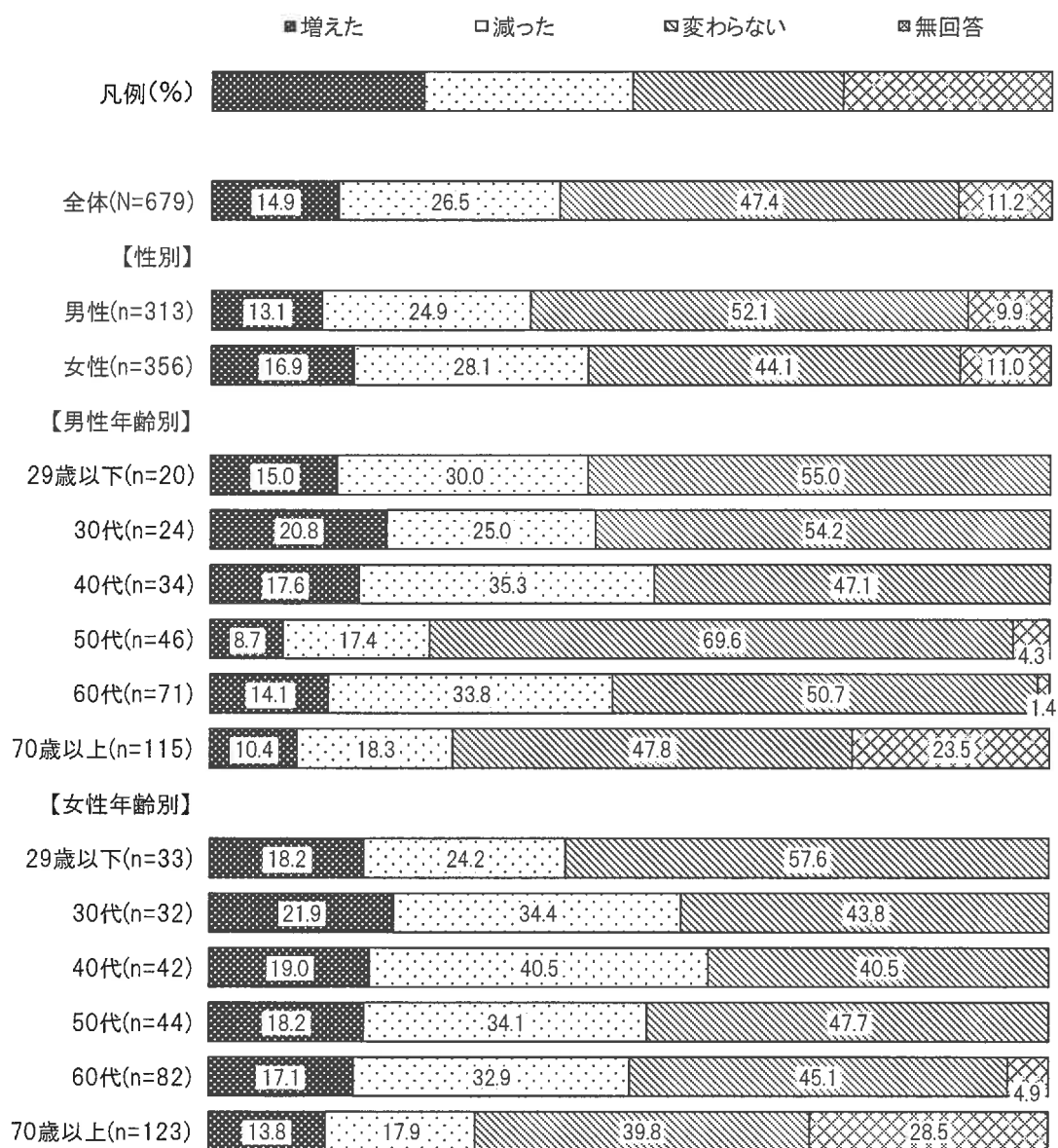


⑪支出（食費・交際費など）

支出については、「増えた」が14.9%、「減った」が26.5%、「変わらない」が47.4%となっている。

性別では、男性は女性に比べ「変わらない」の割合が高くなっている。

年齢別では、男性の50代で「変わらない」、女性の40代で「減った」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。



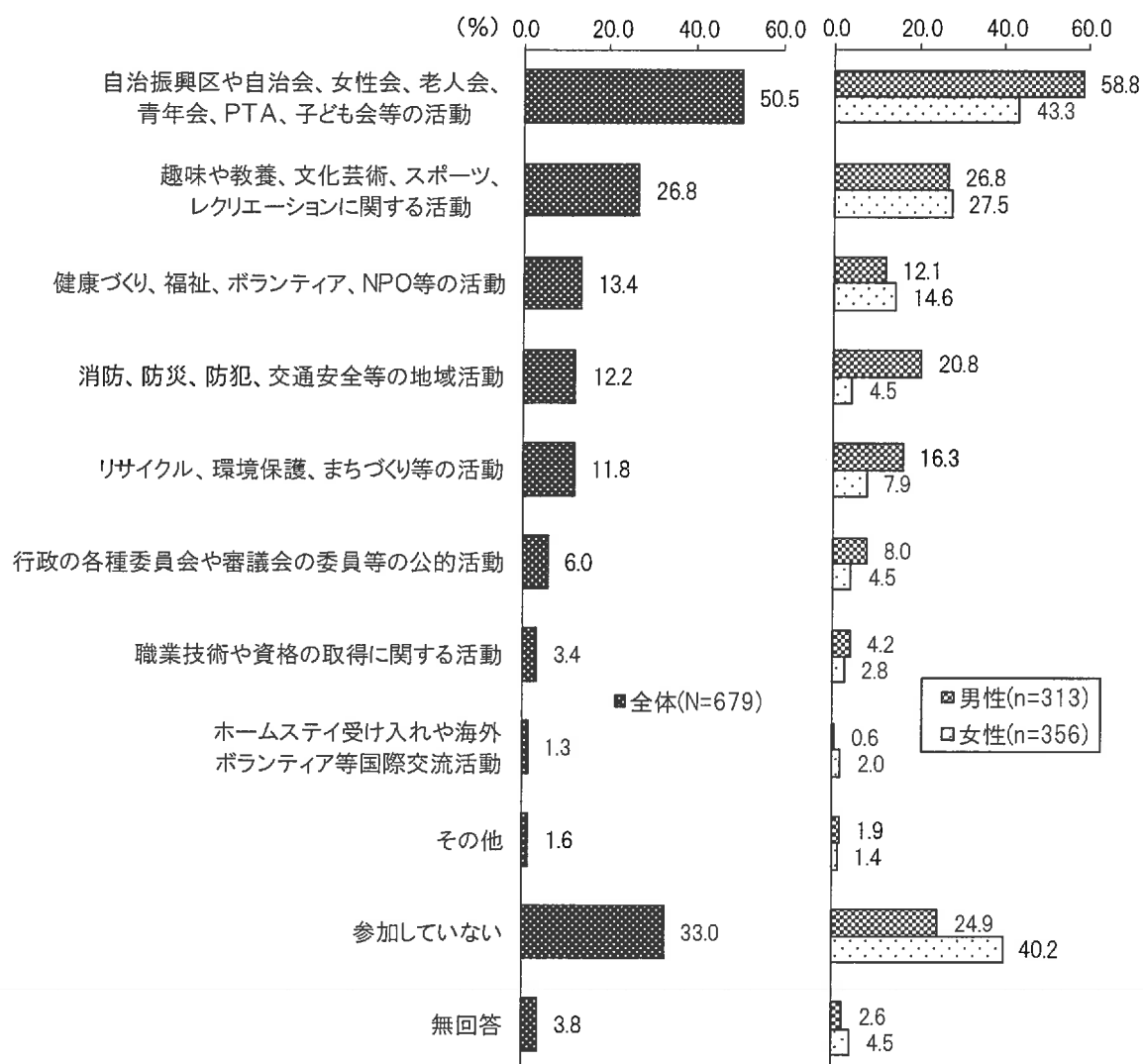
【4】地域活動について

1 地域活動への参加状況

問 23 あなたは、次のような活動に参加していますか。（○印いくつでも）

地域活動への参加状況については、「自治振興区や自治会、女性会、老人会、青年会、PTA、子ども会等の活動」の割合が50.5%と最も高く、次いで「趣味や教養、文化芸術、スポーツ、レクリエーションに関する活動」（26.8%）、「健康づくり、福祉、ボランティア、NPO等の活動」（13.4%）、「消防、防災、防犯、交通安全等の地域活動」（12.2%）の順となっている。一方、「参加していない」は33.0%となっている。

性別では、男性は「自治振興区や自治会、女性会、老人会、青年会、PTA、子ども会等の活動」「消防、防災、防犯、交通安全等の地域活動」の割合が女性を大きく上回っており、女性は男性に比べ「参加していない」の割合が高くなっている。

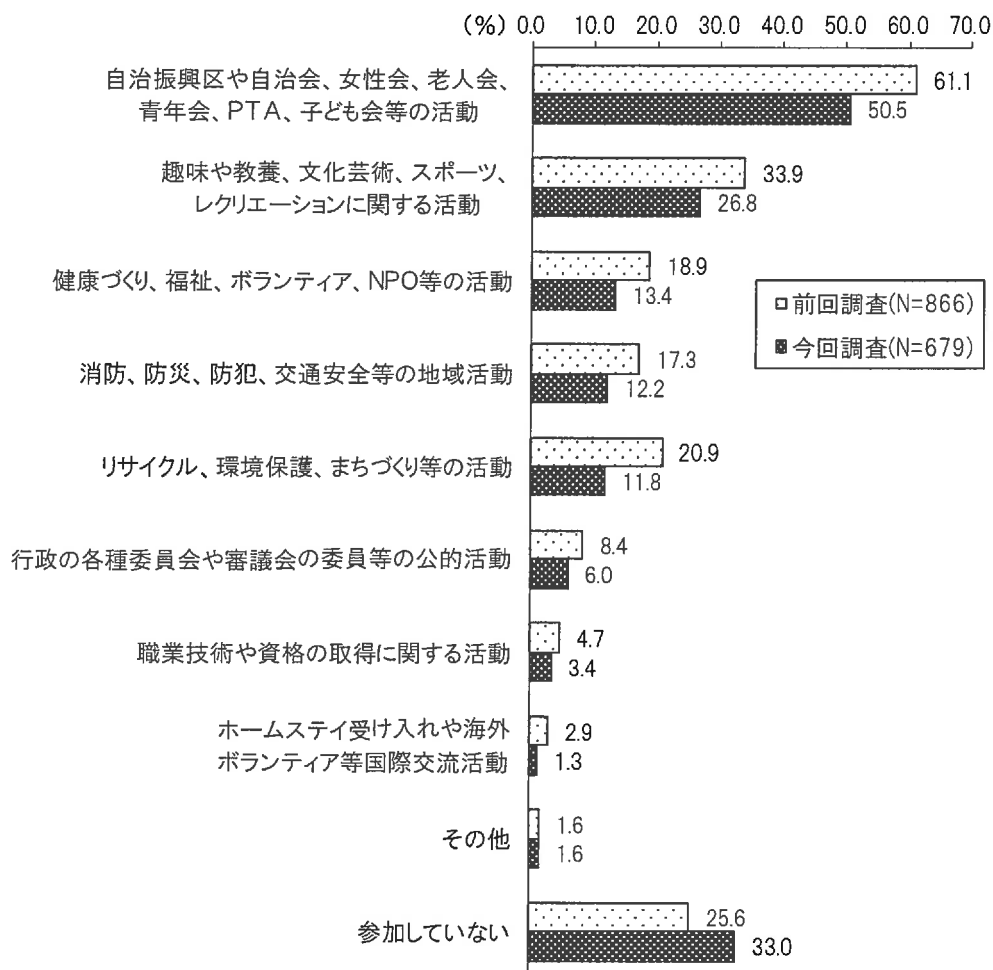


年齢別では、男性の 40～50 代で「消防、防災、防犯、交通安全等の地域活動」、女性の 40 代で「自治振興区や自治会、女性会、老人会、青年会、PTA、子ども会等の活動」、女性の 60 代以上で「趣味や教養、文化芸術、スポーツ、レクリエーションに関する活動」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高く、男女共に 29 歳以下で「参加していない」の割合が高くなっている。

単位 (%)	A、自治振興区や自治会、PTA、子ども会等の活動	趣味や教養、文化芸術に関する活動	健康づくり、NPO等の活動	消防、防災、防犯、交通安全等の地域活動	づくり等の活動	行政の各種委員会や審議会の委員等の公的活動	職業技術や資格の取得に関する活動	ホームステイ受け入れや海外ボランティア等国際交流活動	その他	参加していない
全体(N=679)	50.5	26.8	13.4	12.2	11.8	6.0	3.4	1.3	1.6	33.0
【男性年齢別】										
29歳以下(n=20)	10.0	15.0	10.0	5.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	70.0
30代(n=24)	25.0	29.2	4.2	4.2	8.3	0.0	12.5	0.0	0.0	54.2
40代(n=34)	70.6	23.5	5.9	44.1	14.7	8.8	11.8	0.0	0.0	14.7
50代(n=46)	65.2	23.9	15.2	32.6	10.9	4.3	6.5	0.0	0.0	28.3
60代(n=71)	70.4	21.1	12.7	15.5	21.1	9.9	2.8	2.8	2.8	14.1
70歳以上(n=115)	61.7	33.0	14.8	19.1	19.1	10.4	0.9	0.0	3.5	20.0
【女性年齢別】										
29歳以下(n=33)	6.1	15.2	3.0	6.1	0.0	0.0	6.1	0.0	0.0	75.8
30代(n=32)	40.6	9.4	3.1	0.0	3.1	3.1	6.3	3.1	3.1	46.9
40代(n=42)	59.5	26.2	19.0	7.1	14.3	2.4	7.1	0.0	0.0	35.7
50代(n=44)	43.2	18.2	6.8	4.5	2.3	2.3	0.0	4.5	2.3	43.2
60代(n=82)	50.0	34.1	22.0	3.7	9.8	9.8	1.2	1.2	0.0	30.5
70歳以上(n=123)	43.9	35.0	17.1	4.9	9.8	4.1	1.6	2.4	2.4	35.8

【時系列推移】

前回調査結果と比べ、「自治振興区や自治会、女性会、老人会、青年会、PTA、子ども会等の活動」「趣味や教養、文化芸術、スポーツ、レクリエーションに関する活動」「リサイクル、環境保護、まちづくり等の活動」などが減少し、「参加していない」が増加した。

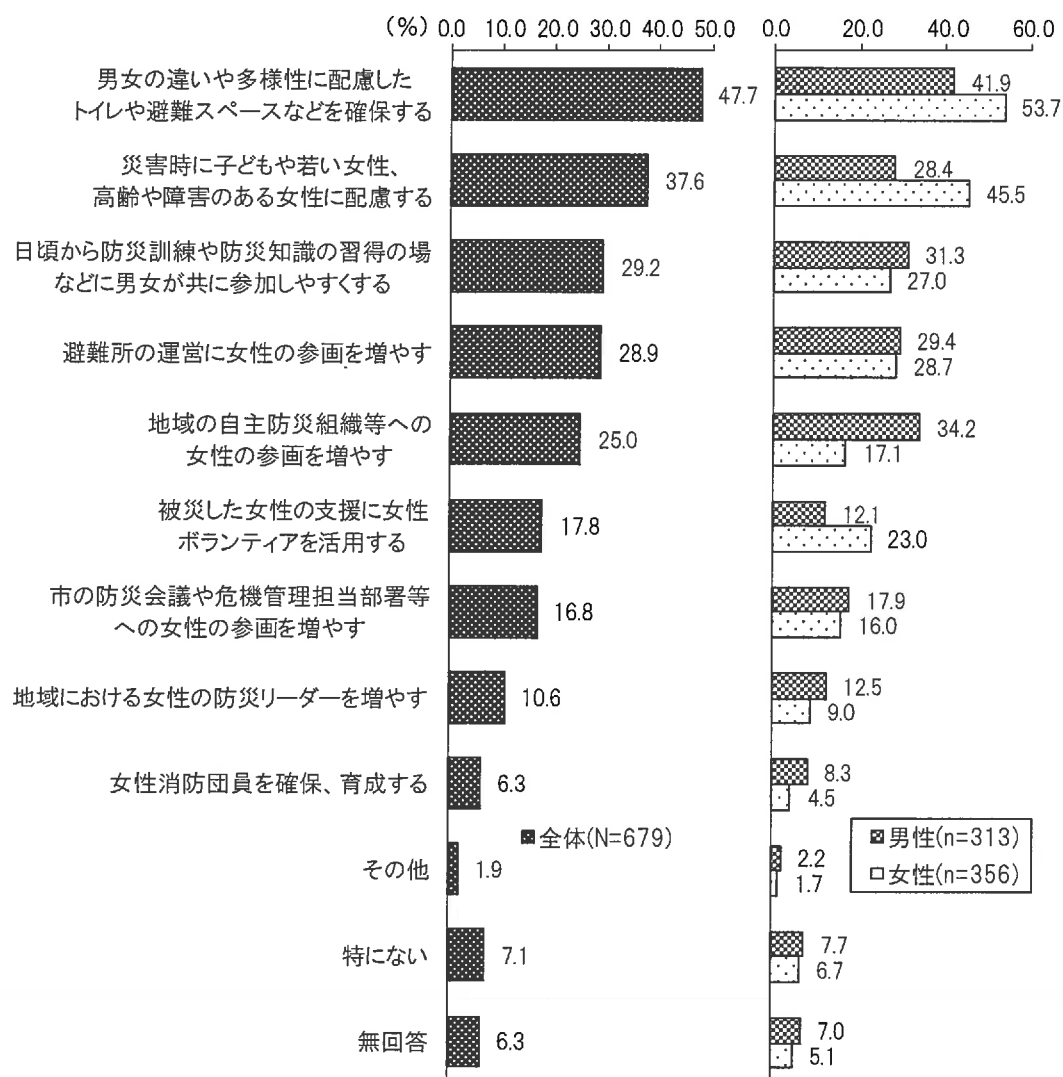


2 防災・災害復興対策で強化すべき女性に関する取組

問 24 防災・災害復興対策においては、避難所での着替えや授乳の問題など女性の視点が必要と言われています。今後、どのような取組を強化すべきだと思いますか。
(○印3つまで)

防災・災害復興対策で強化すべき女性に関する取組については、「男女の違いや多様性に配慮したトイレや避難スペースなどを確保する」の割合が47.7%と最も高く、次いで「災害時に子どもや若い女性、高齢や障害のある女性に配慮する」(37.6%)、「日頃から防災訓練や防災知識の習得の場などに男女が共に参加しやすくする」(29.2%)、「避難所の運営に女性の参画を増やす」(28.9%)の順となっている。

性別では、女性は「男女の違いや多様性に配慮したトイレや避難スペースなどを確保する」「災害時に子どもや若い女性、高齢や障害のある女性に配慮する」などの割合が男性を大きく上回っている。



【5】暴力等の防止について

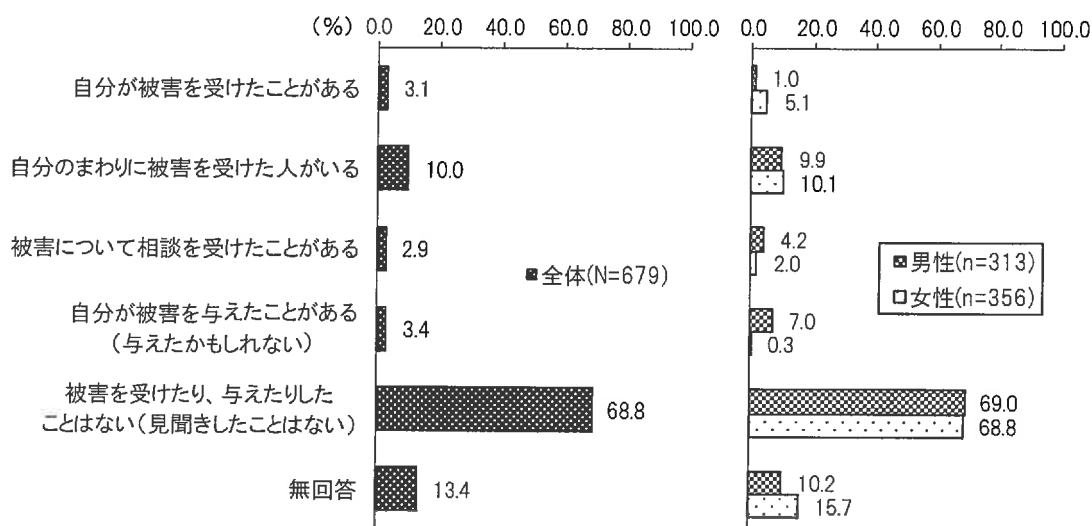
1 各種ハラスメントに関する経験

問 25 あなたは、次の①から③までの行為について、最近3年ぐらいの間に、経験したり、身近で見聞きしたりしたことがありますか。（○印それぞれいくつでも）

①セクシュアルハラスメント（セクハラ）

セクシュアルハラスメントの経験については、「自分が被害を受けたことがある」が3.1%、「自分のまわりに被害を受けた人がある」が10.0%となっている。また、「被害について相談を受けたことがある」は2.9%、「自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）」は3.4%であった。

年齢別でみると、女性の50代で「自分が被害を受けたことがある」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。

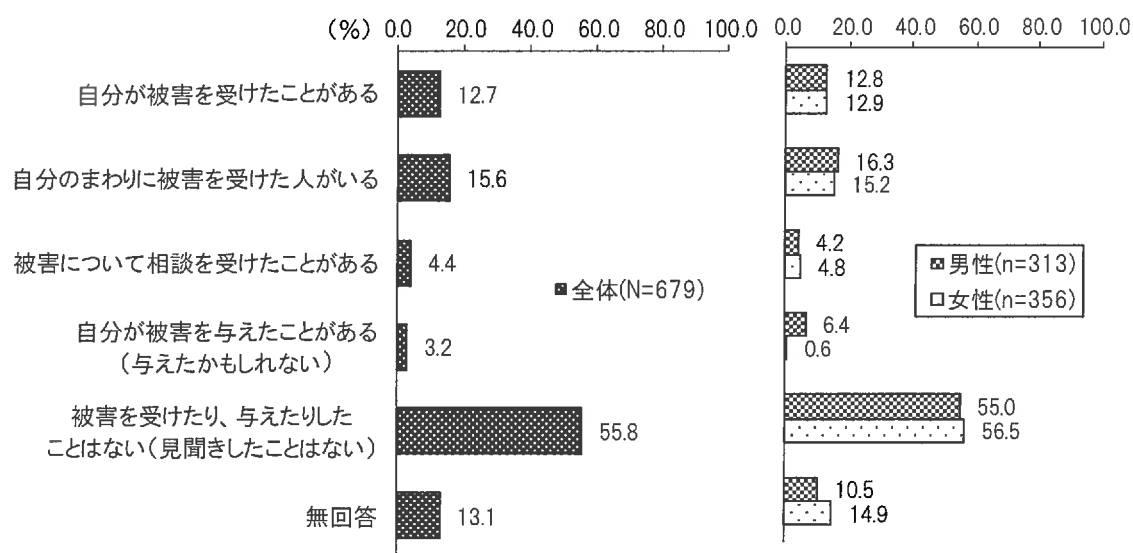


凡例 (%)	自分が被害を受けたことがある	自分のまわりに被害を受けた人がある	被害について相談を受けたことがある	自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）	被害を受けたり、与えたりしたことはない（見聞きしたことはない）
全体(N=679)	3.1	10.0	2.9	3.4	68.8
【男性年齢別】					
29歳以下(n=20)	0.0	15.0	5.0	5.0	65.0
30代(n=24)	4.2	12.5	0.0	4.2	75.0
40代(n=34)	0.0	20.6	5.9	8.8	64.7
50代(n=46)	2.2	23.9	2.2	6.5	65.2
60代(n=71)	1.4	7.0	8.5	8.5	73.2
70歳以上(n=115)	0.0	1.7	1.7	7.0	69.6
【女性年齢別】					
29歳以下(n=33)	6.1	12.1	0.0	3.0	81.8
30代(n=32)	6.3	18.8	3.1	0.0	78.1
40代(n=42)	4.8	14.3	2.4	0.0	78.6
50代(n=44)	13.6	20.5	4.5	0.0	61.4
60代(n=82)	6.1	7.3	1.2	0.0	74.4
70歳以上(n=123)	0.8	4.1	1.6	0.0	58.5

②パワーハラスメント（パワハラ）

パワーハラスメントの経験については、「自分が被害を受けたことがある」が 12.7%、「自分のまわりに被害を受けた人がある」が 15.6%となっている。また、「被害について相談を受けたことがある」は 4.4%、「自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）」は 3.2%であった。

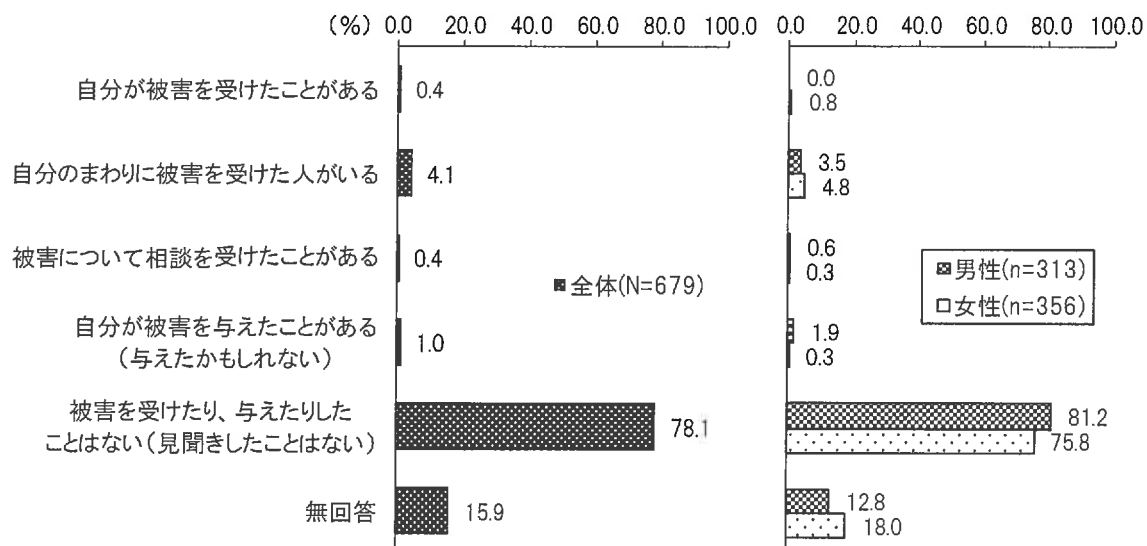
年齢別でみると、女性の 50 代で「自分が被害を受けたことがある」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。



凡例 (%)	自分が被害を受けたことがある	自分のまわりに被害を受けた人がある	被害について相談を受けたことがある	自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）	被害を受けたり、与えたりしたことはない（見聞きしたことはない）
全体(N=679)	12.7	15.6	4.4	3.2	55.8
【男性年齢別】					
29歳以下(n=20)	10.0	15.0	0.0	5.0	60.0
30代(n=24)	25.0	33.3	0.0	0.0	37.5
40代(n=34)	23.5	32.4	5.9	5.9	44.1
50代(n=46)	23.9	23.9	10.9	8.7	45.7
60代(n=71)	11.3	12.7	5.6	9.9	59.2
70歳以上(n=115)	4.3	7.8	0.9	5.2	62.6
【女性年齢別】					
29歳以下(n=33)	15.2	21.2	3.0	0.0	69.7
30代(n=32)	9.4	18.8	3.1	0.0	71.9
40代(n=42)	19.0	23.8	0.0	2.4	54.8
50代(n=44)	29.5	25.0	15.9	0.0	40.9
60代(n=82)	13.4	14.6	3.7	1.2	61.0
70歳以上(n=123)	4.9	6.5	4.1	0.0	52.0

③マタニティハラスメント（マタハラ）

マタニティハラスメントの経験については、「自分が被害を受けたことがある」が0.4%、「自分のまわりに被害を受けた人がある」が4.1%となっている。また、「被害について相談を受けたことがある」は0.4%、「自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）」は1.0%であった。

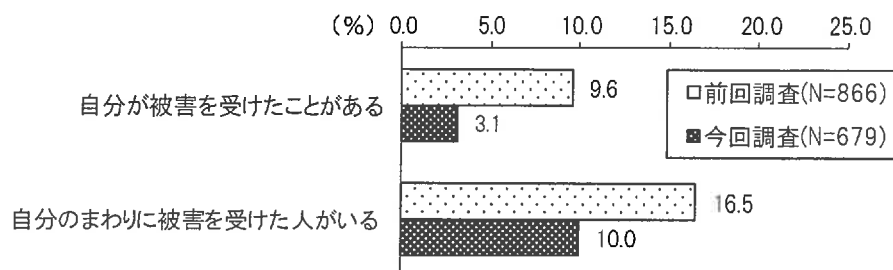


凡例（％）	自分が被害を受けたことがある	自分のまわりに被害を受けた人がある	被害を受けたことについて相談を受けたことがある	自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）	被害を受けたり、与えたりしたことはない（見聞きしたことはない）
全体(N=679)	0.4	4.1	0.4	1.0	78.1
【男性年齢別】					
29歳以下(n=20)	0.0	0.0	0.0	0.0	90.0
30代(n=24)	0.0	4.2	0.0	0.0	87.5
40代(n=34)	0.0	8.8	5.9	0.0	82.4
50代(n=46)	0.0	4.3	0.0	2.2	87.0
60代(n=71)	0.0	4.2	0.0	2.8	90.1
70歳以上(n=115)	0.0	1.7	0.0	2.6	70.4
【女性年齢別】					
29歳以下(n=33)	0.0	6.1	0.0	0.0	93.9
30代(n=32)	0.0	6.3	0.0	0.0	93.8
40代(n=42)	2.4	7.1	0.0	2.4	85.7
50代(n=44)	2.3	9.1	0.0	0.0	81.8
60代(n=82)	1.2	4.9	0.0	0.0	80.5
70歳以上(n=123)	0.0	1.6	0.8	0.0	57.7

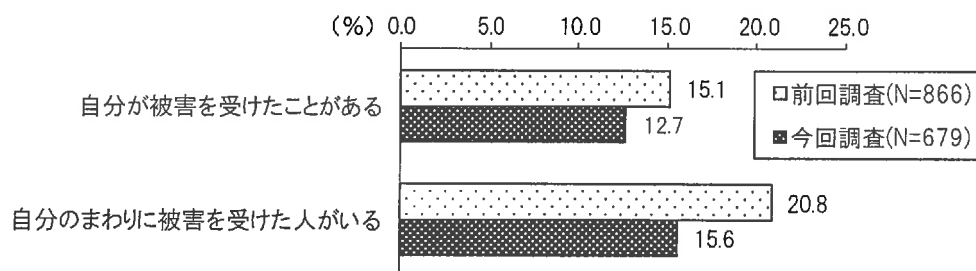
【時系列推移】

前回調査では「最近3年ぐらいの間に」という制約がないため、単純な比較はできないが、ほぼ同傾向となっている。

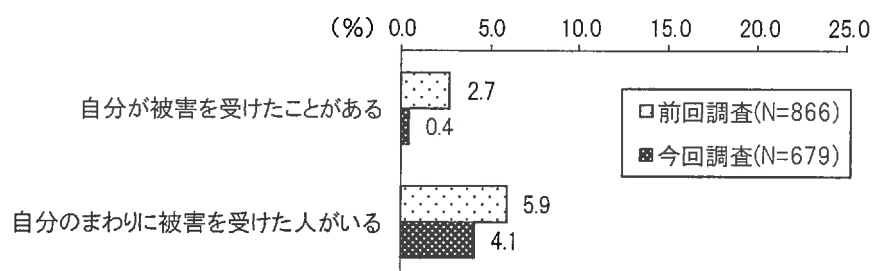
①セクシュアルハラスメント(セクハラ)



②パワーハラスメント(パワハラ)



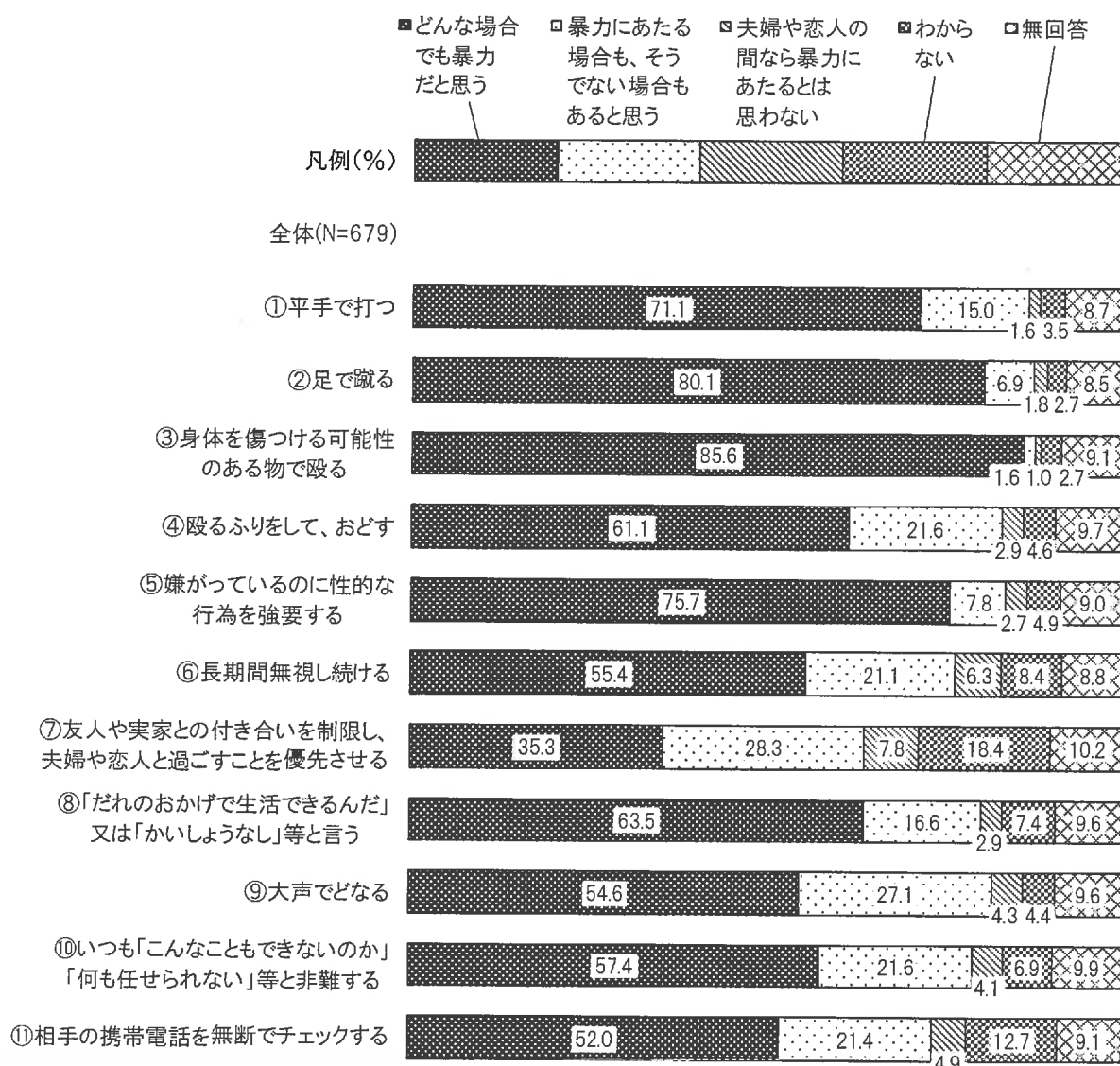
③マタニティハラスメント(マタハラ)



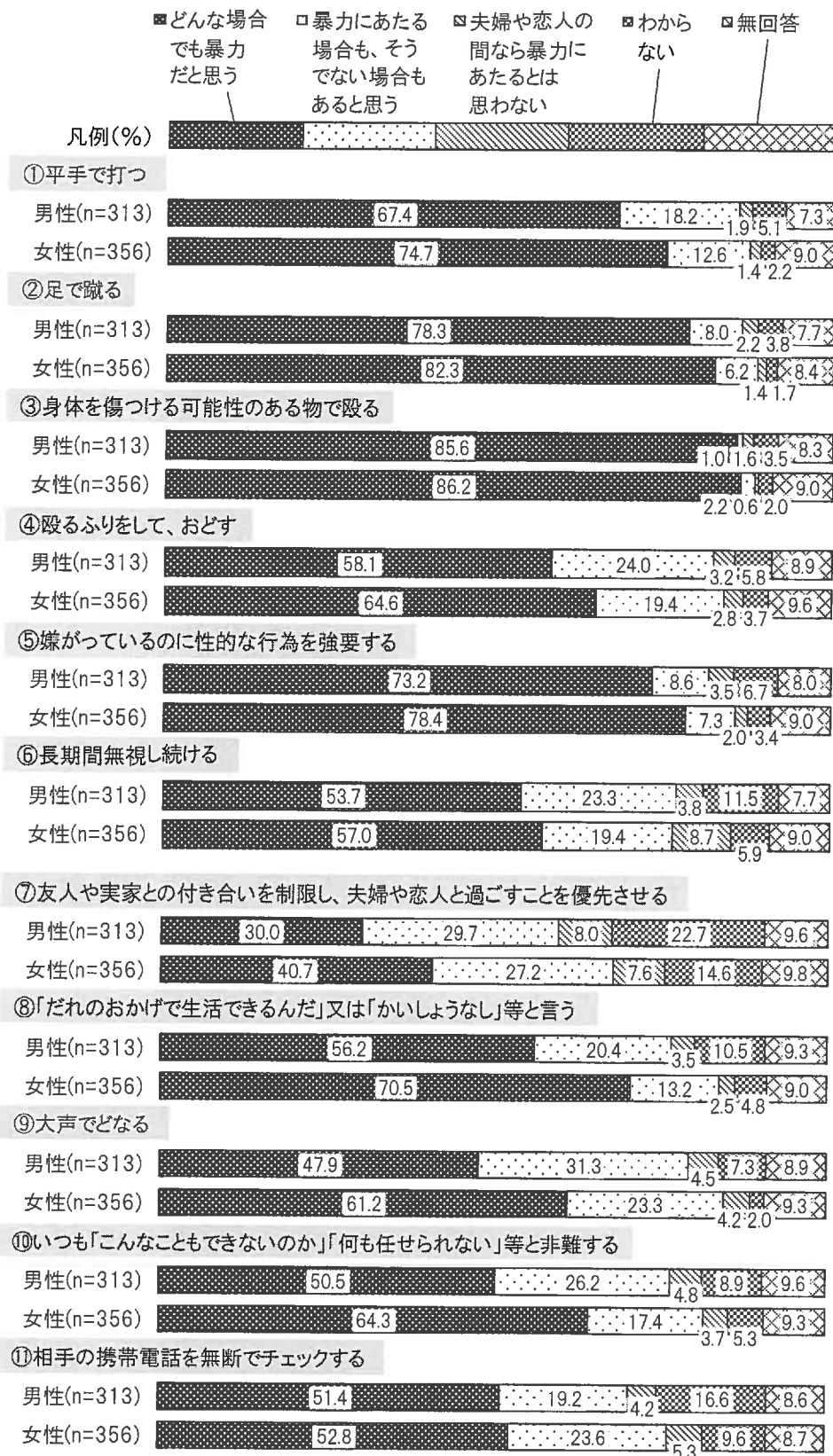
2 暴力の認識

問 26 あなたは、次のようなことが夫婦や恋人・パートナーの間で行われたとしたら、それは暴力（ドメスティック・バイオレンス）だと思いますか。（○印1つずつ）

暴力の認識については、「どんな場合でも暴力だと思う」の割合が高い順に、「③身体を傷つける可能性のある物で殴る」（85.6%）、「②足で蹴る」（80.1%）、「⑤嫌がっているのに性的な行為を強要する」（75.7%）、「①平手で打つ」（71.1%）となっている。また、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が高い項目として、「⑦友人や実家との付き合いを制限し、夫婦や恋人と過ごすことを優先させる」（28.3%）、「⑨大声でどなる」（27.1%）などがあげられる。

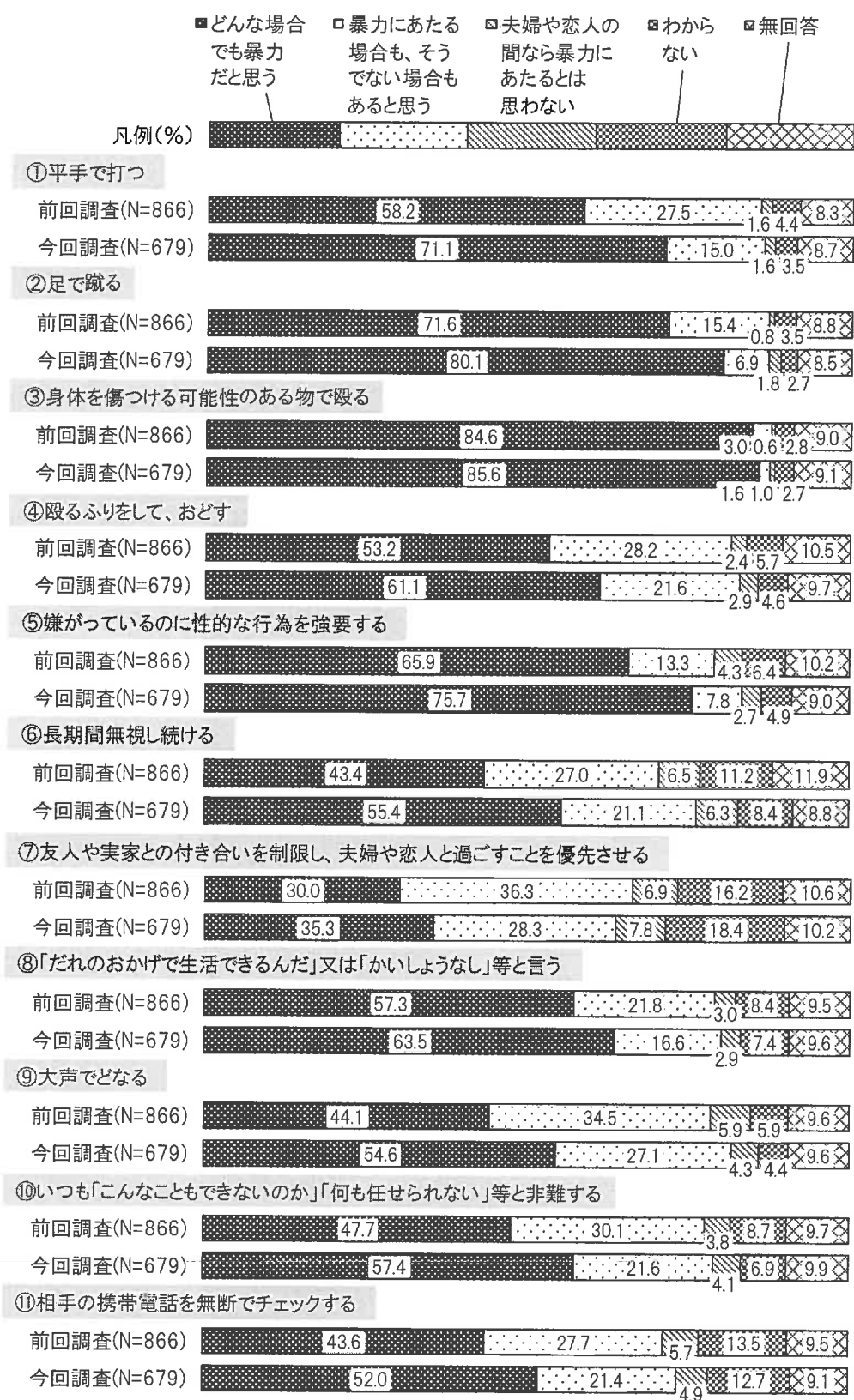


性別では、男性に比べ女性で「どんな場合でも暴力だと思う」の割合が高い項目として、「⑦友人や実家との付き合いを制限し、夫婦や恋人と過ごすことを優先させる」「⑧だれのおかげで生活できるんだ、又は「かいしょうなし」等と言う」「⑨大声でどなる」「⑩いつもこんなこともできないのか、何も任せられない等と非難する」があげられる。



【時系列推移】

前回調査結果と比べ、「どんな場合でも暴力だと思う」が増加した項目が多くみられ、特に「①平手で打つ」「⑥長期間無視し続ける」「⑨大声でどなる」などが大きく増加した。

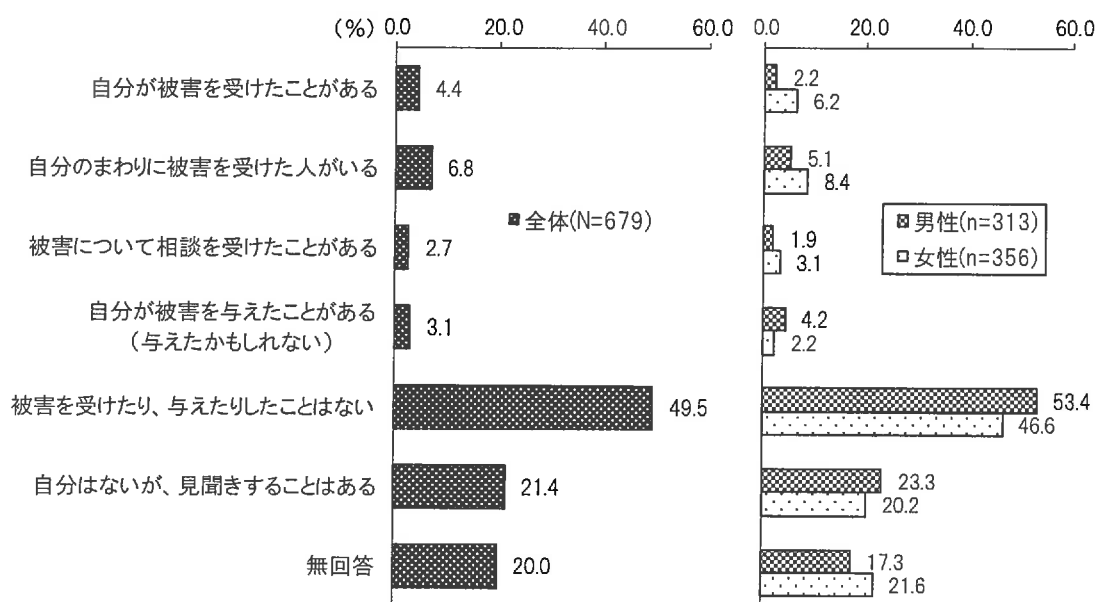


3 DVの経験

問 27 あなたは、最近3年ぐらいの間に、ドメスティック・バイオレンス（DV）を身近で経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。（○印いくつでも）

DVの経験については、「自分が被害を受けたことがある」が4.4%、「自分のまわりに被害を受けた人がある」が6.8%となっている。また、「被害について相談を受けたことがある」は2.7%、「自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）」は3.1%であった。

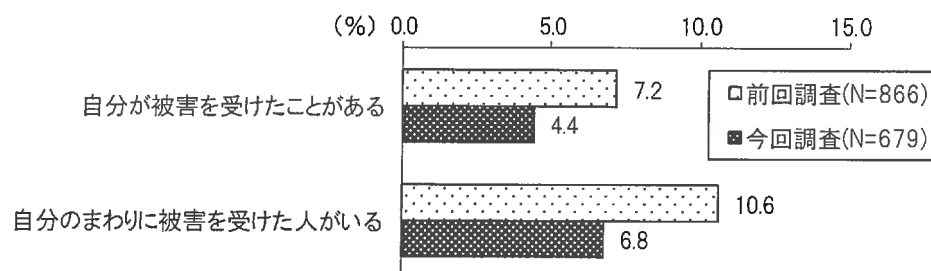
年齢別でみると、女性の50代で「自分が被害を受けたことがある」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。



単位 (%)	自分が被害を受ける	自分のまわりに被害を受けた人がある	被害について相談を受けたことがある	自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）	被害を受けたり、与えたりしたことはない	自分はないが、見聞きすることはある
全体(N=679)	4.4	6.8	2.7	3.1	49.5	21.4
【男性年齢別】						
29歳以下(n=20)	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	25.0
30代(n=24)	12.5	8.3	0.0	4.2	54.2	29.2
40代(n=34)	2.9	5.9	0.0	0.0	58.8	17.6
50代(n=46)	0.0	4.3	2.2	4.3	54.3	19.6
60代(n=71)	1.4	8.5	4.2	8.5	56.3	22.5
70歳以上(n=115)	1.7	2.6	0.9	3.5	49.6	25.2
【女性年齢別】						
29歳以下(n=33)	6.1	3.0	3.0	0.0	54.5	27.3
30代(n=32)	3.1	9.4	0.0	3.1	56.3	18.8
40代(n=42)	7.1	16.7	4.8	0.0	52.4	23.8
50代(n=44)	18.2	6.8	4.5	4.5	52.3	22.7
60代(n=82)	6.1	9.8	2.4	4.9	53.7	20.7
70歳以上(n=123)	2.4	6.5	3.3	0.8	33.3	16.3

【時系列推移】

前回調査では「最近３年ぐらいの間に」という制約がないため、単純な比較はできないが、ほぼ同傾向となっている。



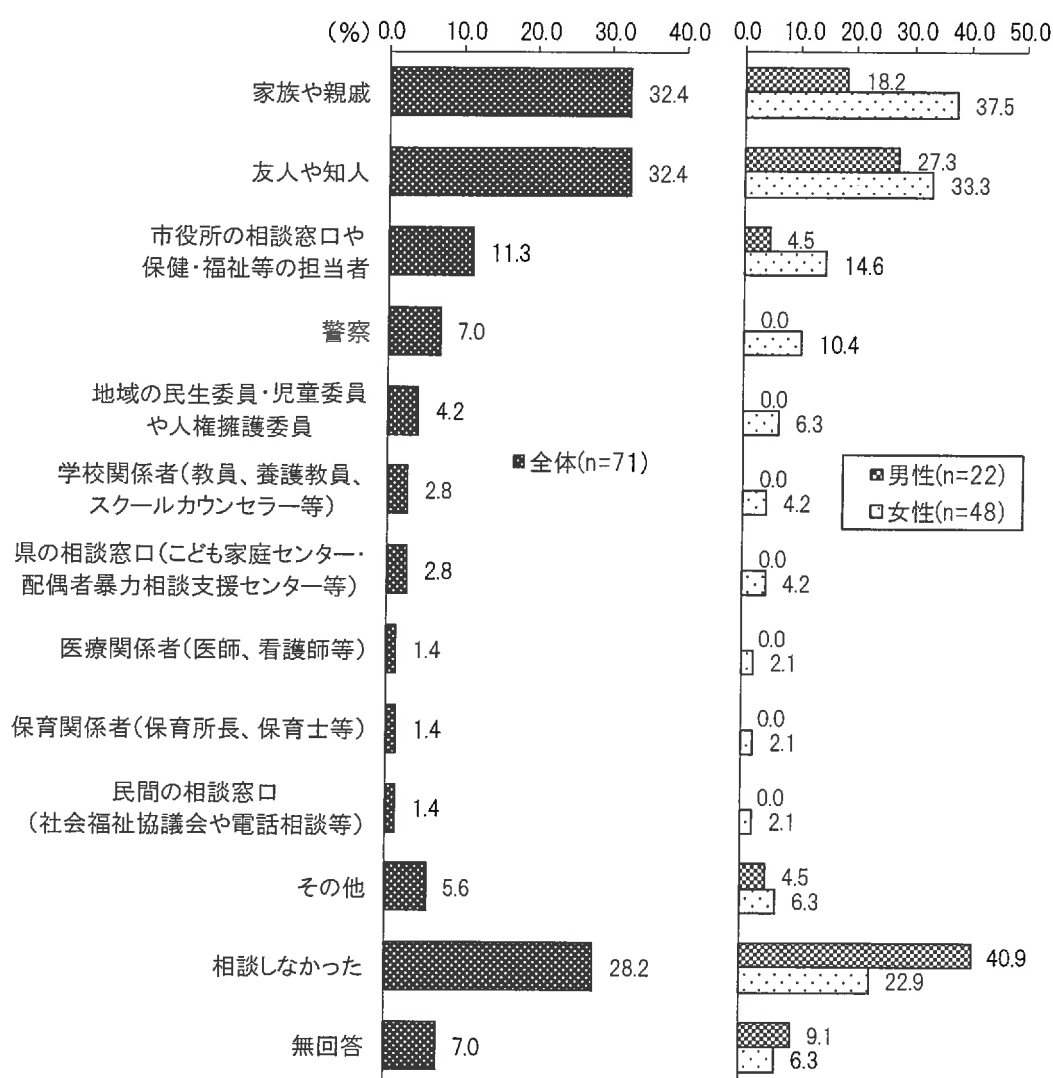
4 DVに関する相談状況

【問 27 で「1～2」と答えた方のみにおたずねします。】

問 28 あなたは、被害を受けたことを、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
(○印いくつでも)

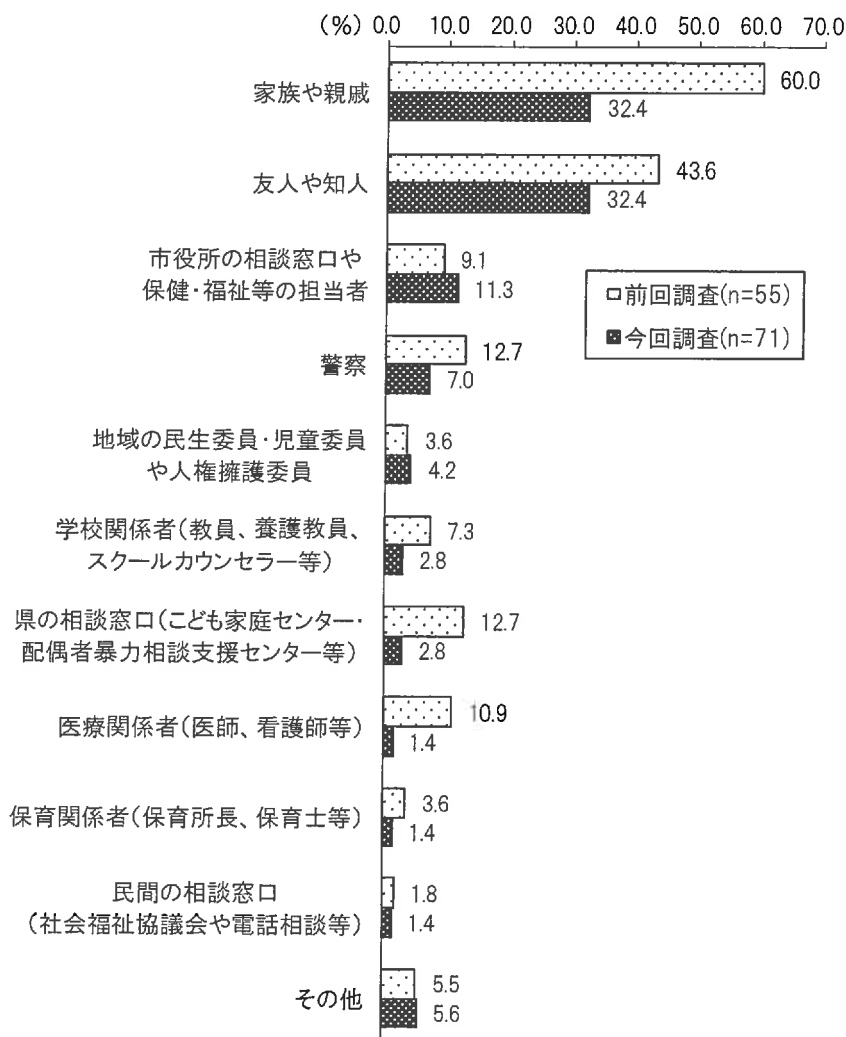
DVに関する相談状況については、「家族や親戚」「友人や知人」の割合が32.4%と最も高く、次いで「市役所の相談窓口や保健・福祉等の担当者」(11.3%)、「警察」(7.0%)の順となっている。一方、約3割(28.2%)は「相談しなかった」と回答している。

性別では、男性は女性に比べ「相談しなかった」の割合が高く、女性は「家族や親戚」の割合が男性を大きく上回っている。



【時系列推移】

前回調査では「相談した」人だけを母数としているため、単純な比較はできないが、ほぼ同傾向となっている。

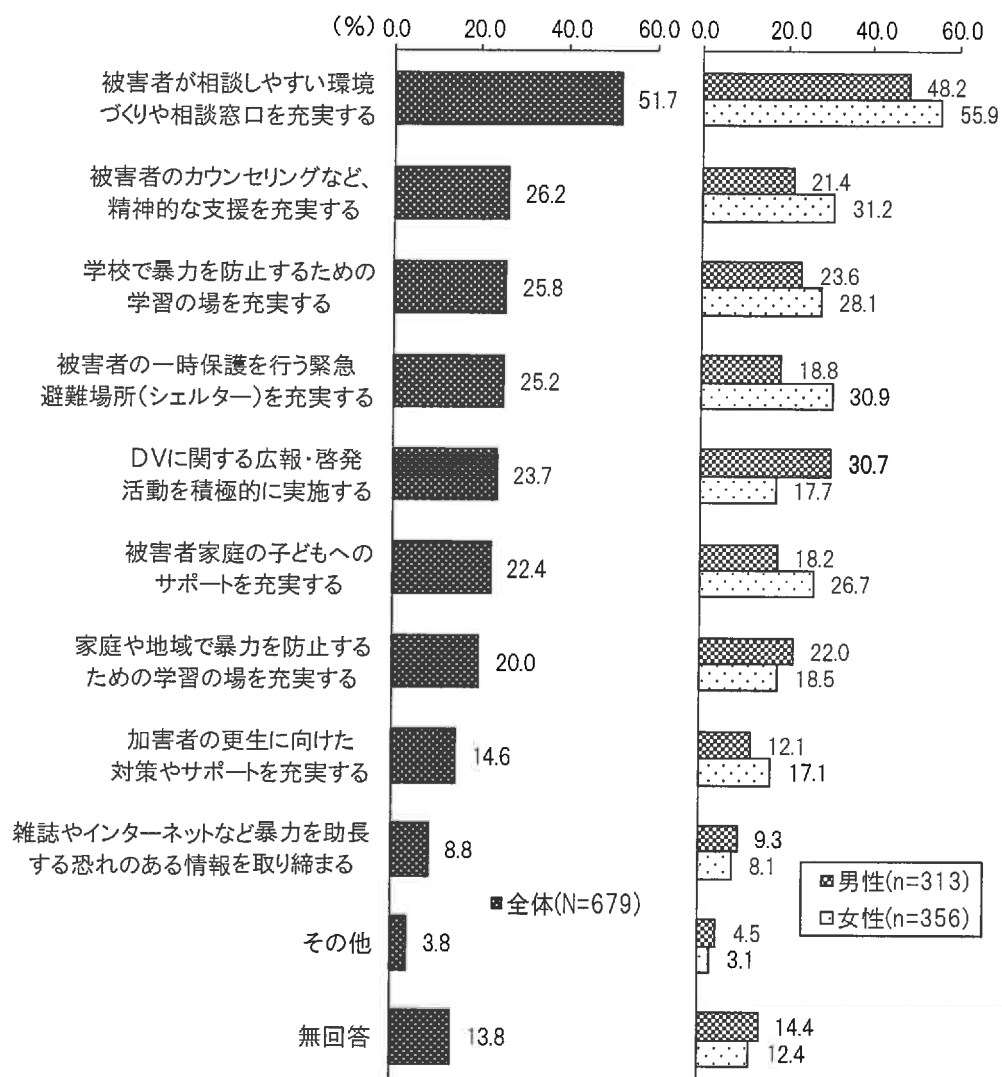


5 DVをなくすために必要な取組

問 29 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）をなくすための対策や支援として、どのような取組が必要だと思いますか。（○印3つまで）

DVをなくすために必要な取組については、「被害者が相談しやすい環境づくりや相談窓口を充実する」の割合が51.7%と最も高く、次いで「被害者のカウンセリングなど、精神的な支援を充実する」（26.2%）、「学校で暴力を防止するための学習の場を充実する」（25.8%）、「被害者の一時保護を行う緊急避難場所（シェルター）を充実する」（25.2%）の順となっている。

性別では、男性は「DVに関する広報・啓発活動を積極的に実施する」の割合が女性を大きく上回っており、女性は男性に比べ「被害者のカウンセリングなど、精神的な支援を充実する」「被害者の一時保護を行う緊急避難場所（シェルター）を充実する」などの割合が高くなっている。



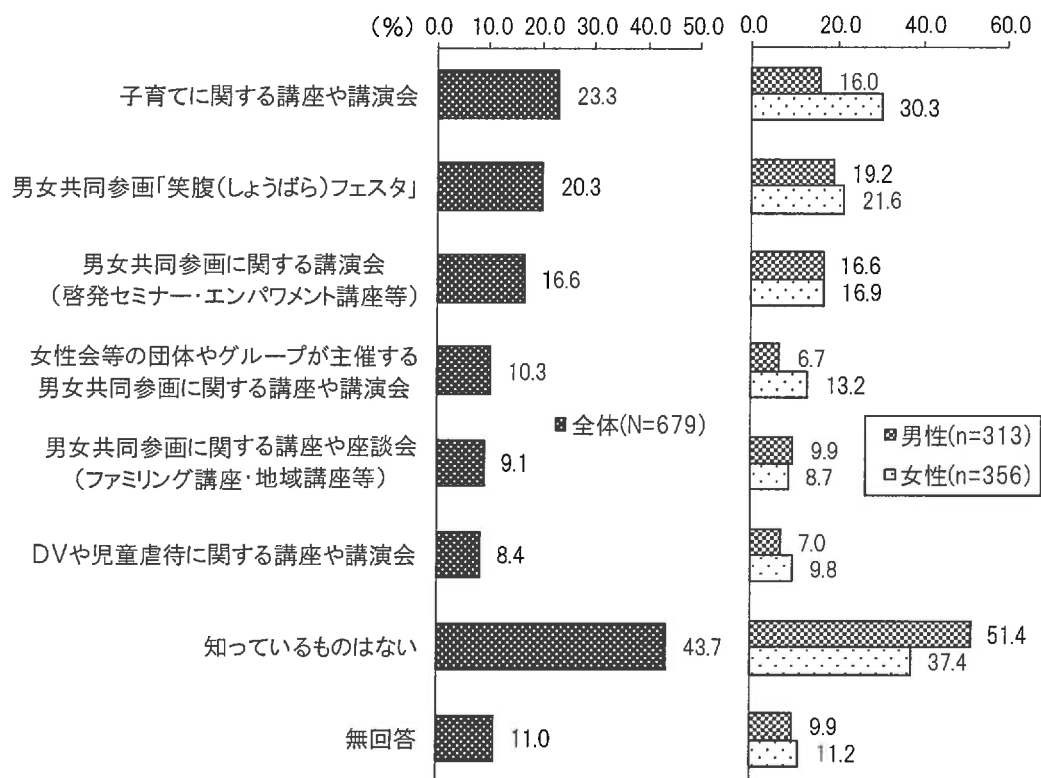
【6】男女共同参画の取組について

1 セミナーやイベント等の認知状況

問 30 庄原市では、男女共同参画に関連するセミナーやイベント、講座などを開催しています。このうち、あなたがご存知のものをお答えください。（○印いくつでも）

セミナーやイベント等の認知状況については、「子育てに関する講座や講演会」の割合が23.3%と最も高く、次いで「男女共同参画 笑腹（しょうばら）フェスタ」（20.3%）、「男女共同参画に関する講演会（啓発セミナー・エンパワメント講座等）」（16.6%）、「女性会等の団体やグループが主催する男女共同参画に関する講座や講演会」（10.3%）の順となっている。一方、「知っているものはない」は43.7%となっている。

性別では、男性は女性に比べ「知っているものはない」の割合が高く、女性は「子育てに関する講座や講演会」の割合が男性を大きく上回っている。



年齢別では、男性の40～50代で「男女共同参画に関する講演会（啓発セミナー・エンパワメント講座等）」、女性の30～40代で「子育てに関する講座や講演会」、男女共に40代で「男女共同参画 笑腹（しょうばら）フェスタ」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

単位 (%)	子育てに関する講座や講演会	男女共同参画「笑腹（しょうばら）フェスタ」	男女共同参画に関する講演会（啓発セミナー・エンパワメント講座等）	女性会等の団体やグループが主催する男女共同参画に関する講座や講演会	男女共同参画に関する講座や座談会（ファミリング講座・地域講座等）	DVや児童虐待に関する講座や講演会	知っているものはない
全体(N=679)	23.3	20.3	16.6	10.3	9.1	8.4	43.7
【男性年齢別】							
29歳以下(n=20)	15.0	15.0	5.0	5.0	5.0	5.0	60.0
30代(n=24)	20.8	16.7	8.3	8.3	12.5	8.3	66.7
40代(n=34)	23.5	32.4	23.5	11.8	14.7	11.8	50.0
50代(n=46)	30.4	26.1	26.1	2.2	8.7	4.3	41.3
60代(n=71)	12.7	14.1	14.1	4.2	7.0	5.6	54.9
70歳以上(n=115)	8.7	17.4	16.5	8.7	10.4	7.8	50.4
【女性年齢別】							
29歳以下(n=33)	30.3	18.2	12.1	0.0	3.0	21.2	48.5
30代(n=32)	50.0	25.0	18.8	6.3	9.4	15.6	40.6
40代(n=42)	42.9	38.1	28.6	14.3	16.7	11.9	35.7
50代(n=44)	31.8	31.8	18.2	2.3	0.0	2.3	34.1
60代(n=82)	35.4	25.6	20.7	20.7	12.2	13.4	37.8
70歳以上(n=123)	17.1	9.8	10.6	17.1	8.1	4.9	35.0

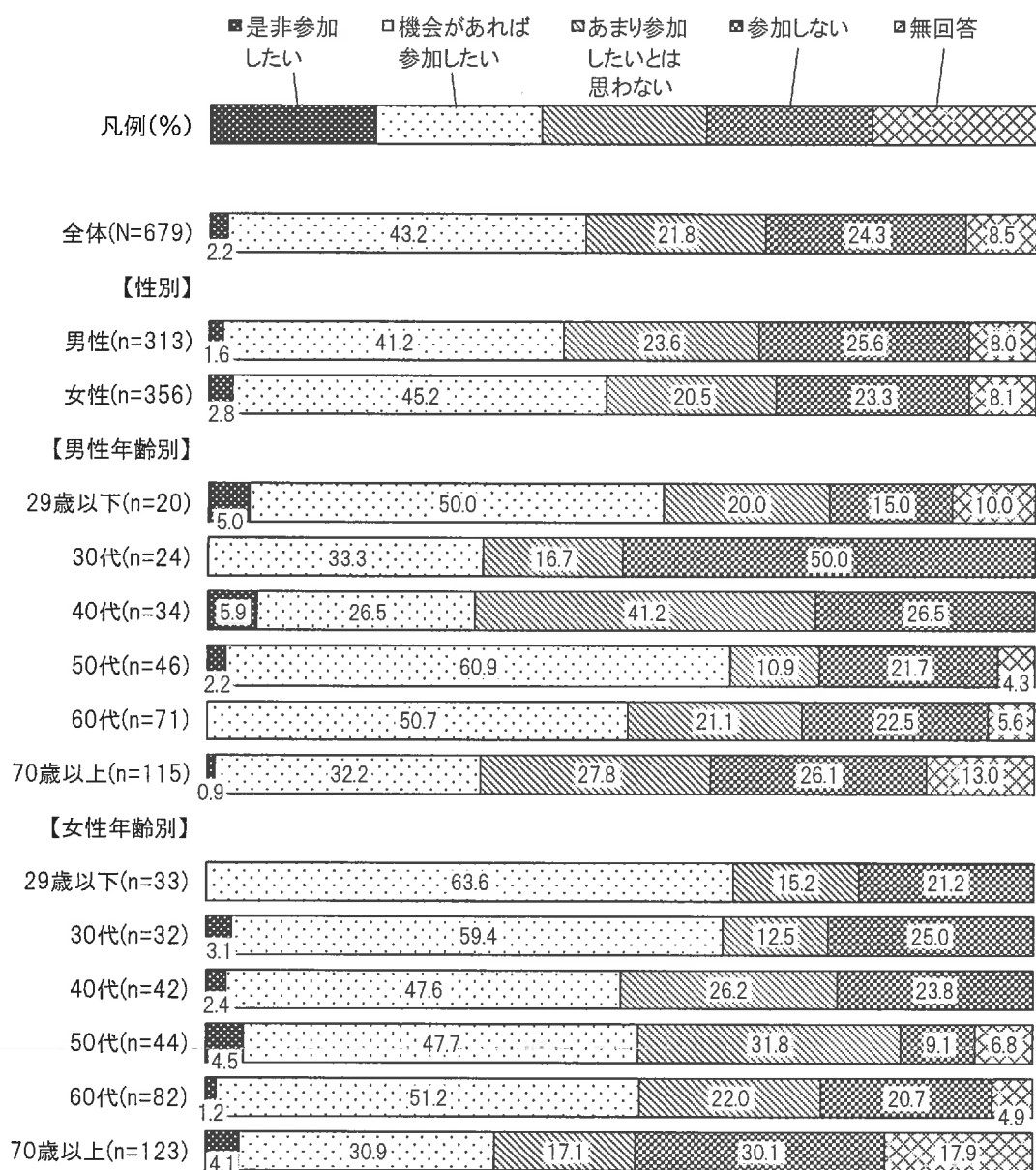
2 セミナーやイベント等への参加意向

問 31 あなたは、今後、市が開催する人権や男女共同参画に関するセミナー・イベント、生涯学習などに参加（観覧）してみたいと思いますか。（○印1つ）

セミナーやイベント等への参加意向については、「是非参加したい」が 2.2%、「機会があれば参加したい」が 43.2%で、合計 45.4%が『参加したい』と回答している。一方、「あまり参加したいとは思わない」（21.8%）、「参加しない」（24.3%）の合計は 46.1%であった。

性別では、女性は男性に比べ「機会があれば参加したい」の割合がやや高くなっている。

年齢別では、男性の 30 代で「参加しない」、男性の 50 代や女性の 30 代以下で「機会があれば参加したい」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

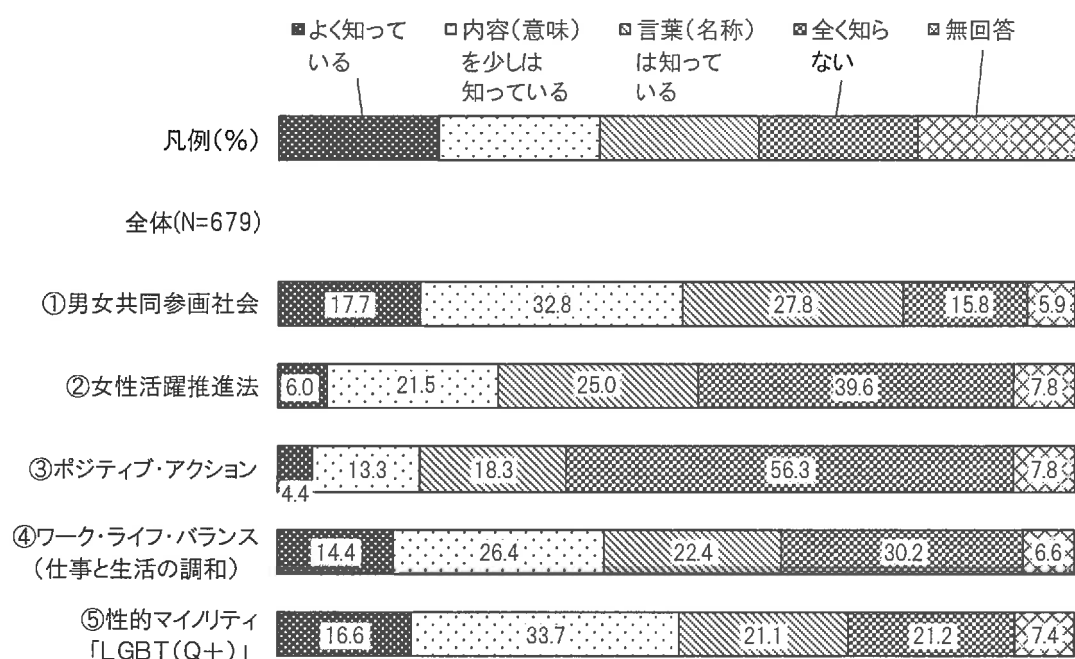


3 男女共同参画に関する用語の認知状況

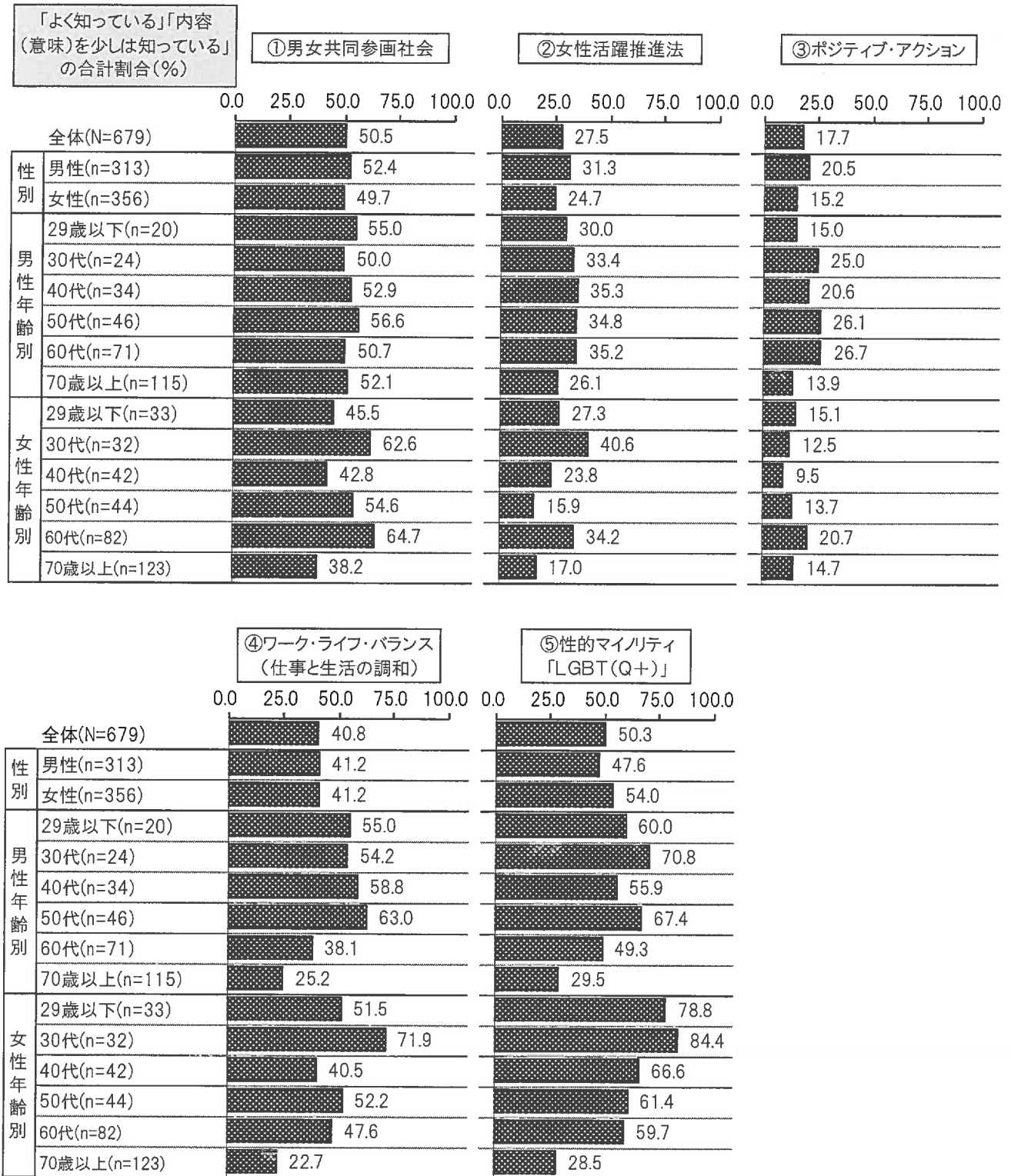
問 32 あなたは、次にあげる男女共同参画に関する用語の意味をご存知ですか。
(○印1つつ)

男女共同参画に関する用語の認知状況について、「よく知っている」「内容(意味)を少しは知っている」の合計割合が高い順に、「①男女共同参画社会」(50.5%)、「⑤性的マイノリティLGBT(Q+)」(50.3%)、「④ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」(40.8%)となっている。

一方、「全く知らない」の割合が高い順に、「③ポジティブ・アクション」(56.3%)、「②女性活躍推進法」(39.6%)となっている。

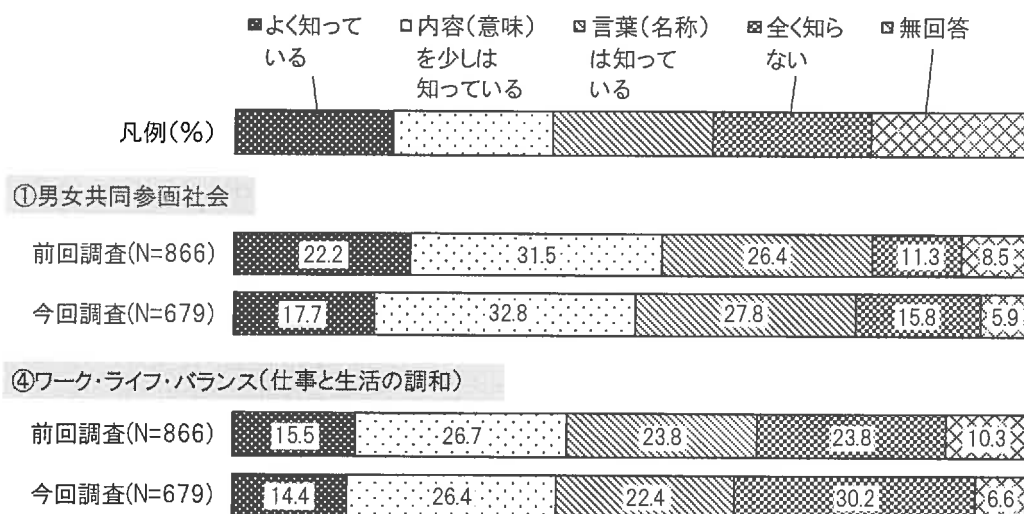


「よく知っている」「内容（意味）を少しは知っている」の合計割合を属性別でみると、男性は女性に比べ「②女性活躍推進法」「③ポジティブ・アクション」の割合が高くなっている。また、女性の30代以下で「⑤性的マイノリティLGBT（Q+）」、女性の30代で「④ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。



【時系列推移】

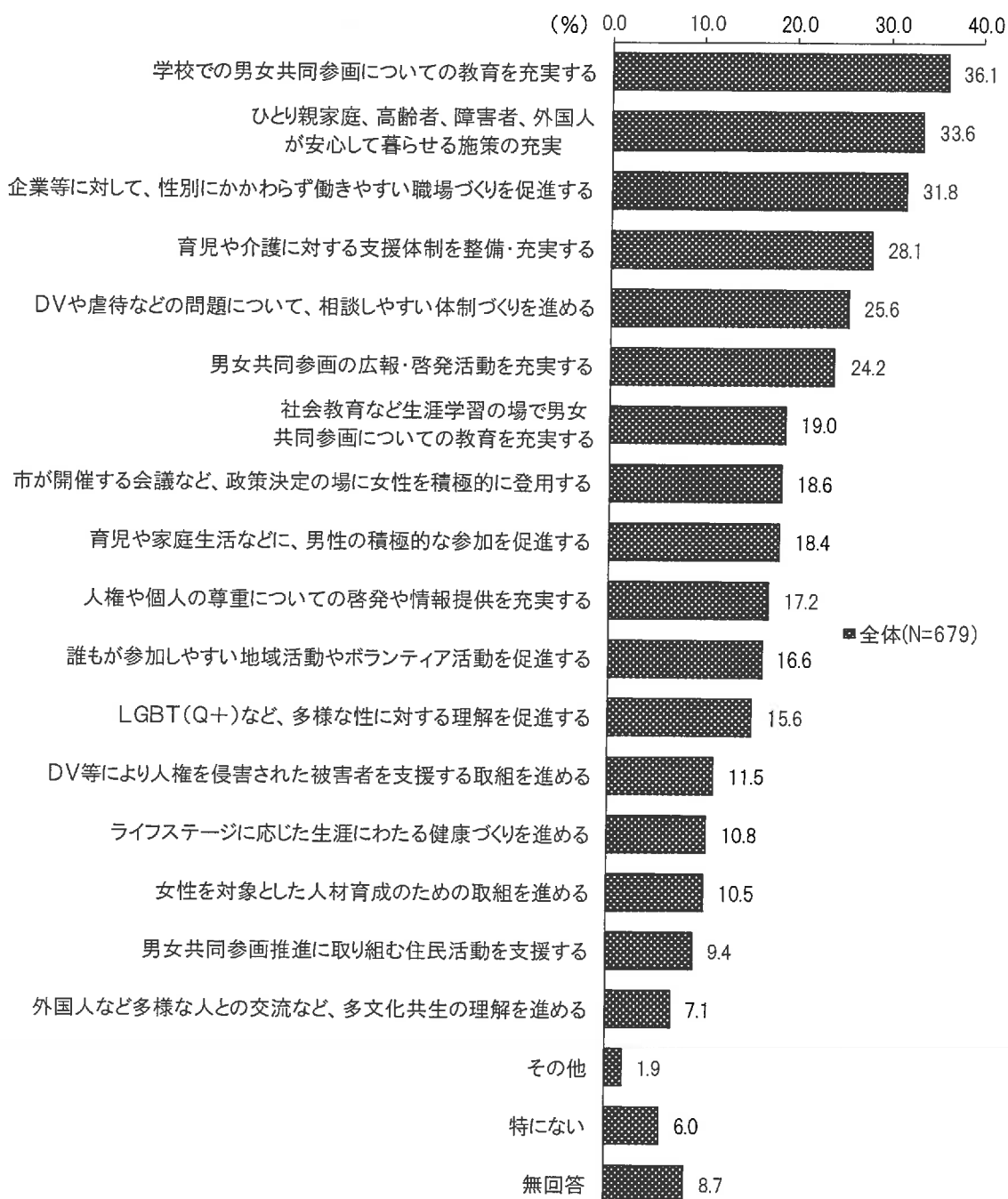
前回調査結果と比べ、「①男女共同参画社会」「④ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」で「全く知らない」が増加した。



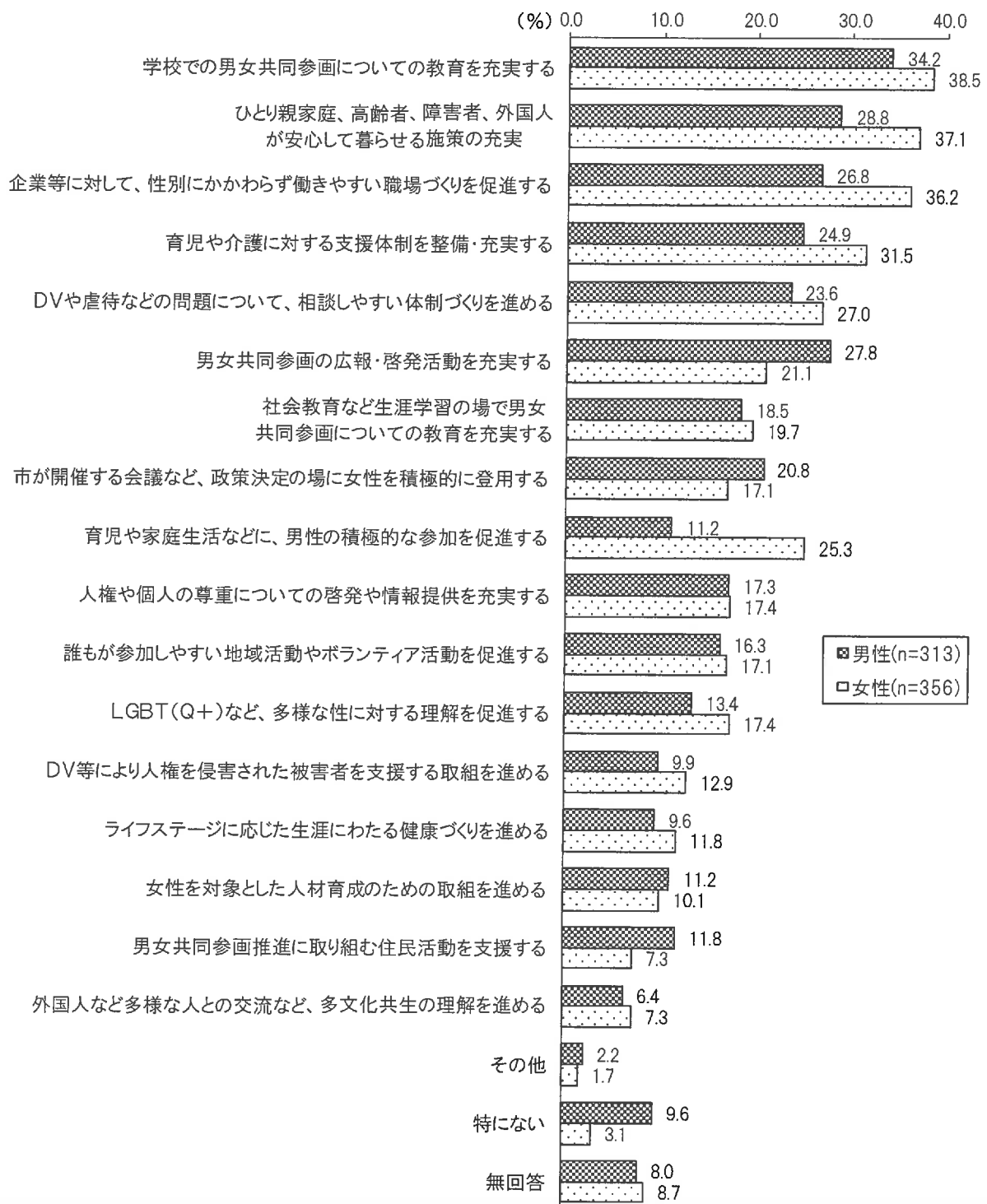
4 男女共同参画の推進に行政が力を入れるべきこと

問 33 あなたは、男女共同参画を積極的に進めるために、行政はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（○印5つまで）

男女共同参画の推進に行政が力を入れるべきことについては、「学校での男女共同参画についての教育を充実する」の割合が36.1%と最も高く、次いで「ひとり親家庭、高齢者、障害者、外国人が安心して暮らせる施策の充実」（33.6%）、「企業等に対して、性別にかかわらず働きやすい職場づくりを促進する」（31.8%）、「育児や介護に対する支援体制を整備・充実する」（28.1%）の順となっている。



性別では、男性は女性に比べ「男女共同参画の広報・啓発活動を充実する」の割合が高く、女性は「育児や家庭生活などに、男性の積極的な参加を促進する」の割合が男性を大きく上回っている。



【7】自由記述回答集約結果

問 34 男女共同参画についてのご意見・ご要望など、どのようなことでもご自由にお書きください。

男女共同参画について、意見・要望等を自由記述方式で尋ねたところ、以下のような意見がみられた。なお、自由記述については、誤字等の修正を除き、原文に基づいて性別・年齢別に掲載している。

男性 29 歳以下

- ・管理職の女性の占める割合〇%等のような数値目標を掲げているのをよく聞くが、なりたいたい人がなればいいし、その結果男性 100%のような極端な結果になっても問題ないと思う。選考の基準で性別などの能力に関係ない項目がなければ。
- ・このようなアンケートは、できるだけ若い世代の人を中心に出してくださるほうが良いのではないのでしょうか。いい回答ができず、すみません。

女性 29 歳以下

- ・学校等での教育は必要だと思うが、教える側・伝える側は男女の差がある中で生きてきた人ばかりだと思う。そのため、教員や親など伝える側になるであろう世代にまずは伝えていくべきだと思う。
- ・今後のために変えなければならないことは数多くありますが、まず行政からだと思っています。時代は移ろい変わるのに、行政に関わる世代に偏りがあることに問題があると思います。若い世代の考えも、年配の方の考えもどちらも必要です。行政について考える人にも、それを是か非かを判断する人にも幅広い世代に関わるべきだと思います。まず、若い世代の人々が行政に関わるように意識を変えなければいけません。少しずつ少しずつの改革しかできませんが、現在行政に関わる仕事をしている方々に正しい評価をして頑張ってもらいたいと思います。
- ・社会的には男女共同参画になってきているのかと思うが、家事・育児の面ではまだ女性任せなのではと感じることが多くある。男性と同じように 1 日外で働き、それ以外の時間は全て家事・育児もというのは厳しいと思う。女性も男性と同じように外で働くのなら、家事・育児も同じように分担するという意識・雰囲気が必要なのではと思う。（昔の女性が家事全てをやるという雰囲気があるのではと思う。それが残っているのでは。）
- ・男女共同参画について全く知らなかった。このアンケートをして少しでも理解できたし、今後、庄原がよりよく安心・安全で暮らせたなら良いなと思った。問 31 で参加しないと答えましたが、若い人が行ってみたいと思える場所、Instagram での写真を見たら行くかな。会議室でセミナーとかではなくキッチンカーとか呼んで、ドリンクを飲みながら気軽に聞けたら行くかな。
- ・どのような仕事においても、性別関係なく働けるような職場づくりを促進して欲しい。

- ・男性優位みたいな考えは、やっぱり年配の男性ほど多いと思うので、何か大事なことを決定する場には女性とか、若い男性・女性もいたほうがいいんじゃないかなと思いました。偉いおじいさんとか、おじさんばっかで決めてたんじゃ何も変わらない気がします。（そうじゃない人もいるけど）だけど、自分には行政の仕事はできないから大変な中、すごいなと思います。市役所の皆様いつもありがとうございます。
- ・私は女性も社会に出て仕事をしていいと思う。むしろ自分は、家ではなく外に出たい。しかしキャリアウーマンと言われる人みたいにバリバリ働きたいわけではなく、普通に生活できて家族と過ごす時間を大切にしたい。女性の社会進出は必要だと思うが、がつつり働きたい人、普通に働きたい人、ある程度でいい人と本人の意見が尊重できるような社会になってほしい。それに応じた支援体制があり、それ自体を名前だけの体制ではなく気軽に使えるような職場になればいい。家事なんて得意な人がやればいいし、家電に頼ってもいいわけだから、もっと昔ながらの考え方が「多様性があるといい、家庭によって違っていい」になればいいと思う。

男性 30 代

- ・このようなアンケートを実施されても、地域にある根強い差別意識は改善しないと思う。古き良き故郷を守る！先祖から受け継いだ家や農地を守る！という意志が強い地域なので、そこに伴う想いが強い分、「よそから来た人」と嫌ったり、地域の役員をさせないようにしたり、「地元の人」「地元で生まれてない人」と差別している以上、変わることは難しいと思う。差別で悲しい思いをさせている人がいるという実態を把握し、ケアしていかなければ、庄原市は人口減少で偏った考えの人が集まり、子どもたちが帰ってきづらい町のままになってしまう。美しい郷里をたくさんの人に知ってほしい、見てほしい、泊まりに来てほしい、住んでほしい！という意識改革が必要である。

女性 30 代

- ・広報、啓発活動は大事だと思いますが、長年の考え方はすぐには変わらないと思うので、若い人、子どもたちに学校等で教育していくのが良いと思います。男性の育休取得は、増えてほしいと思いますが、現実として難しい（長期間休めない、復帰後の不安等）とところがあると思うので、会社（管理職）での意識改革、教育を広めてほしいです。
- ・庄原で開催されている男女共同参画のセミナーやイベントについて、全く目にするところがありませんでした。もっと市民が知ることができるようにする必要があると思います。アンケートに回答するにあたって、地域活動や生涯学習についてもどのようなことをされているのかイメージがつかず、具体例があると良かったように思います。また、若年にも参加しやすいイベントや交流する機会、伝統を伝えていくような場などが盛んになればいいなと思います。得意な人、そうでない人がフォローし合い、それぞれの得意分野で活躍して認め合って自分に自信を持てる人があふれる庄原になってほしいと思います。今後の活動に期待しております。
- ・庄原は、良くも悪くも“古き良き考え”が残っている土地だと思います。多様な価値観を受け入れる寛容さが育てば良いと思います。

- ・女性が前に出て男性と同様に仕事、活動するのがいいと思うが、家事、育児を女性が全てしながらはできない。まずそれを改善していく必要があると思う。
- ・性的役割分担の考えを変えていかなければならないと思います。子どものときの教育が大切。管理職が積極的に育休などの制度を利用したり、労働時間の短縮をすることで、部下にとってのロールモデルになってもらえると将来の働き方に少し希望が持てそうです。女性側の意見として、結婚、出産を経験されている先輩方をみると、どうしても家事、育児の負担が女性側に偏っており、家庭を持つことに少し消極的になってしまいます。パートナーが協力し合えるよう、多様な性に対して平等に支援が受けられたらいいと思います。
- ・調査結果を公表してほしい。

男性 40 代

- ・「食」を正す取組をしてほしい。食品添加物や科学的なものを給食等から除く。無気力や問題行動等の子どもが落ち着く。加害者だった人（DV、犯罪等）の情緒が整う等メリット。高齢者の自宅暮らしの食生活を見習って、健康な大地で育った作物をとる。庄原市の良さを発信できる。
- ・過去にあった昭和の女性解放運動の頃と違い、男性に限らず多くの女性も日常家事（掃除・洗濯・料理）に不慣れな成人が増加している印象を受けています。そのことが、家事に対する負担感の増加、子育ての余裕のなさに、よりつながるのではないのでしょうか。また、男女共に、生活経験なく塾、スポーツばかりでは就業したあと、さらに子育てまで行くとすると、日常生活を営むことが非常に困難であると察します。女性の重責への登用の少なさの陰には、出産・育児に加え、望まない人が多くいる面もあるのではないのでしょうか。意識改革を男女共にする必要があるのかと存じます。昨今の社会情勢は、「制度により守る」ことに傾倒している感を受けます。守るのみではなく、「育てる」ことが大切ではないかと存じます。
- ・女が社会に進出して良くなったことなどない。（男の職の取りあい。離婚率の上昇。）男女は、体の仕組みからして違うのに平等などありえない。子どもと一緒に時間を大切にしたいと望む専業主婦に対して、「働かない嫁」としてさげすむ風潮もできた。LGBTもそうだし、夫婦別姓もそう。日本の制度が壊れて無法地帯になるだけだ。全て合理的かどうか判断すべきである。
- ・啓発は大切ですが、啓発ばかりでは意味がないのではないのでしょうか。
- ・市は取り組んでいると知っているが、全くできていない。市の職員がどのような取組をしているのか外部は全然見えてこない中で、密室の中だけで物事が進んでいるだけ。私自身、行政サービスで恩恵を受けていないし、過去には行政にかなりの仕打ちを受けているので信用できない。とにかく自分たちの仕事をもっと見直してほしい。私たち市民は、役所の人からするとお客さんであるという意識を持ってほしい。
- ・年齢を問わず、都会に比べて男性の男女平等の意識が低いと感じます。根本的に意識を変えられるとよいですね。

女性 40 代

- ・アンケートを役に立ててほしい。
- ・家庭の仕事、社会の仕事を男女が無理なく分かち合っていくためには、男性が家庭外で抱え込んでいる仕事を減らしていく必要も大いにあると思います。
- ・市の職員で、病休を上手く使い、年に数回出勤して休んで給与をもらっている人がいる。外で会うことも多くあるため、調査会社を使ってでも本当に病休なのかを調べてほしい。男女平等の前に税金のムダ遣いを直してほしい。
- ・他県から転居してきたばかりで、まだ地域や自治会の活動などよく分からないことが多く、コロナ禍で行事や集まりが中止、縮小されているため、これまでどのような活動がなされてきたのか分かりません。
- ・年代によっても考え方は違うので、昭和生まれの私は、男女平等という言葉はなかなか難しいと思います。全てが同じになることはないので、“男の人”だからできる仕事、“女の人”だからできる仕事等、分業の中でお互いの良さを尊重して生活ができればと思います。
- ・パートで働いています。サービス業です。でも、子どもがいるので9時30分～16時、土日祝日は休み。そういう話で働いていますが、小さい会社で一人だけよく休んだり、早く帰ったり、心苦しいです。それに、お客さんには帰るのが早すぎるとか、連休でいいねとか言われ、笑っていますが、あまりいい気はしません。8時～17時、残業もしてよく頑張るねえと言われる同僚が羨ましいと思うこともあります。仕事が16時まででも、それからの時間のほうがとても忙しいし、大変なのに、認めてもらうことはほぼないので、もっと大変だということを理解したり、子どもとの時間をもっとたくさんの人が大切にできる社会になってほしいと私は思います。（仕事の時間が長くて、なかなか帰りたくても帰れない人が早く帰れるような。）
- ・働き方改革も行き過ぎてしまうと職場のシステムが崩壊してしまう可能性があります。労働者の正しい権利を守りながら、今ある職場が正常に機能するために、雇用者と被雇用者が健全に話し合える環境がどの職場にもあるといいと思います。男性も女性も同じ責任感と価値観を持って、職場と家庭を守るために考えを出し合えるといい。
- ・不当性を訴える場がない。おかしいと思っても訴えることにより、自分に被害があったり、働きにくくなる場合がほとんどだと思う。行政が本気で対応していただけたら、少しずつ変わっていくと思う。実態を把握することで終わらず、改善へ向けての手立てをよろしくお願いします。
- ・若い人や有能な人に庄原市に残ってもらうためにも、田舎の意識改革は大変重要だと思います。

男性 50 代

- ・以前からこのようなことは、問題とされてきていました。いまだに解決されていないのは、この先、未来において不安であるばかりです。難しい問題ですが、真剣に考えていかないと、未来はないと思います。
- ・前問の取組や企業、地域での取組をポイント制として評価。上位得点者（家庭・地域）を優遇対応。

- ・各個の能力に合わせて協力し合うことは必要だが、男も女も同じことを同じようにしなければならないことを平等であるというのであれば、無理があると思う。男女の役割と平等のあり方が、混合されていないか？
- ・基本的に夫婦間で話し合えばいいことで、例えば家の中の仕事を平等に、均等にすることが男女平等とは思わない。現在 54 歳ですが、子育てをしてみて、男にしかできないことは多いと感じました。SNS 上では炎上するのですが、家族の生命と財産を守るのが、男の役割だと思います。それ以外は、しなくてもいいと考えています。はい、炎上！
- ・様々な人事を決定していく場面で、偏った判断が勧められる要素が残されている。
- ・男女共同参画について、このままでは何も変わらないので何かしなければいけないと思うが、具体的に今の自分に何ができるのか、何の支援があればいいのかなどイメージしにくい。
- ・人間の性別は生物学的に男性か女性である。LGBT等を多様性などといって、積極的に認めることは将来的に不要な軋轢を生ずる危険性がある。また、例えば議員の数を男女半々に規定するなど愚の骨頂であり能力等により選ばれるのが当然である。「差別」と「区別」の違いが全く理解されていない。

女性 50 代

- ・50 代の私たち昭和生まれは、男は家庭へ女は社会へ責任を負う意識改革が、大事だと思っている。それを子どもたち世代へ伝えていく社会の仕組みや家庭での会話が必要とも思う。
- ・SNS などを利用した広報活動をしてはどうでしょうか？ツイッターなどはよく見るので、庄原市のアカウントで発信すればよいと思います。
- ・このような仕事、「女は無理」「高齢は無理」など決めつけない。思い付きや思い込みで、気付かない。危険に注意して！
- ・男女共同参画が多すぎるのも困ると思います。DV 学習なら少し自治振興区の中にあればいいのではないのでしょうか。
- ・男性がつくった社会システムに女性をむりやり当てはめた結果、女性本来の能力が、生かされなくなったのではないかと感じる。女性の視点から考えた新しい社会システムになれば、男女共に働きやすく生活も豊かに、子どもも健やかに育てられるのではと感じています。男性は男性社会のピラミッドを崩し、是々非々で、自分と家族の暮らしを大切に考えていけるように。
- ・まだまだ女性は働いて家事、育児をしてと負担が多いと思う。男性が理解していても、なかなか食事をつくったりとはいかないのが現状だと思う。仕事場でも男性と同じような仕事をこなしても給料の面、ボーナスの面で格差があるのは少し残念に思う。私たち働いている者は、仕事場・家との往復の時間でなかなか市の取組に参加することもなく、全く知らないともいえる。というのは地域との交流がないからであろう。このようなアンケートの実施はいいと思いますが、もっと若い世代の意見などを多く聞いてあげてほしい。出産をして働く場所が確保されている会社はあるが、長く休みづらいのが現状である。

- ・女性でも男性と同じように働ける企業があれば、庄原市に戻りたいと思います。
- ・まだまだ男性中心で、女性は補助的な存在と思われる部分が多いと思います。男女平等で、協力し合って生きていくことなど、学校の教育で充実してほしいです。
- ・自ら家庭を守ることを選ぶ男性、女性がいてもいいと思うし、年配の人たち自身が男性も女性も家事を分担することをして見せて、若い人に教育したい。男性だからということでは優遇されて当たり前と思わないでほしい。

男性 60 代

- ・子どもの頃から、教育すべき大切な課題だと思う。年配者に意識改革を求めるより長いスパンでの計画を。
- ・この企画には問題点が多い。女性向けというか、あまりいい企画ではない。女は嘘つきだし問題が多い。そこまで優遇する必要性もなく、男性は？解決できないところが多すぎる。反対であります。
- ・庄原市での勤労における人口比として、学校・市役所・病院・福祉・保健所等では、大体男女間が平等に扱われている空気が強い。問題があるとしたら、むしろ女性だけの職場の中でのラインはずしやグループをつくったり等、女性の中での課題があると聞きます。また、各地域においては退職された方等、地域をよくまとめてくださる方も多数おられます。
- ・庄原市民が、安心して暮らせる庄原市で良かったと感じる庄原市であってほしいです。よろしくお願いします。
- ・女性が働くことのできる体制が重要。「働きやすい」ではなく。「能力」を問題視する必要はない。
- ・女性は弱者だとした設問が多かったように思える。問題を解決する視点も一方向からの視点ではなく、多面的な視点で考えないと長続きしない。一時的な対策で終わってしまいます。多くの要素を多面的に結合させて解決を導き出すことを考えるべきである。
- ・地域の安全や活動に対して、あまりにも個人情報はどうのこうのとうるさく、活動できない。
- ・まだまだ現状は、やっと男女共同参画前だと思います。

女性 60 代

- ・私には 40 歳近い娘がいるのですが、市の縁結びの方、もっと積極的に進めてほしい。私は今は、足の手術をして、結果が悪く、外に出るのが不安でほとんど家で過ごす状態で、うつ病になったりしたのですが、こういう体の調子が悪い人が集まって、話をする場所を市のほうで設けてほしいです。
- ・2030 年までに、私たちの生活のあり方を見直すことで、持続可能な社会の実現につながる・・・との、テレビ番組を見ました。また、日本は女性の地位等が、世界 150 何か国の中で 120 番目ぐらいと、大変遅れているとのこと。この責任は今の大人が自覚してポジティブ・アクションにつなげ、これからの社会を生きていく子どもたちの生活が少しでも、明るいものとなるように改善していくことだと思います。個人の責任も、また、行政の方々の責任も投げ出せない重大なものだと思います。

- ・あまりに女性を優先しすぎの傾向にある。昔と違い、男性が陰で弱っている。見るに忍びない。
- ・家庭内のことは相談しにくいので、このような取組に参加させる体制をしっかりとつくり、意識改革をしていくことが必要である。大声でどなったり、脅したりすることがDVになっているという自覚をもてるような研修を市民全体にしてほしい。
- ・すでに退職しましたが、仕事と家庭（家事、子育て）の両立はとても大変でした。問 33 の⑮（育児等への男性の積極的な参加）が本当に必要でした。
- ・住みやすい庄原にしてください。
- ・大変ご苦勞様です。このアンケート結果を今後の施策にぜひ生かしてください。
- ・定年制のない、生涯働ける場への希望を持ちたい。
- ・まだ庄原市の運営は、よく分かりません。そのうち勉強させてもらいます。
- ・リタイアして長いので、答えにくい設問がかなりあった。

男性 70 代

- ・介護保険が高すぎる。
- ・学校や社会教育を充実する。
- ・国、政治家が変わらないとダメだと思う。
- ・こうしたアンケートには、ここ数年で何回か回答者になった。ただその結果について知らされたことがない。ホームページなどで結果が示されているのかもしれないが、パソコンなどを使わない市民もたくさんいるだろう。責任をもって集計処理し、得られた結果やそれに基づく方針などは“市民広報”できちんと報告すべきである。大学院の修士論文もどきの難解な設問が多く、回答に何時間もかかったり、あるいは、回答自体がいい加減になってしまったりするのは、私に限らない。本当にいい町にしたいのであるならば、下手な大学教授を顧問につけたりせず、市職員が真剣に力いっぱい、策を練り、計画を立て、市民の協力を引き出すことが必要と思う。
- ・諸機関、団体等に女性の登用を積極的に行う。男女に関係なく誰もが輝くことが可能な社会の仕組みづくりを行う。女性、男性間における弱い立場の人が特に支援を受ける社会環境の構築。最初は行政が中心となり学校、社会教育、民間等において具体的な男女共同参画の学習。コロナ禍、低経済成長、グローバル化（競争社会）における男女共同参画社会の実現。
- ・男女共同参画の視点からみて、これまでやってきている各種制度等が現在の社会・生活実態に照らして妥当かどうか点検、見直していくことが必要である。
- ・ひとり高齢者への連絡、「元気でおるか」などサポート。

女性 70 代

- ・アンケートだけでなく、行政（市政）の動きが見えないし、目標も見えない。市役所内部の活動はどうしていますか。
- ・男女共同参画が推進できるよう、学校教育、社会教育を充実させるよう、研修をしてほしいと思います。

- ・育児・家庭生活に関わりの少ない男性が社会の中で仕事上、責任ある立場に多くいる現状では、男女共同参画を進める上では効果的な取組は絵空事が多く、多くの人の理解を得にくい取組しかできないのではないかと思います。
- ・一歩ずつ着実に。
- ・このアンケートをいただいて、自分自身やまわりの方との関係など普段何気なく接している近所の方々、また家族関係を少し冷静に考えるチャンスをいただいたように思います。ありがとうございました。
- ・男女共同参画という言葉は放送等で最近聞く言葉でしたが、意味が理解できていない状態でした。アンケート調査で少し分かってきたようです。
- ・男女共同参画は男性も女性も生活しやすい働きやすい社会だと思う。以前から日本の過労死など問題になってきた。長時間労働が解消されただろうか。男性の働き方に女性も近づけるようなひどい働き方や、給料も女性の給与を男性に近づけるのではなく男性の給料を下げるのでは元も子もない。コロナ禍では女性の自死が増えていると聞く。個人の家庭の問題もあるが、まず社会の行政の問題として考えてほしい。庄原市の職場の中では問題があれば解決できる体制ができているのだろうか。ここ数年、市の職員が何人もやめていると聞く。長時間労働、非正規の職員が増え正規雇用が減らされてきたことにも問題があるのではないかとと思っている。男性も女性も働きやすい職場になっていないのではないかと思います。問 33 をお返しします。どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。
- ・男女共同参画を積極的に進めるために、行政研修会を望みます。コロナのワクチンが終わりました。健康に感謝して、庄原市でより多くの市民の皆様と交流したいと思います。
- ・皆が来て、きがねなく生活できるような社会であってほしい。弱者に対して腰を低くして（特に上司、指導の立場にある方は）接してほしい。例えば、スマホを持たない者への差別的発言、侮辱的態度、持つのが当然というその地点に立って、いろいろな発言・行動はやめてほしい。必要でない者もいるから。買えない者もいると思うから。
- ・私の年齢からして過去の時代にはなかったような（考えられなかった）アンケート内容で、答える内容も多くて今の時代のことを考えるのが難しすぎた。今の時代に合った適確な回答を得ようと思えば、回答する人の年齢も考えたほうが良いように思いました。答えるのが難しすぎました。

男性 80 歳以上

- ・お願いごと（脳梗塞になって 10 年ぐらいになると思います。紙パンツをしております。それを出すところがなくて、困っております。市民生活課に 6 月 24 日に行って、入れるものをくださいとお話したのですが、いまだに返答がありません。大変困っております。ぜひ一日も早く取り伝えてください。お願いします。
- ・80 歳を超えた年寄りが、答えられるようなアンケートではないですね。いくら無作為とはいえ人選を考えられたほうが良いと思います。
- ・軽度の認知症があるため、アンケートを説明しましたが答えられないことが多いため、今後はアンケートは不参加とさせていただきたい。家族より。

- ・職場、地域において、特に田舎において、また高齢者の考えとして女性蔑視の状況を見かける。永い年月を要すると思われるが、改善することを望みます。
- ・男女間の格差は、女性の男任せ、夫任せの無関心が今の社会です。世の中の不条理、差別、格差などその帰結でしょう。将来の国づくりも女性を除いての展望はないでしょう。女性たちの参画は浅くてもよい。広く働きかけることが大事でしょう。
- ・男女共に責任と同時に、権利はあるということも自覚すること。（権利のみ主張するな。）責任とは、義務も含むのは当然である。
- ・人それぞれ考え方、生活が違うため、難しいでしょう。会議等、初めから女性を多く入れるように施策する必要があります。今頃は男女どこに行っても平等です。ただいずこに行っても女性が多いので、同じようにするよう考えるべきです。
- ・よく分からない

女性 80 歳以上

- ・元気な庄原。若い人が、楽しく生活できるような町であってほしいと思います。そしてお互いに助け合い、声を掛け合って、男女を問わず優しい人間づくりができれば、高齢者も障害者も安心して一日一日が過ごせると思います。どうぞよろしくお願いいたします。
- ・高齢者が回答するのに、当てはまるものがないものもありました。無作為の抽出で高齢者が回答できるのは良かったです。無記名で、個人の特定はできないとのことですね。
- ・高齢者すぎてよく分かりません。参考にならないからアンケートの抽出の方法から考えてください。
- ・自分が暮らしている場所は平和です。困りごともないです。
- ・初頭に男性は男性としての役割がある、女性は女性としての役割がある、そのことを踏まえて男女共同参画を行ってこそ成り立つのではないかと思う。
- ・大変と思いますが、政策決定の場に参加しやすいように、また、参加するメリットを考えたらと思います。今はもう結婚をするときに男性が家事及び育児に参加をしないと結婚は難しくなると聞いております。私もそう思い賛成ですね。お疲れ様ですが、頑張ってくださいね。
- ・男女共同うんぬんの前に、若い家族が老人家族の隣に転入して来られたとき、老人に対し若い人は乱暴な言葉で圧力をかけて、市全体で協力しているゴミ出しや協力ごとに協力せず、自分流の生き方を主張される。男女共同以前に老若共同を考えてほしい。老人家庭が多く若い人の家庭が少ないので、若い人の家庭からの圧力があり、老人は困っているのです。
- ・男女共同参画がいわれて久しいですが、なかなか進展しないですね。何か規制をかけて前進するしか早道はないようですね。
- ・男女共同参画はいいことですが、私たちは老人であるし、老人会で月に1回サロンをしていますが、今はコロナで集会もできず家で畑の守りをしているけれど、それもしんどくなった。若い者は勤め、日曜日には地域の仕事等に若い者も忙しい。男女共同参画の広報で月に1回でいいから啓発活動も充実したほうが、目を通すだけでもこんなことがあるのだと、だんだんと参画するのでは。

- ・何しろ高齢で、十分参加できなくてごめんなさい。これから男女共同参画は大切です。しっかり皆、参加して勉強できるよう望みます。
- ・年齢 84 歳、独り暮らしです。無作為に抽出されたそうですが、私たちには、あまり関係がないようです。子どもたちの生活を頭に浮かべて○印を書いたぐらいです。今からの人は頑張ってください。
- ・年齢が百歳を過ぎているため、書いてあること等、自分では読めませんのでアンケートは十分なことはできません。書類発送前に年齢のことを考えてください。
- ・若いときにこの共同参画の勉強会に進んで参加していないので、このアンケートは難しく感じました。男女それぞれその人が持っているものを生かして、互いに活動できる場をつくってください。
- ・私は 97 歳です。今からどう生きていけば、子どもと孫 3 人生活福祉はどうしたらいいかと考えています。
- ・18 歳以上の市民の中から無作為に抽出したと書いてありますが、90 歳をすぎた高齢者にはよく分かりません。

庄原市 男女共同参画に関する市民アンケート調査

【ご協力をお願い】

市民の皆様には、日頃から市政にご理解とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

庄原市では「第2次庄原市男女共同参画プラン」に基づき、男性も女性も、共に責任を分かち合い、個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現を目指して、様々な施策に取り組んでいます。

この調査は、計画の見直しに当たって、18歳以上の市民の皆様の中から無作為に抽出した方に、男女共同参画に関するご意見等をお伺いし、計画づくりに向けての基礎的な資料とさせていただくことを目的として実施するものです。

お忙しいところ誠にお手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和3年7月

庄原市長 木山 耕三

記入に当たってのお願い

- 1 封筒の宛名の本人がお答えください。病気や身体の不自由などの理由で記入が難しい場合は、家族や介護者の方などが、本人の意向を尊重して、無理のない範囲で代筆してください。
 - 2 回答は、あてはまると思う番号を○で囲んでください。また、各設問文にある（○印1つ）（○印いくつでも）などに注意して記入してください。
 - 3 令和3年7月1日現在の内容をお答えください。
- ※ 回答は無記名であり、統計的に処理しますので、プライバシーの保護はもとより、本調査の目的以外に利用することはありません。

【調査に関する問い合わせ先】

庄原市 生活福祉部 市民生活課
〒727-8501 広島県庄原市中本町一丁目10-1
電話（0824）73-1154

この調査票は、**8月2日（月曜日）**までに、同封の返信用封筒に入れて、返送してください（切手は不要です）。



1 あなたご自身（宛名のご本人）のことについておたずねします

問1 あなたの性別をお答えください（回答しにくい場合は「3」に○印をつけてください）。
（○印1つ）

- 1 男性 2 女性 3 その他

問2 あなたの年齢をお答えください。（○印1つ）

- | | | | |
|-----------|------------|------------|-----------|
| 1 18～24 歳 | 2 25～29 歳 | 3 30～34 歳 | 4 35～39 歳 |
| 5 40～44 歳 | 6 45～49 歳 | 7 50～54 歳 | 8 55～59 歳 |
| 9 60～64 歳 | 10 65～69 歳 | 11 70～79 歳 | 12 80 歳以上 |

問3 あなたの職業をお答えください。（○印1つ）

自営業 （経営主又は 共同経営者）	1 農林水産業 2 商工・サービス業 3 自由業（開業医・弁護士等）	
自営業 （家族従業者）	4 農林水産業 5 商工・サービス業 6 自由業（開業医・弁護士等）	
勤め人	7 正社員・正職員 8 公務員・団体職員 9 パート・アルバイト・派遣など	付問「7」「8」と答えた方のみにおたずねします。あなたは管理職ですか。 1 管理職である 2 管理職ではない
その他	10 内職・在宅就業 11 家事専業 12 学生 13 無職 14 その他（ ）	

問4 あなたは結婚をしていますか（事実婚・パートナーを含む）。（○印1つ）

- 1 結婚している
- 2 結婚していたが、離別・死別した ---- → 問6へお進みください
- 3 結婚していない ----- → 問6へお進みください

問5 【問4で「1」と答えた方のみにおたずねします。】

あなたと配偶者（パートナー）は、共働き（パート・アルバイト等を含む）ですか。
（○印1つ）

- 1 共働きである 2 共働きではない

問6 あなたの同居家族の構成をお答えください。(○印1つ)

- | | |
|---------------|------------------------|
| 1 独り暮らし(単身世帯) | 2 あなたと配偶者(パートナー)の二人暮らし |
| 3 親と子(二世代世帯) | 4 親と子と孫等(三世代以上同居) |
| 5 その他() | |

問7 あなたの同居家族の中に、次の方(あなた自身を含む)はいますか。(○印いくつでも)

- | | |
|----------------|-----------|
| 1 小学校入学前の子ども | 2 小学生の子ども |
| 3 介護・介助を必要とする方 | 4 いずれもない |

問8 あなたが、1日に「家事」に費やす時間はどのくらいですか。(○印1つ)

※「家事」とは、食事の準備、掃除、洗濯、買物等に加え、育児や介護も含みます。

- | | | |
|-----------|-------------|-----------|
| 1 1時間未満 | 2 1～2時間未満 | 3 2～3時間未満 |
| 4 3～5時間未満 | 5 5～7時間未満 | 6 7～9時間未満 |
| 7 9時間以上 | 8 家事には関わらない | |

2 男女の役割分担と平等意識についておたずねします

問9 あなたは、次の考え方について、どのように思いますか。(○印1つずつ)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
① 男(夫)は外で働き、女(妻)は家庭を守るほうがよい	1	2	3	4	5
② 「男は男らしく、女は女らしく」あるほうがよい	1	2	3	4	5
③ 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
④ 父親も育児休業や介護休業を取るほうがよい	1	2	3	4	5
⑤ 女性も自治振興区や自治会の役員になったほうがよい	1	2	3	4	5

問 10 あなたは、次の分野で、男女は平等になっていると思いますか。①から⑧までの項目について、それぞれお答えください。（○印1つずつ）

	平等 になっている	男性の方が とても優遇 されている	どちらか といえば 男性が優遇 されている	どちらか といえば 女性が優遇 されている	女性の方が とても優遇 されている	わからない
① 家庭生活では	1	2	3	4	5	6
② 就職の機会や職場（仕事の間）では	1	2	3	4	5	6
③ 自治振興区や自治会等の地域活動の間では	1	2	3	4	5	6
④ 学校教育の間では	1	2	3	4	5	6
⑤ 法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6
⑥ 政治の間では	1	2	3	4	5	6
⑦ 社会通念・慣習・しきたりなどでは	1	2	3	4	5	6
⑧ 社会全体では	1	2	3	4	5	6

3 職業生活についておたずねします

問 11 あなたは現在、収入を得る仕事をしていますか。（○印1つ）

※産前・産後休暇、育児・介護休業中も含まれます。

1 現在、仕事をしている 2 以前、仕事をしていたが現在はしていない 3 仕事をしたことはない ----- → 問 18 へお進みください

問 18 あなたは、一般的に女性が仕事をする事について、どのように思いますか。あなたのお考えに最も近いものをお答えください。(○印1つ)

- 1 女性は仕事をしない方がよい
- 2 結婚するまでは仕事をする方がよい
- 3 子どもができるまでは仕事をする方がよい
- 4 子どもができて、ずっと仕事をする方がよい
- 5 子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をする方がよい
- 6 その他（ ）

問 19 あなたは、男女が共に仕事と生活を両立するためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(○印5つまで)

- 1 「ノー残業デー」の導入等による労働時間の短縮
- 2 年次有給休暇取得の促進（計画的取得、連続取得、完全消化の奨励等）
- 3 育児や介護のための休暇や制度の利用が、きがねなくできる職場環境づくり
- 4 職場内での保育施設の整備
- 5 家庭事情等を考慮した配置転換
- 6 育児・介護休業中の給付金の充実
- 7 事業所や家族の中での「男は仕事優先、女は家庭優先」等の意識変革
- 8 家族一人にかかる家事や育児、介護の負担軽減
- 9 仕事と家庭の両立に取り組む企業への経営上のメリットがある制度の導入等
- 10 市の保育サービスや高齢者等の介護サービスの充実
- 11 在宅ワーク等家庭でも仕事ができる環境づくり
- 12 その他（ ）
- 13 わからない
- 14 特にない

4 家庭生活についておたずねします

問 20 あなたの家庭では、次にあげる家庭内の仕事を主に誰が担っていますか。

(○印1つずつ)

	主に夫又は父	主に妻又は母	夫婦又は 父母が協力して	その他の人	する必要がない・ わからない
① 生活費を得る	1	2	3	4	5
② 日常の家事（食事のしたく・掃除・洗濯など）	1	2	3	4	5
③ 日常の家計の管理	1	2	3	4	5
④ 家族の介護や看護	1	2	3	4	5
⑤ 子育て（育児・しつけなど）	1	2	3	4	5
⑥ 自治振興区や自治会等地域活動への参加	1	2	3	4	5

問 21 今後、男性が女性と共に家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○印3つまで）

- 1 夫婦や家族間でよく話し合うこと
- 2 男性が家事・育児等に参加することに対する抵抗感をなくすこと
- 3 年配者や周りの人が、夫婦の役割分担等についての考え方を尊重すること
- 4 家事、子育て、介護、地域活動の評価を高めること
- 5 労働時間短縮や育児・介護等の休暇制度を普及すること
- 6 家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
- 7 国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
- 8 子育てや介護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）づくりを進めること
- 9 家庭や地域活動と仕事の両立等について、男性が相談しやすい窓口を設けること
- 10 その他（ ）

問 22 新型コロナウイルス感染症の拡大による、あなたの生活への影響について、次にあげる項目それぞれについてお答えください。（〇印1つずつ）

（〇印1つずつ）	変化が あった	変化は なかった
① 働く場所や勉強する場所（在宅ワーク、オンライン授業等） --- →	1	2
② 働く時間や勉強時間（時差出勤、短縮授業等） ----- →	1	2
③ メンタルヘルス※（精神的、心理的な状態） ----- →	1	2

※ 「メンタルヘルス」とは「心の健康」という意味で、精神的、心理的な健康状態のこと。「心の健康」が不調になると、悩みやストレスを感じやすくなるとともに、放置しておくとうつ病などの精神疾患を引き起こしやすいと言われている。

（〇印1つずつ）	増えた	減った	変わらない
④ 家族と過ごす時間----- →	1	2	3
⑤ 一人で過ごす時間----- →	1	2	3
⑥ 友人・知人と過ごす時間 ----- →	1	2	3
⑦ 外出する頻度----- →	1	2	3
⑧ パソコンやタブレット・スマートフォンを使う時間 -- →	1	2	3
⑨ SNSなどでの交流頻度 ----- →	1	2	3
⑩ 収入（給料・ボーナスなど） ----- →	1	2	3
⑪ 支出（食費・交際費など） ----- →	1	2	3

5 地域活動についておたずねします

問 23 あなたは、次のような活動に参加していますか。（〇印いくつでも）

- 1 自治振興区や自治会、女性会、老人会、青年会、PTA、子ども会等の活動
- 2 趣味や教養、文化芸術、スポーツ、レクリエーションに関する活動
- 3 リサイクル、環境保護、まちづくり等の活動
- 4 健康づくり、福祉、ボランティア、NPO等の活動
- 5 消防、防災、防犯、交通安全等の地域活動
- 6 職業技術や資格の取得に関する活動
- 7 ホームステイ受け入れや海外ボランティア等国際交流活動
- 8 行政の各種委員会や審議会の委員等の公的活動
- 9 その他（ ）
- 10 参加していない

6 暴力等の防止についておたずねします

問 25 あなたは、次の①から③までの行為について、最近3年ぐらいの間に、経験したり、身近で見聞きしたりしたことがありますか。（○印それぞれいくつでも）

下記の「用語の解説」もお読みください。	自分が被害を受けたことがある	自分のまわりに被害を受けた人がいる	被害について相談を受けたことがある	自分が被害を与えたことがある (与えたかもしれない)	被害を受けたり、与えたりしたことはない (見聞きしたことはない)
① セクシュアルハラスメント（セクハラ）	1	2	3	4	5
② パワーハラスメント（パワハラ）	1	2	3	4	5
③ マタニティハラスメント（マタハラ）	1	2	3	4	5

用語の解説

① セクシュアルハラスメント（セクハラ）

- ・職場などにおいて、相手の望まない性的な言動のこと（性的嫌がらせ）。相手は異性に限らず、同性同士でも起こる場合があります。

② パワーハラスメント（パワハラ）

- ・職場などにおいて、職務上の地位や人間関係などといった権力（パワー）を利用して、精神的、身体的苦痛を与える行為や職場環境を悪化させる嫌がらせ行為のこと。ただし、業務上必要な指示や注意、指導などはパワハラにはあたりません。

③ マタニティハラスメント（マタハラ）

- ・職場などにおいて、働く女性が妊娠や出産を理由に精神的、肉体的な苦痛を受ける嫌がらせ行為のこと。妊娠や出産を理由とした解雇、雇用契約の変更などもマタハラにあたります。

問 26 あなたは、次のようなことが夫婦や恋人・パートナーの間で行われたとしたら、それは暴力（ドメスティック・バイオレンス）だと思いますか。（○印1つずつ）

	どんな場合でも 暴力だと思う	暴力にあたる場合 も、そうでない場合 もあると思う	夫婦や恋人の間なら 暴力にあたるとは思 わない	わからない
① 平手で打つ	1	2	3	4
② 足で蹴る	1	2	3	4
③ 身体を傷つける可能性のある物で殴る	1	2	3	4
④ 殴るふりをして、おどす	1	2	3	4
⑤ 嫌がっているのに性的な行為を強要する	1	2	3	4
⑥ 長期間無視し続ける	1	2	3	4
⑦ 友人や実家との付き合いを制限し、夫婦や恋人と 過ごすことを優先させる	1	2	3	4
⑧ 「だれのおかげで生活できるんだ」又は「かいしょ うなし」等と言う	1	2	3	4
⑨ 大声でどなる	1	2	3	4
⑩ いつも「こんなこともできないのか」「何も任せ られない」等と非難する	1	2	3	4
⑪ 相手の携帯電話を無断でチェックする	1	2	3	4

用語の解説

ドメスティック・バイオレンス（DV）とは

- ・夫婦や恋人などの親密な関係にある（あった）パートナーから振るわれる暴力のこと。
- （1）身体的暴力（殴る、蹴る、首を絞める、髪を引っ張る など）
- （2）精神的暴力（大声でどなる、無視する、大切にしているものを壊す など）
- （3）経済的暴力（生活費を渡さない、外で働くことを邪魔する など）
- （4）性的暴力（性行為を強要する、避妊に協力しない、妊娠中絶を強要する など）
- （5）社会的隔離（勝手にメールなどを見る、家族や友人との付き合いを制限する など）
- （6）子どもを巻き込んだ暴力（子どもの前で暴力を振るう、ばかにする など）

問 27 あなたは、最近3年ぐらいの間に、ドメスティック・バイオレンス（DV）を身近で経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。（○印いくつでも）

- 1 自分が被害を受けたことがある
- 2 自分のまわりに被害を受けた人がいる
- 3 被害について相談を受けたことがある
- 4 自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）
- 5 被害を受けたり、与えたりしたことはない
- 6 自分はないが、見聞きすることはある

→ 問 29 へお進みください

問 28 【問 27 で「1～2」と答えた方のみにおたずねします。】

あなたは、被害を受けたことを、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
（○印いくつでも）

- 1 家族や親戚
- 2 友人や知人
- 3 警察
- 4 医療関係者（医師、看護師等）
- 5 保育関係者（保育所長、保育士等）
- 6 学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラー等）
- 7 地域の民生委員・児童委員や人権擁護委員
- 8 市役所の相談窓口や保健・福祉等の担当者
- 9 県の相談窓口（こども家庭センター・配偶者暴力相談支援センター等）
- 10 民間の相談窓口（社会福祉協議会や電話相談等）
- 11 その他（ ）
- 12 相談しなかった

問 29 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）をなくすための対策や支援として、どのような取組が必要だと思いますか。（○印3つまで）

- 1 DVに関する広報・啓発活動を積極的に実施する
- 2 家庭や地域で暴力を防止するための学習の場を充実する
- 3 学校で暴力を防止するための学習の場を充実する
- 4 被害者が相談しやすい環境づくりや相談窓口を充実する
- 5 被害者のカウンセリングなど、精神的な支援を充実する
- 6 被害者の一時保護を行う緊急避難場所（シェルター）を充実する
- 7 被害者家庭の子どもへのサポートを充実する
- 8 加害者の更生に向けた対策やサポートを充実する
- 9 雑誌やインターネットなど暴力を助長する恐れのある情報を取り締まる
- 10 その他（ ）

7 男女共同参画の取組についておたずねします

問 30 庄原市では、男女共同参画に関連するセミナーやイベント、講座などを開催しています。このうち、あなたがご存知のものをお答えください。（〇印いくつでも）

- 1 男女共同参画「笑腹（しょうばら）フェスタ」
- 2 男女共同参画に関する講演会（啓発セミナー・エンパワメント講座等）
- 3 男女共同参画に関する講座や座談会（ファミリング講座・地域講座等）
- 4 女性会等の団体やグループが主催する男女共同参画に関する講座や講演会
- 5 子育てに関する講座や講演会
- 6 DV や児童虐待に関する講座や講演会
- 7 知っているものはない

問 31 あなたは、今後、市が開催する人権や男女共同参画に関するセミナー・イベント、生涯学習などに参加（観覧）してみたいと思いますか。（〇印1つ）

- | | |
|------------------|---------------|
| 1 是非参加したい | 2 機会があれば参加したい |
| 3 あまり参加したいとは思わない | 4 参加しない |

問 32 あなたは、次にあげる男女共同参画に関する用語の意味をご存知ですか。（〇印1つずつ）

	よく知っている	少しは知っている	言葉（名称）は知っている	全く知らない
① 男女共同参画社会 ・男女が互いに人権を尊重しつつ、責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮できる社会のこと。	1	2	3	4
② 女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律） ・働く場面で活躍したい全ての女性が、その個性と能力を十分に発揮できる社会を実現するため、事業主に数値目標を盛り込んだ行動計画の策定や情報の公表などを義務付けた法律のこと。	1	2	3	4
③ ポジティブ・アクション ・例えば「営業職に女性がほとんどいない」「管理職は男性が大半を占めている」など、男女労働者の間に事実上の差が生じているとき、それを解消するため企業等が行う自主的かつ積極的な取組のこと。	1	2	3	4

	よく知っている	少しは知っている 内容（意味）を	言葉（名称）は 知っている	全く知らない
④ <u>ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）</u> ・「仕事」と「仕事以外の生活（育児や介護、趣味、学習、地域活動等）」とのバランスをとり、その両方を充実させる働き方、生き方のこと。	1	2	3	4
⑤ <u>性的マイノリティ「LGBT（Q+）」</u> ・性的な少数者という意味を示し、例えば、性別に違和感を抱えている人や、恋愛感情などが異性に向かう多数派ではない人、身体的な性別や性自認が不明瞭な人などのこと。 ・L（レズビアン）：女性の同性愛者 ・G（ゲイ）：男性の同性愛者 ・B（バイセクシュアル）：両性愛者 ・T（トランスジェンダー）：身体と心の性が一致しない人 ・Q（クエスチョニング、クィア）：自認する性が定まらない人などの総称 ・+（その他）	1	2	3	4

問 33 あなたは、男女共同参画を積極的に進めるために、行政はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（○印5つまで）

- 1 男女共同参画の広報・啓発活動を充実する
- 2 人権や個人の尊重についての啓発や情報提供を充実する
- 3 L G B T（Q+）など、多様な性に対する理解を促進する
- 4 学校での男女共同参画についての教育を充実する
- 5 社会教育など生涯学習の場で男女共同参画についての教育を充実する
- 6 D Vや虐待などの問題について、相談しやすい体制づくりを進める
- 7 D V等により人権を侵害された被害者を支援する取組を進める
- 8 市が開催する会議など、政策決定の場に女性を積極的に登用する
- 9 女性を対象とした人材育成のための取組を進める
- 10 企業等に対して、性別にかかわらず働きやすい職場づくりを促進する
- 11 誰もが参加しやすい地域活動やボランティア活動を促進する
- 12 男女共同参画推進に取り組む住民活動を支援する
- 13 外国人など多様な人との交流など、多文化共生の理解を進める
- 14 ライフステージに応じた生涯にわたる健康づくりを進める
- 15 育児や家庭生活などに、男性の積極的な参加を促進する
- 16 育児や介護に対する支援体制を整備・充実する
- 17 ひとり親家庭、高齢者、障害者、外国人が安心して暮らせる施策の充実
- 18 その他（
- 19 特にない

問 34 男女共同参画についてのご意見・ご要望など、どのようなことでもご自由にお書きください。

[illegible]

～ご協力ありがとうございました～

庄原市 男女共同参画に関する市民アンケート調査
報告書

発行／令和3年10月
発行者／庄原市 生活福祉部 市民生活課
〒727-8501 広島県庄原市中本町一丁目10-1
電話（0824）73-1154
